

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

クローズアップ Close-up

〈模写折り〉のすすめ

Modeling on Predecessors

小松英夫

Komatsu Hideo

展開図折りに挑戦! Crease Pattern Challenge!

二輪車

Motorcycle

板垣悠一

Itagaki Yuichi

折り図 Diagrams

カニ

Crab

ジェイソン・クー

Jason Ku



つまみおり Information

第19回折紙探偵団コンベンション参加募集開始

Registration Information for the 19th Origami Tanteidan Convention

第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議 東京開催決定

The 6th International Meeting of Origami Science, Mathematics and Education to Be Held in Tokyo

通巻 **139** 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、知的財産権等の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies of the intellectual property rights, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOLS FOR FOLDING

谷折り線

Line indicating valley fold

山折り線

Line indicating mountain fold

手前に折る

Fold paper forwards

後ろへ折る

Fold paper backwards

折り筋をつける

Making a crease line

段折り

Pleat fold



裏返す

Turn paper over



引き出す

Pull out



図の見る位置が変わる

Rotation



図が大きくなる

A magnified view



見えないところ

A hidden line



押す、押しつぶす

Push paper in



切る

Cut

二輪車

Motorcycle

作: 板垣悠一 (P.38)

by Itagaki Yuichi (P.38)

■どこことなくノスタルジックな雰囲気をもっている、無骨ながらもやわらかみのあるデザイン。しかし、というかやはりその内部構造は非常に高密度。「このような形の部品には、このぐらいの面積・蛇腹のマス目が必要だろう」という感覚、それを絶妙に統合する技能やセンス。これらの能力を高い水準で身につけた若手が増えてきていると思います。

(解説: 北條高史) Comments: Hojyo Takashi



Motorcycle: Itagaki Yuichi

クローズアップ / Close-up

P.11 <模写折り>のすすめ

Modeling on Predecessors

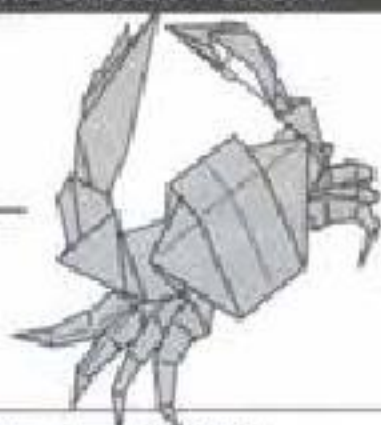
小松英夫
Komatsu Hideo

折り図 / Diagrams and Crease Pattern

P.26 カニ

Crab

ジェイソン・クー
Jason Ku



P.38 展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge!

二輪車

Motorcycle

板垣悠一
Itagaki Yuichi

カラーページ / Color

P.20 オリガミ・フォトギャラリー

Origami Photo Gallery

今号の折り図・展開図掲載作品より
Models Based on Diagrams and Crease
Patterns of This Issue

解説・北條高史
Comments: Hojyo Takashi

折り図 / Thematic Series with Diagrams

P.4 うず組みの世界

The Spiral Module Series

苺ケーキ
Gâteau aux fraises

川崎敏和
Kawasaki Toshikazu

P.8 おりがみ我楽多市

Origami Odds and Ends

もみじの箸袋
Chopstick Envelope (Maple)

やまぐち真
Yamaguchi Makoto

読み物 / Articles

P.14 蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

今さらながら、「何で正方形?」と問うてみると、
Why a Square in the First Place?

笠原邦彦
Kasahara Kunihiko

P.16 折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

紙工芸 技法大事典 (上巻、下巻)
An Encyclopaedia of Paper Craft Techniques (Vols. 1-2)

三谷 純
Mitani Jun

P.18 ぼくらは折紙探偵団

Here We Are, THE ORRRIGAMI TANTEIDAN

OSME の誕生から
History of OSME

三浦公亮
Miura Koryo

P.39 ペーパーフォルダーの横顔

Paper Folders on File

ハインツ・シュトロベル
Heinz Strobl

取材: ジェイソン・クー
Jason Ku

コラム / Columns

P.7 折紙三昧

Origami-Zanmai (This Origami and That)

西川誠司
Nishikawa Seiji

情報 / Information

P.40 つまみおり Rabbit Ear

第19回折紙探偵団コンベンション参加募集開始
Registration Information for the 19th Origami
Tanteidan Convention

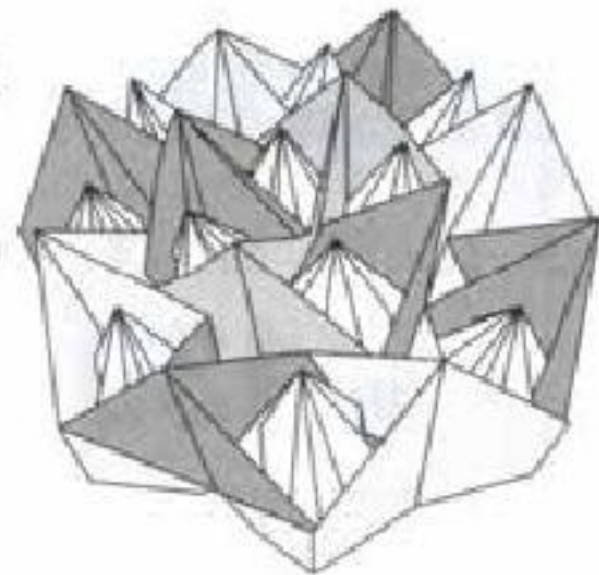
第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議 東京開催決定
The 6th International Meeting of Origami Science,
Mathematics and Education to Be Held in Tokyo

第7回 苺ケーキ

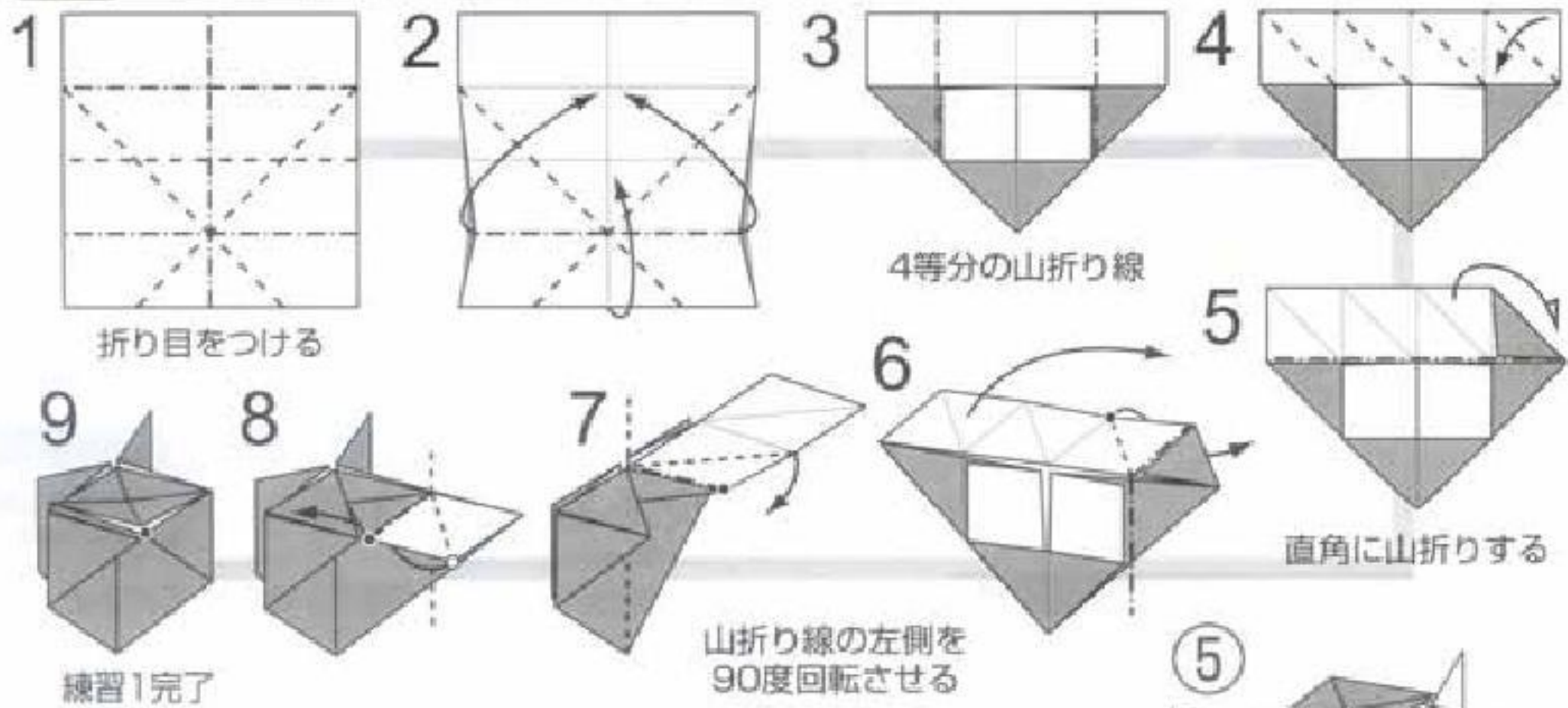
Gateau aux fraises

©2013 川崎敏和 ©2013 KAWASAKI Toshikazu

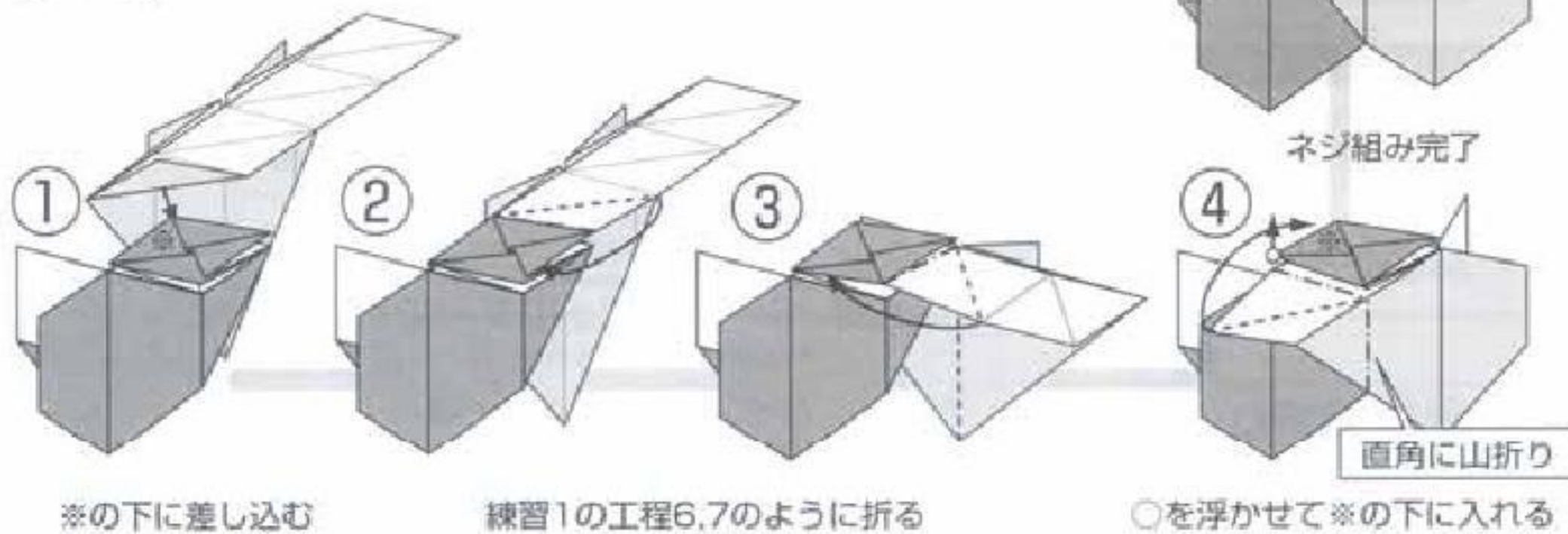
「うず組み」から派生した新技法「ネジ組み」です。



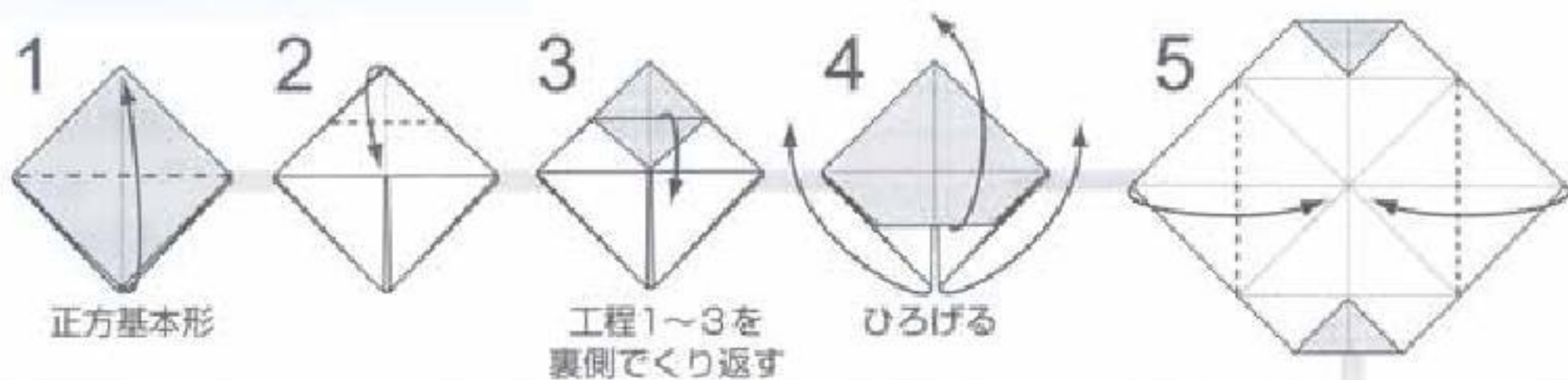
練習1 普通の色紙で「ネジ組み」を練習します。

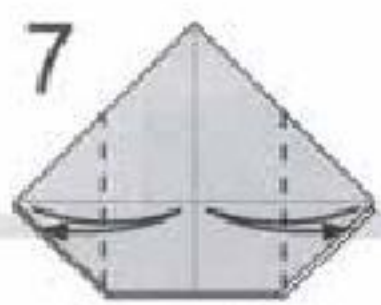
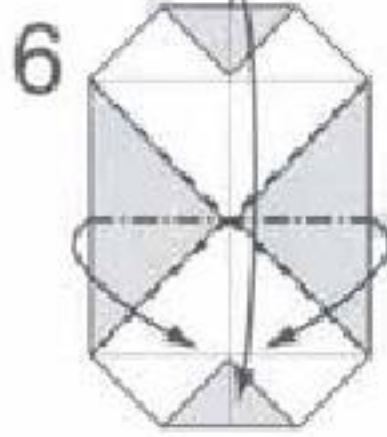


練習2 練習1の工程6と工程9を用意してください。

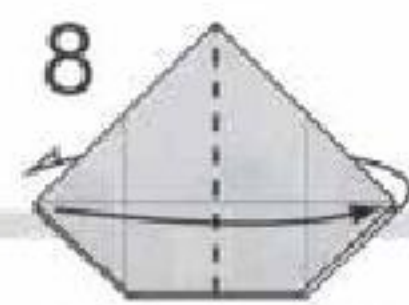


苺パーツとクリームパーツを作る 15cm角でクリームパーツは工程12まで、苺パーツは最後まで折る。

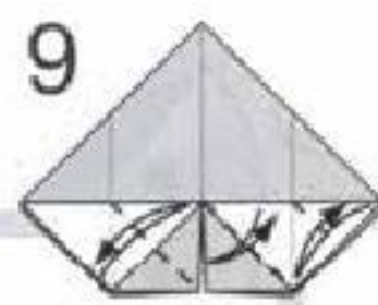




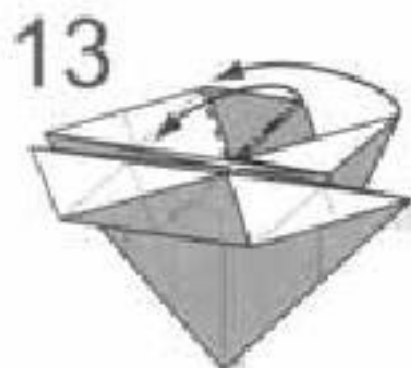
裏側も同様に折る



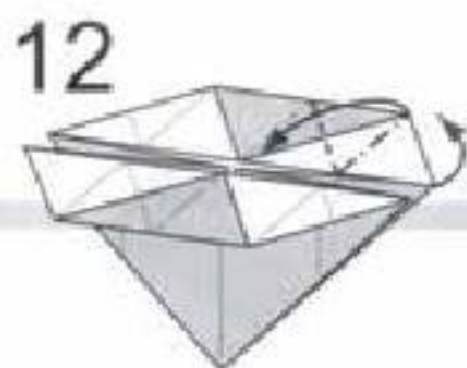
表裏1枚ずつめくる



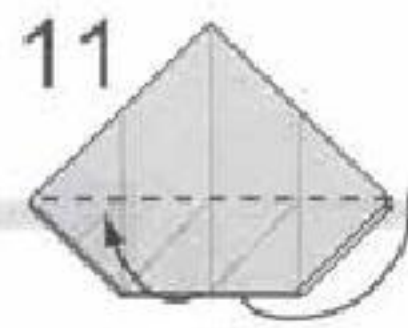
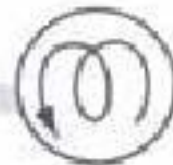
裏側も同様に折る



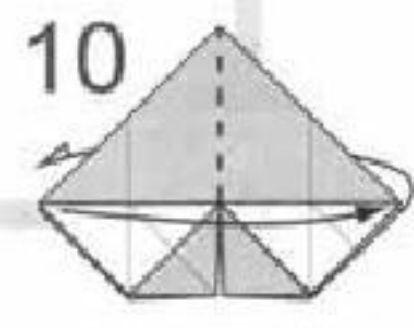
折ってかぶせる



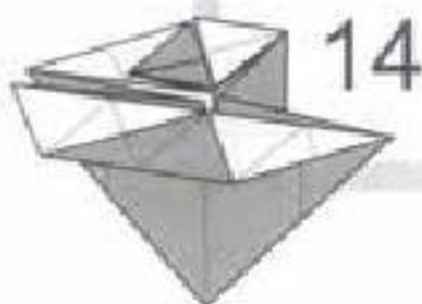
クリームパーツ完成



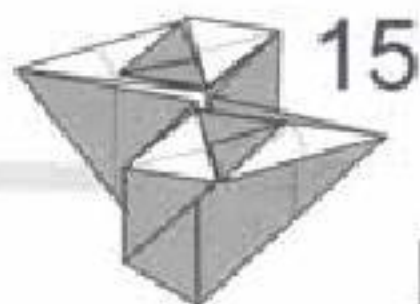
直角に折る



工程8にもどす

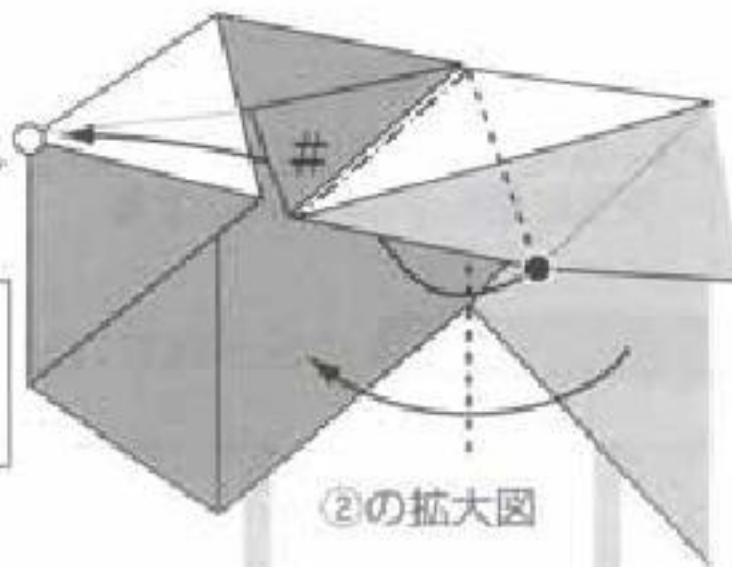


手前も同様に折る



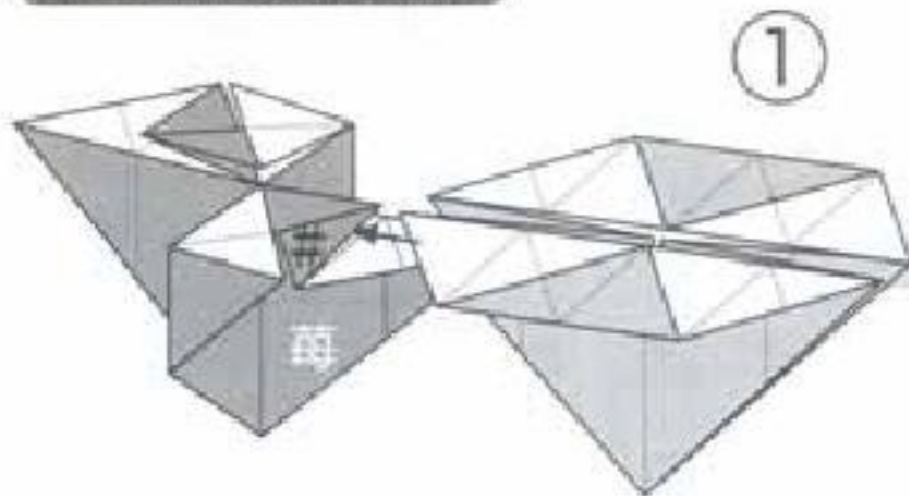
苺パーツ完成

#の下を通して
●を○に
合わせる

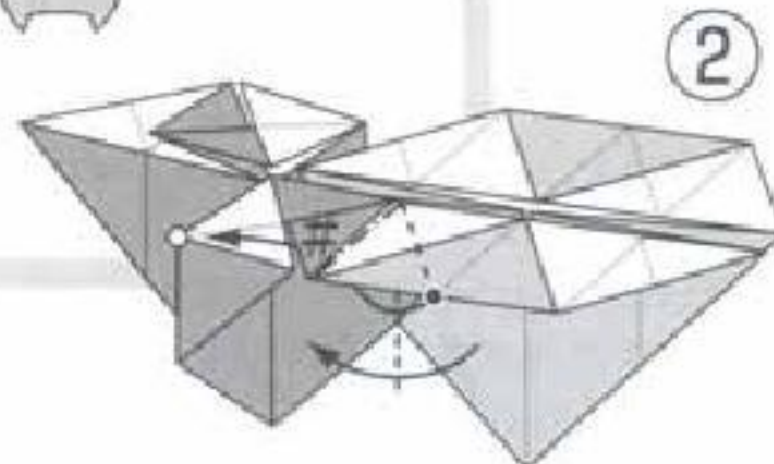


②の拡大図

パーツ4個を四角に組む

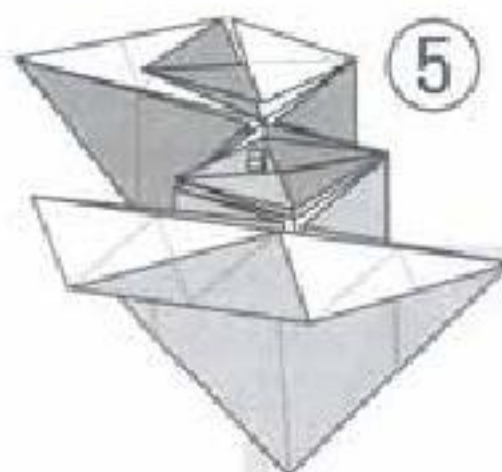


①

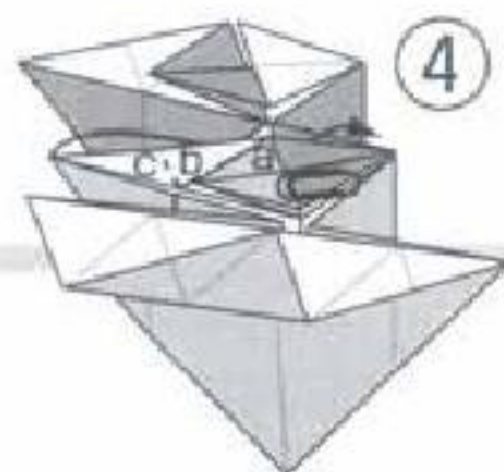


②

練習2の要領でネジ組みする

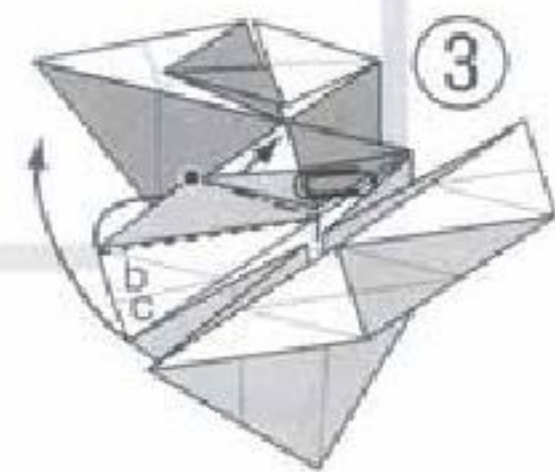


⑤

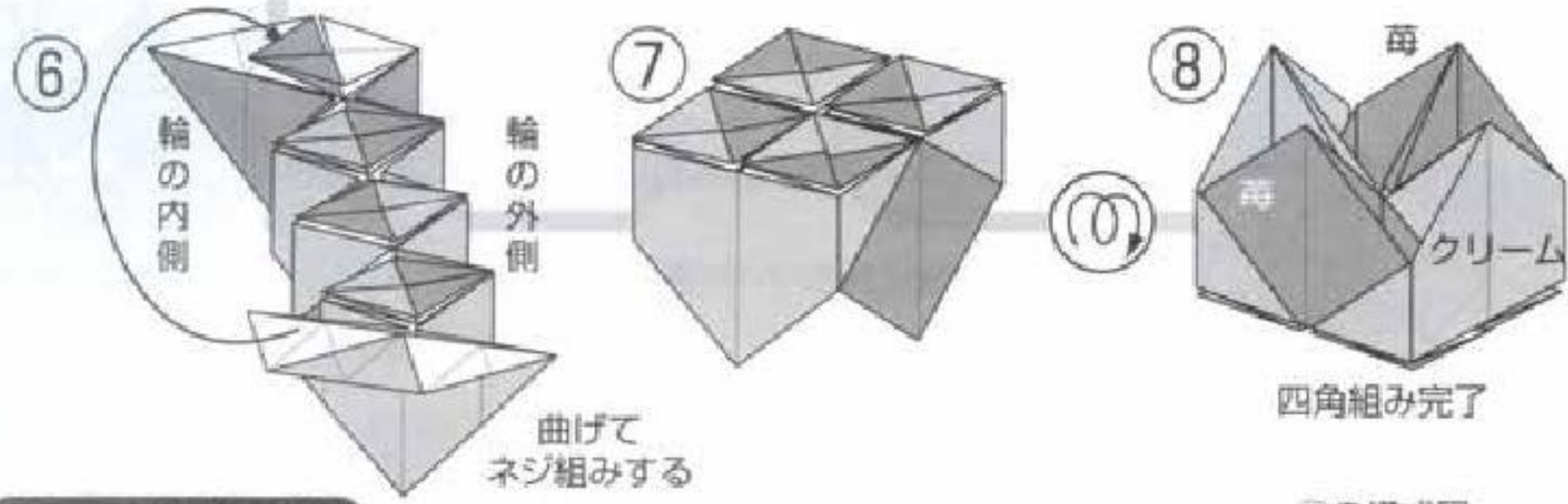


④

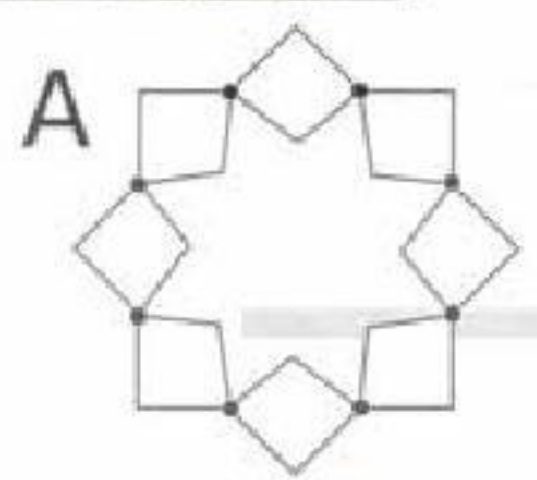
aの下に b, c を入れる



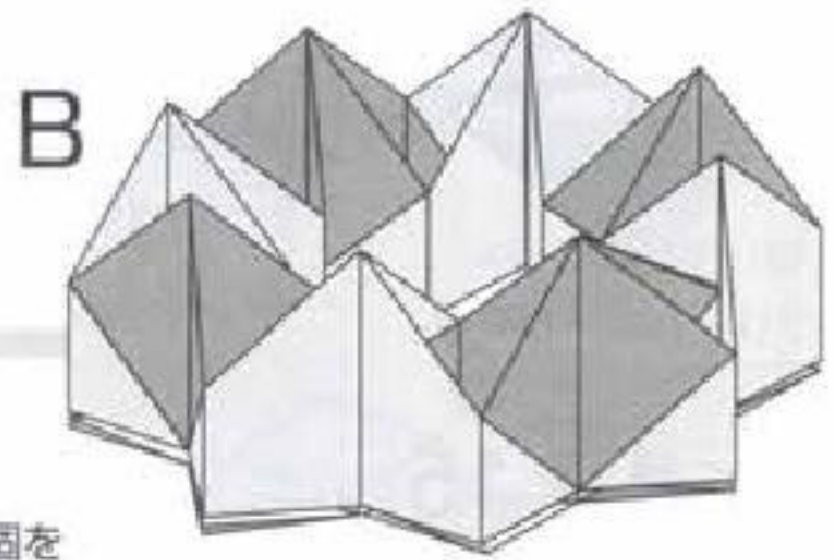
③



パーツ8個を輪に組む

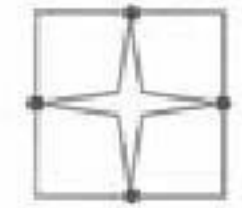


クリームパーツ4個と苺パーツ4個を交互に組んで8角の輪にする



8角の輪完成

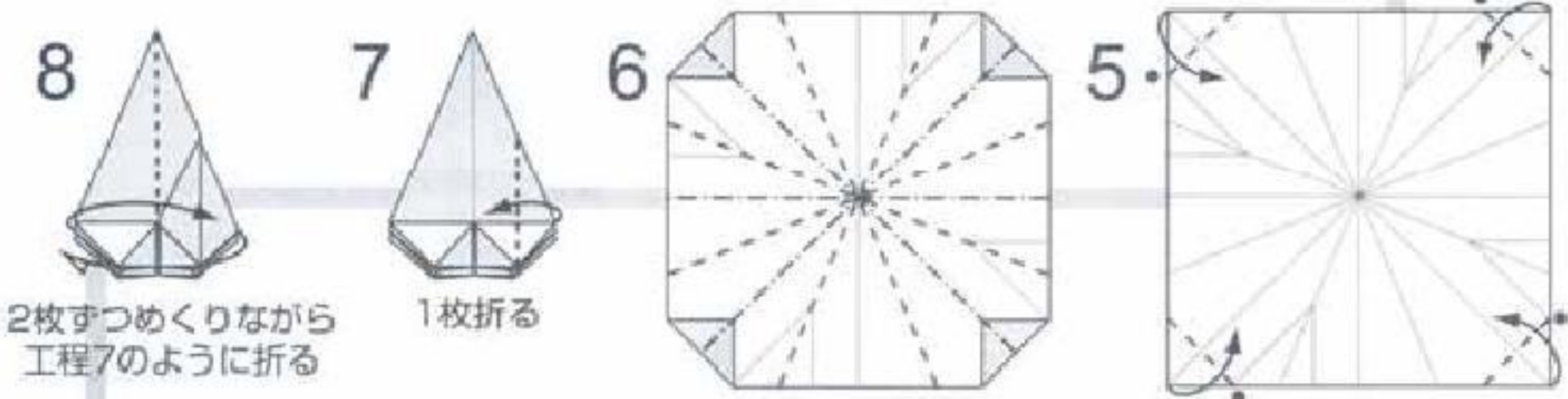
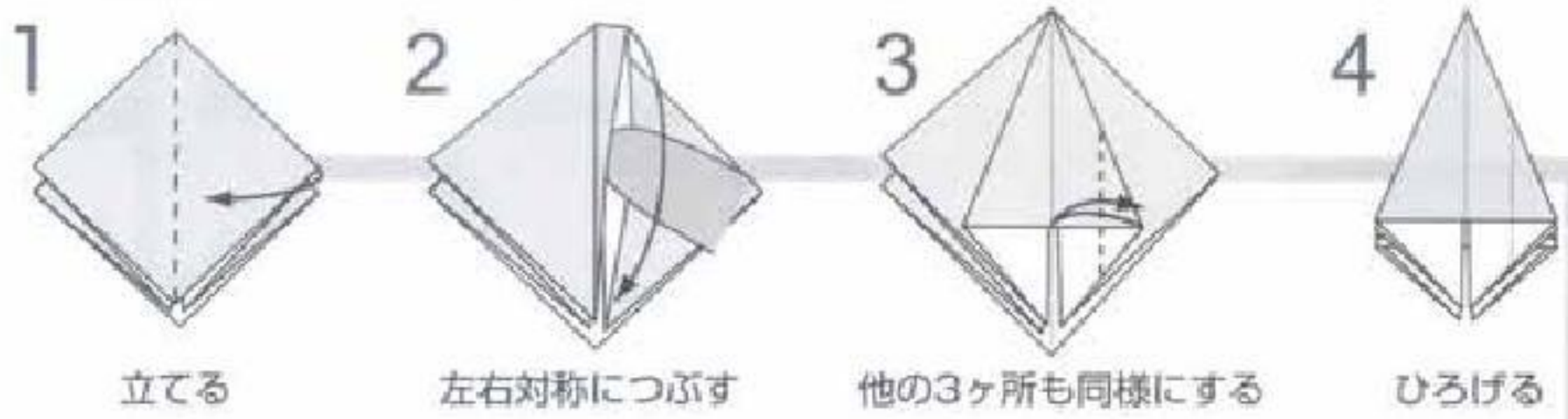
⑧の模式図



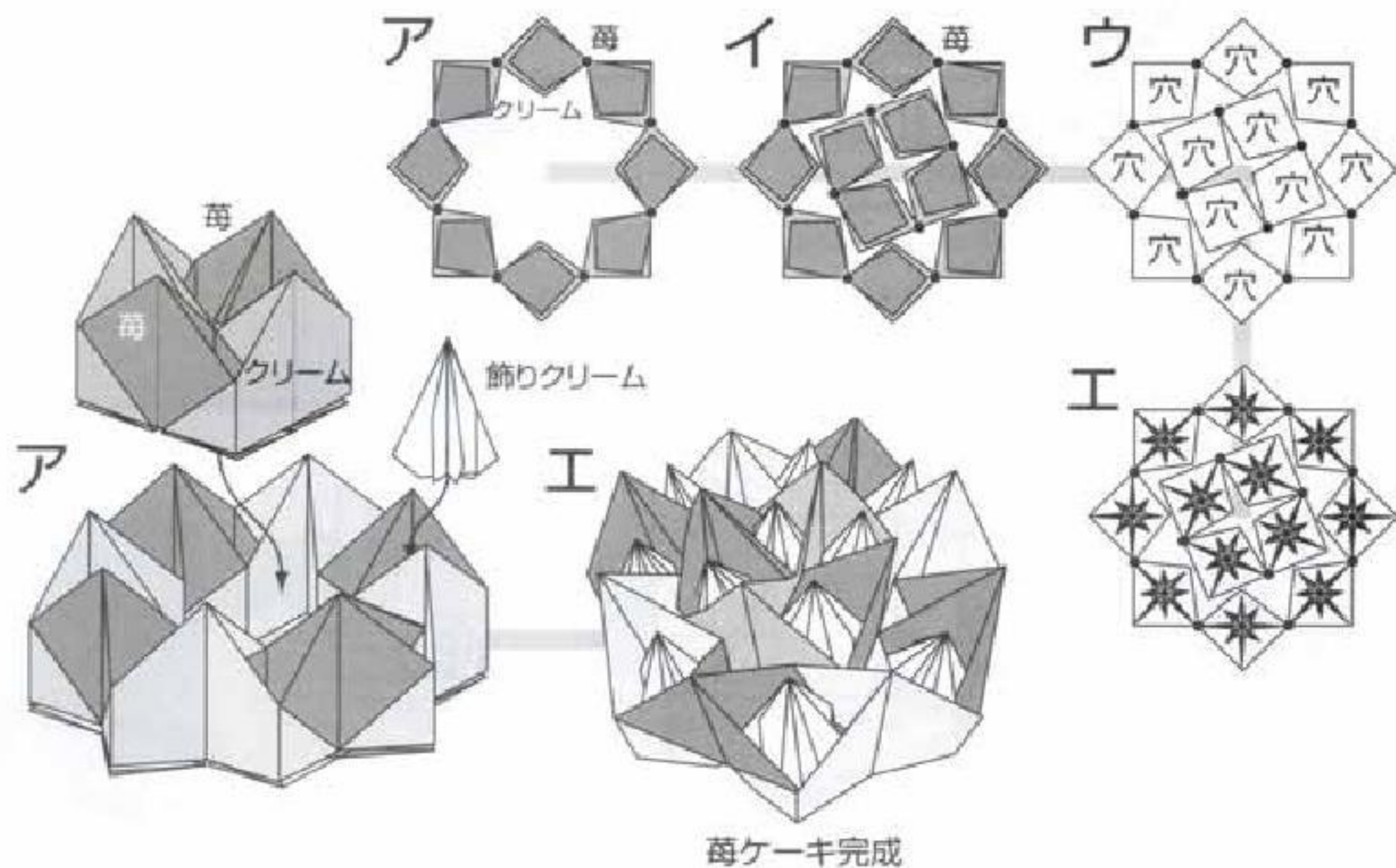
●は蝶番を表す



飾りクリームを作る 7.5cm角で12個折ります。



組み立てる 8角の輪の中に四角組みを入れてから、四角い穴に飾りクリームを入れます。



折紙三昧⁶⁴

Origami-Zanmai (This Origami and That)

関心のある方は既にご存知のことかも知れませんが、米国で折り紙著作権に関わる一つの事案が、一応の終結を得たと、訴えを起こした当事者の一人であるロバート・ラングさんのウェブサイトでレポートされています。より詳細な説明は、ラングさんのウェブサイト (http://www.langorigami.com/copyright/sarah_morris_copyright_infringement.php や <http://www.langorigami.com/blog/> や http://www.langorigami.com/copyright/sarah_morris_attributions.php) に有りますが、あらまは以下のようなものです。

2009年にラングさんは、現代美術画家サラ・モリス(Sarah Morris)氏がラングさんの折り紙作品の展開図を

折り紙著作権の進展

One Step Forward: Origami Copyrights

無断で出典も明らかとせず彩色等施し、モリス氏自身の絵画作品として発表、販売していることを知ります。日本ではそれほどでもありませんが、モリス氏は米国では知られた活動的な現代美術作家です(例えば英語版Wikipediaでは4000語以上ものモリス氏についての解説があります)。モリス氏のこの折り紙展開図シリーズは日本人折り紙作家を含む数名分、何十点にもおよんでいました。ラングさんを中心とした数名の折り紙作家とモリス氏側の数年にわたる法律家を交えた話し合いの末、和解が成立したというのが今年3月の上記ラングさんのレポートです。当事者間の和解とのことで、その内容は完全には明らかになりませんが(内容を秘匿することも合意の一

部であることはあり得ます)、少なくともモリス氏が作品の出典と折り紙作家のオリジナルの表題を明らかにすることを認めているようです。判例にこそありませんでしたが、折り紙作品のそして特定の展開図のオリジナリティーの主張が、アクティブな現代美術家を相手に成果を上げたこの事例は、今後の折り紙著作権の浸透を論じるとき重要なマイルストーンとなるでしょう。

さて、久しぶりに今年の夏の折紙探偵団コンベンションにラングさんが来てくれます。本件の苦労話や2014年の6OSMEへ向けた準備などラングさんとは議論すべきことがたっぷりあります。

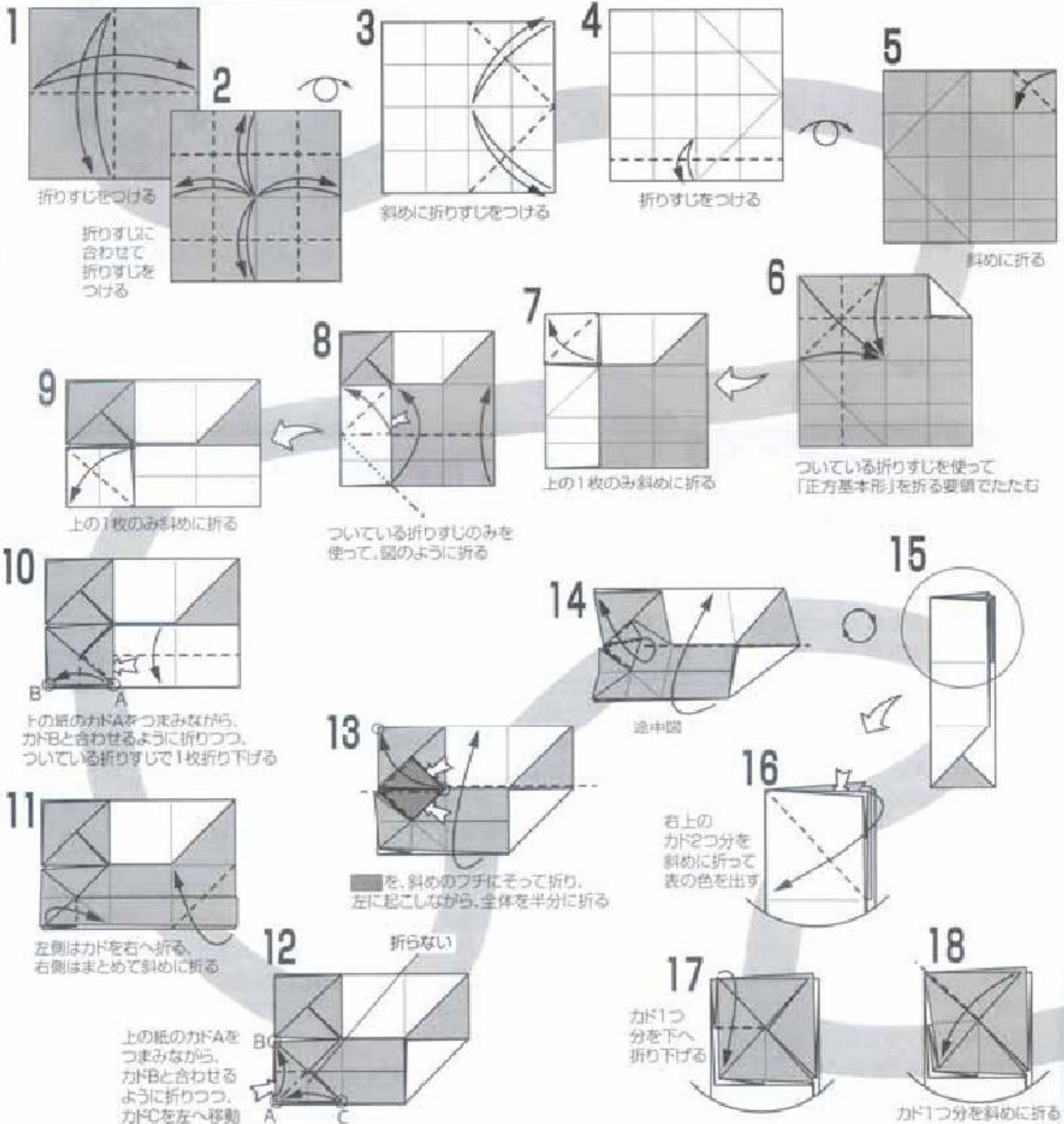
西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

第60回 もみじの箸袋 ver. 2.1

Chopstick Envelope (Maple)

作・折り図/稲吉秀尚 レイアウト/やまぐち真
Model and Diagrams by Inayoshi Hidehisa
Layout by Yamaguchi Makoto

稲吉氏は、沢山の箸袋作品を創作されていて、この作品はその中の1つです。15cm角の折り紙で折ることを想定しています。



19

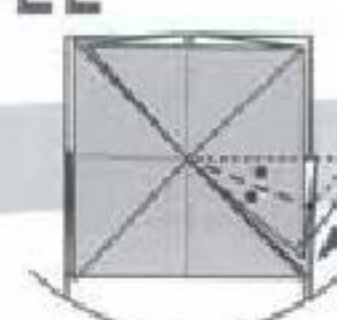
 カドAをカドBに合わせるようにしつつ、図のように紙を移動

20

 開いてつぶすように折る

21

 紙を引き出して、カドをつまみながら、折り下げる

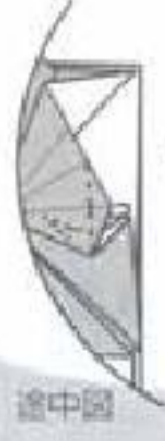
22

 角度を2等分する線で折りすじをつける

23

 22でつけた折り目を使って開いてつぶすように折る

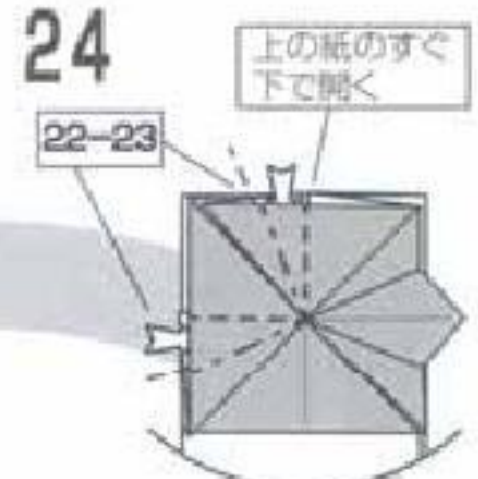
27


 図のような目安で引き寄せるように折る

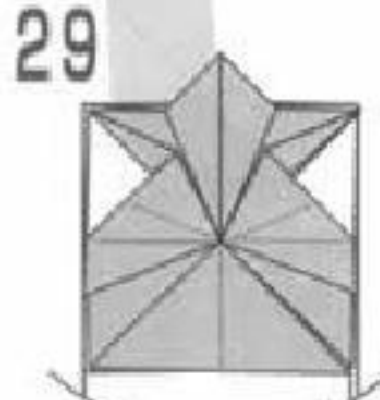
26

 裏にあるフチにそって、すぐ後ろへ山折り（間に紙を挟まないように）

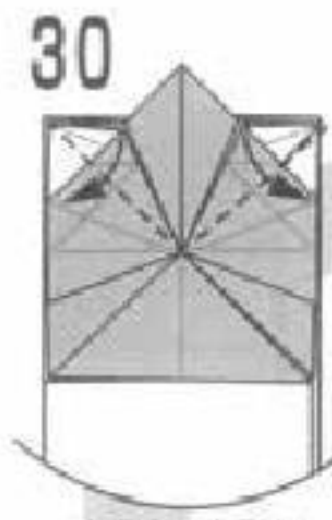
25

 紙を引き出して、斜めに段折り

24

 22-23の要領で折る（片方は隙間が2つあるが、上の紙のすぐ下で開く）

28

 折り目の山谷をつけ替えて内側に折る

29

 27の状態まで戻す

30

 左右とも上側の1枚だけ折る

31

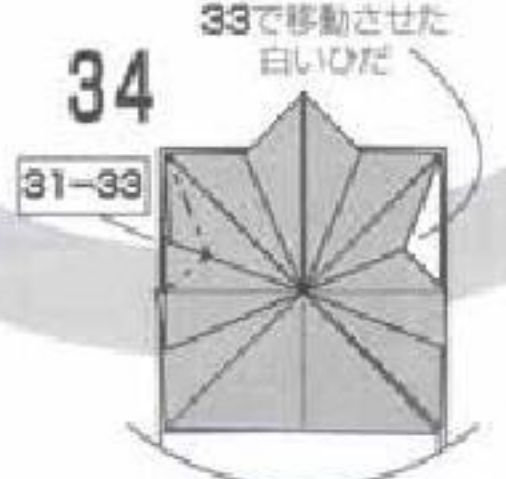
 右上あたりをめぐって、横の方（図の「目」の位置）から立体的に見る

32

 27-29でつけた折りすじで折る

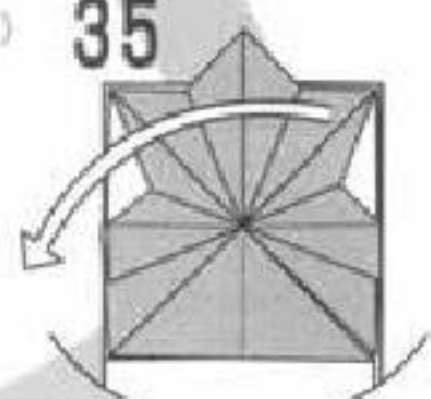
33

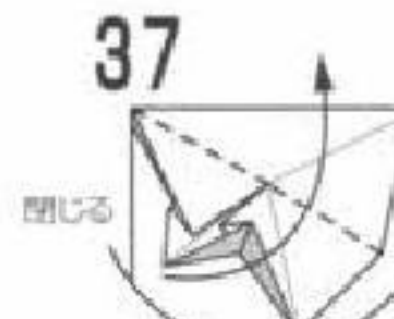
 ついている折りすじも利用して、白いひだを手前に倒してから、閉じる

34

 左側も31-33の要領で折る（ただし33と違って、白いひだは無いので移動しない）

36

 次の図も参考にカドを細くする（角度の2等分ではない）

35

 右上あたりをめぐって、立体的に見る（次の図は開いた部分だけ表現）

37

 閉じる

38

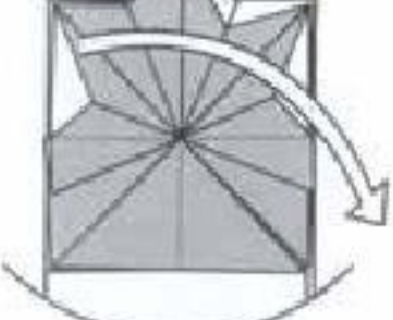
 次の図は左上の部分を図の「目」の位置から見る（ひだを線のみで表現）

39

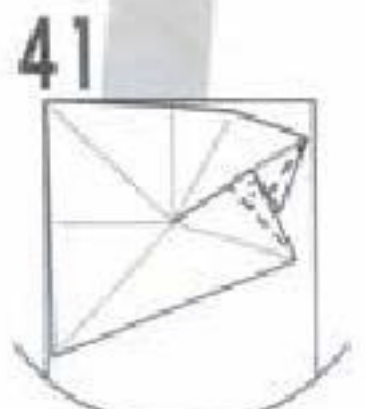


重なっているひだの内、
右側の白いひだを、
ついている折りすじを使って
板元から右の方へ移動

39で移動させた
白いひだ



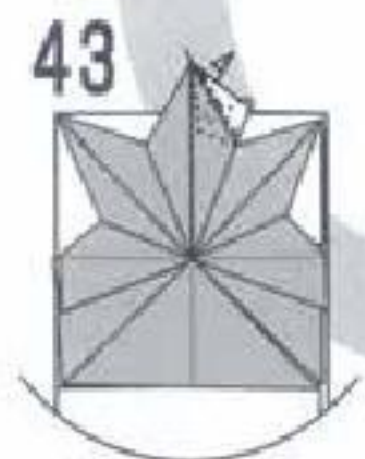
左上をめぐって
立体的に見る
(次の図は開いた
部分のみ表現)



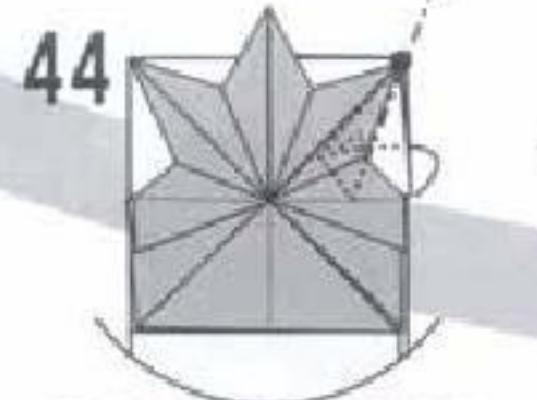
36と同じように
カドを細くする



閉じる



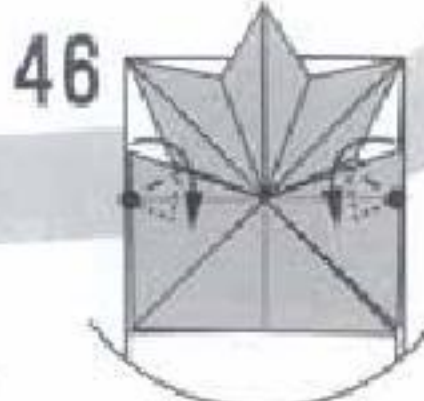
白いひだのカドを、
中わり折りで隠す



隠れている白いひだのカドを
●を支点に斜めに山折りで隠す
(右上カドが開かないようにする)

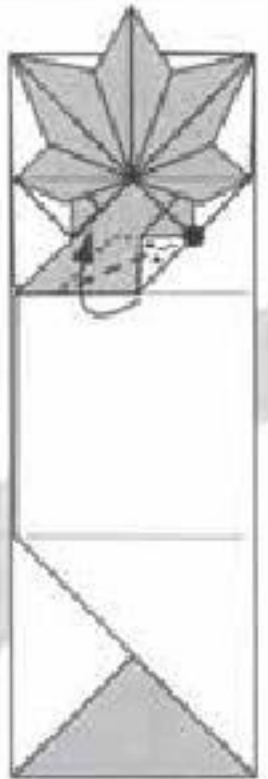


図のようにカドを折り返す



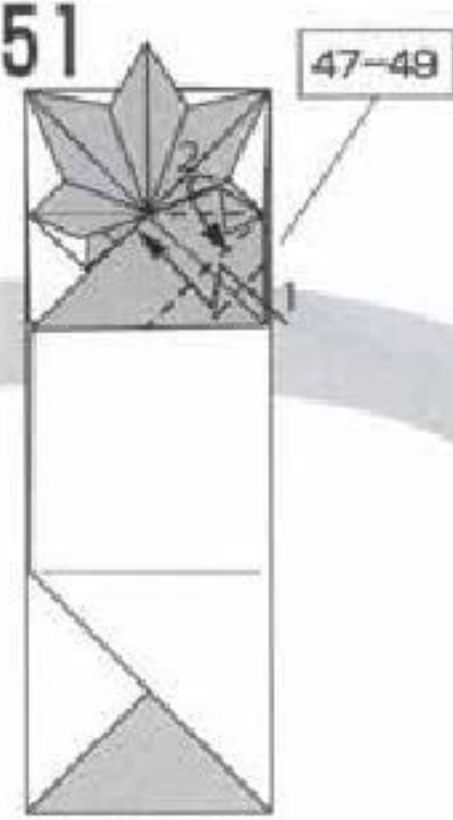
●を支点として
カドを斜めに折る
(図にある斜めの
フチに折り目を
合わせず、少し
ずらす感じで)

52



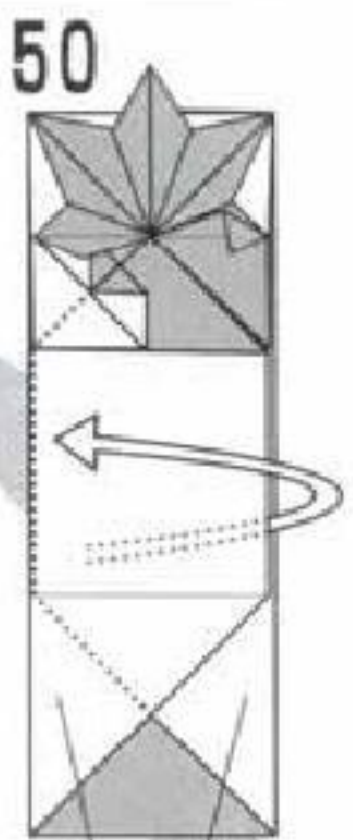
●を支点として、角度が
半分になるように折る

51



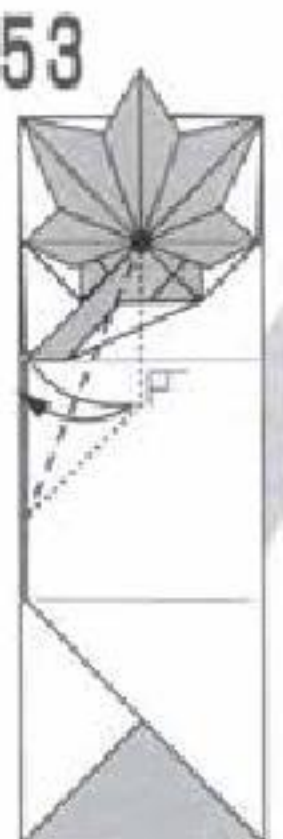
47-49の要領で
1,2の順に折る

50

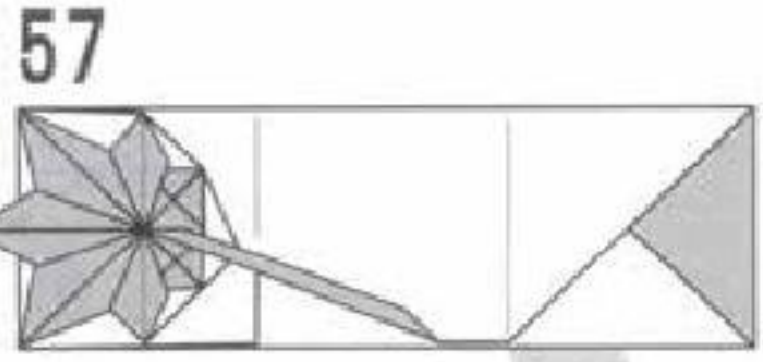


下から紙を引き出して、
紙の上下を入れ替える

53



●を支点として、図の
ような目安で、上の紙
に折りすじをつける



できあがり

49



カドを折りすじで折る



カドがフチにのるように
折り返す



カドが中央の○に合う
ように、上の紙を折る

〈模写折り〉のすすめ

Modeling on Predecessors

小松英夫

Komatsu Hideo

はじめに

一般的に、折り紙は〈再現性〉が特徴とされ、折り図に従って折り進めれば同じように完成するものとされます。とは言え、コンプレックス系折り紙になってくると、最後まで折り上げるためにはある程度のスキルが求められてきます。求められるスキルの第一が、折り図の指示どおりに丁寧に折ることであるのは論をまちませんが、実際にはそれだけでは不十分で、用紙の選択にもミスが無くきれいに折られているのにも関わらず、どこか雰囲気欠けていたり、制作者が折った作例と比較すると見劣りしてしまう……といったことがよくあります。

これは、コンプレックス系折り紙では、基本形以降の〈仕上げ〉〈成形〉の比重が高いことが理由です。こういった作品では、折り図の指示のままに受動的に折るのと、能動的な意識で造形を仕上げるのとで、雲泥の差が表れてきます。完成作品や折り図を“よく見て”、なぜそのような折りなのか、なぜそのような指示がされているのか“考える”ことが要求されてくるのです。

さて、表題にある〈模写折り〉という聞き慣れない用語は筆者の造語ですが、一言で言えば、「制作者の作例になるべく近づけるように折ること」で、これによって絵における模写と同様に上達効果が期待できます。カタチをよく観察して、制作者の「意図」を推測する訓練になるわけです。

〈模写折り〉のコツは、とにかくお手本となる作品を“よく見る”ということにつきますが、本稿では、どのようなことを意識して観察すると良いかを、2

つのポイントから解説してみたいと思います。

ぐらい折り(折る角度と位置)

まずは写真1の、2つの折り鶴を見てください。〈模写折り〉で、AとBの折り鶴を正確に折り分けられるでしょうか。違うのは、首・尾・頭の中割り折りの角度と位置です。この1つめのポイントは、折り図の中で折る基準が明確に示されていない〈ぐらい折り〉を正確に読み取ること、です。

写真を参考にする場合、実際の折りを確認することができますが、注意したいのは、遠近感の違いによって実際の長さや角度が読み取りづらくなるケースがあることです(写真2)。この点、折り図は基本的にほぼ真上(真横)からの視点で描かれていて、角度・位置を読み取りやすい利点がありますが、往々にして図が正確に描かれていないこと(あるいは、作例と分量が異なっているケース)があります。

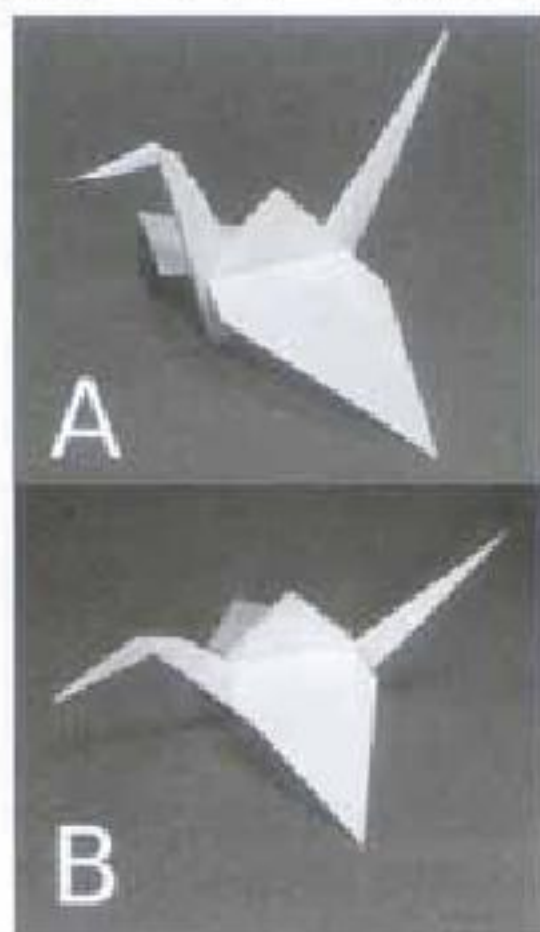


写真1

それぞれの長所短所を考慮し、折り図と写真を総合して判断していくのがベストでしょう。もちろん、作品の実物を鑑賞できるならそれに越したことはありません。

さて、折り鶴の例では、使われている〈ぐらい折り(中割り折り)〉は全て独立して存在していますが、多くの折り紙作品では、複数の〈ぐらい折り〉を積み重ねて仕上げる場合があります。このとき、最初の〈ぐらい折り〉を不正確な位置で折ってしまうと、結果としてできあがる形はお手本と大きく食い違ったものになってしまいます。これを避けるには、折り図から全体形状の構成にとって重要な折りを見つけ、慎重に適切な位置・角度を読み取ることが求められます。作品によっては、〈ぐらい折り〉のスタートがかなり早い段階にあることもあり、このような作品では、地道に試作を重ねることでちょうど良い折り位置を探すしかありません。

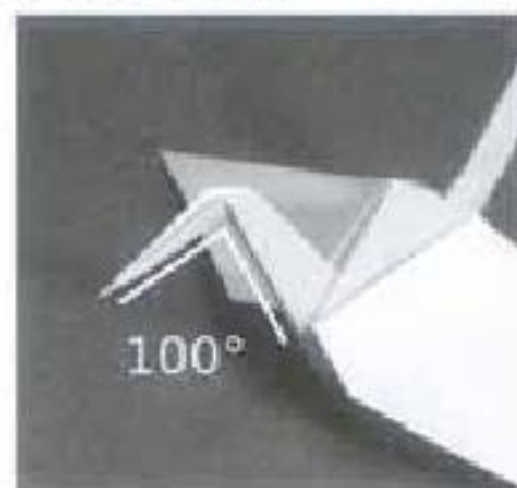


写真2: 写真1のAと同じものです。頭の中割り折りは100度ですが、広角で撮影されたこの写真ではそれより小さく見えています。頭の大きさもかなり違って見えます

最終調整(折りの“ひらき具合”)

今度も折り鶴をサンプルにしたものをご覧ください(写真3)。2つの折り

〈模写折り〉のすすめ

Modeling on Predecessors

小松英夫

Komatsu Hideo

鶴の違いとして、見てすぐに気づくのは翼の向きですが、注意深く見るならば、背中や頭の形状も異なっていることが分かります。〈模写折り〉では、前者はもちろん、後者まで忠実に再現を目指して折ります。

完全な平面作品でもなければ、どんな折り紙も“立体”であり、それは折られた紙の“ひらき具合”によって形成されています。この“ひらき具合”の最終調整次第で、立体物としての仕上がりは大きく変わってきます。

写真4は、もう1つの例として伝承の「ふた」を折ってみたものです。“失敗例”であるBは極端な作例ですが、紙の重なりが多くなるコンプレックス系作品では、反発力によって紙がひらき過ぎてしまい、普通に折っただけでは狙った形状にならないことがしばしば起こります。そのため、“ひらき具合”を調整した後に固定する必要が生

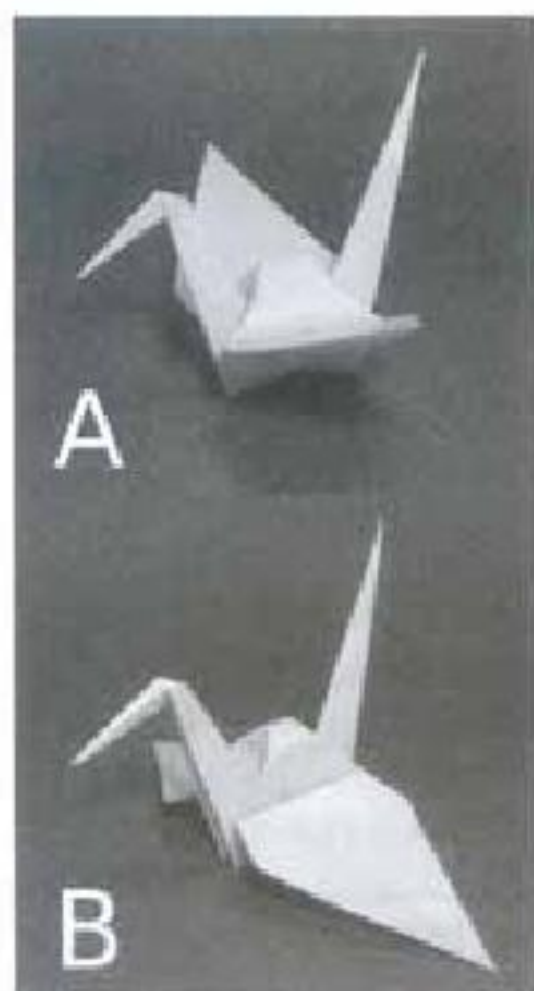


写真3: 折りの位置・角度はA、Bで同一となっています

じます。それには〈ウェット・フォールディング〉〈のりづけ〉〈針金を入れる〉〈台への固定〉等々のさまざまな技法がありますが、こうした仕上げ方法については、通称“赤本”こと『神谷流創作折り紙に挑戦!』(ソシム、2010)が参考書として最適ですので、各技法の詳細についてはそちらを参照してください。なお、形状を保持しやすいホイル紙を用いると、試行錯誤しながらの調整が容易に行えるため、特に試作の際に有用ですが、逆にひらくべきところが閉じてしまうこともあるので注意が必要です。

高い重要性がありながら、折り図内で最終調整のポイントが具体的に指示されることは少なく、多くは「完成図や完成写真を参考にせよ」という形式で、あっても「自立するように」とか「それらしく仕上げる」というような大まかなものであったりします。稀に断面図や三面図などを用いた解説もありますが、それすらも完成形の持

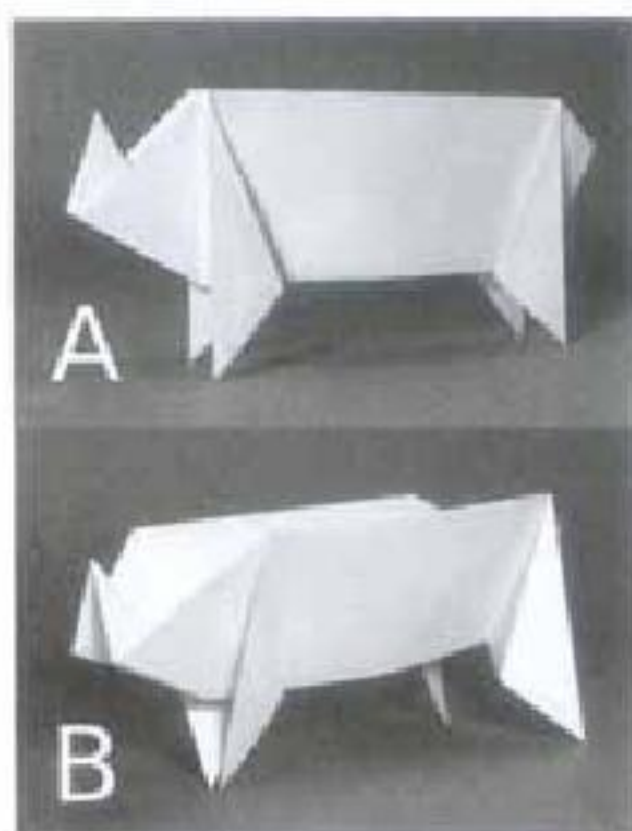


写真4: 全く同じ折り目であっても、その“ひらき具合”で造形は別物になります

つ立体としての情報量からすればごく一部しか表現されていない、と言えます。そのため、徹底して〈模写折り〉を行いたい場合には、できれば作品の実物を鑑賞したいところですが、現実には写真しか参考にできないことが多いかと思えます。その場合、カド等の先端の位置関係を観察したり、断面の形状を想像することで読み取っていくと良いでしょう。

作例「ミノタウルス」

筆者による〈模写折り〉の作例として、神谷哲史氏の「ミノタウルス」を折ってみました(写真5)。神谷作品としてはシンプルめな基本構造と言えます。そこから仕上げで折り込んでゆくタイプの作品です。適度に混じる〈ぐらい折り〉要素、完成形における各パーツの立体構成・ポージング、さらに作例で折り図では説明されていない折り加わっているなど、〈模写折り〉の課題として見た場合、挑戦しがいのある作品ではないかと思えます。

用紙は50cm四方のホイル紙(金紙)を用いました。試し折りを2回した上での、3回目の折りです。1度目は、35cmの普通折り紙用紙で、全体の折り工程を確認、2度目は35cmホイル紙で、ぐらい折りと成形の検討を行っています。仕上がりは、大分ホイル紙の恩恵を受けているので、和紙等を使って本格的に折る際には、形状保持のための加工をきちんと行う必要があるでしょう。

作例の観察と合わせて、モチーフとなっている物の写真を参照することにより、作者の造形意図が推測しやすくなります。ミノタウルスは空想の

○小松英夫(こまつひでお)＝日本折紙学会評議員。かくいう筆者自身も、形の把握に指がつかないことが多々あり、修行が足りません。



生物ですが、牛の顔等の写真が参考になりますし、さまざまな想像イラストを見ると神谷氏ならではのデフォルメのツボが見えてきます。

〈完コピ折り〉と〈折りのタッチ〉

上記してきた〈模写折り〉では、“完成形状”のみの再現を考えてきましたが、一歩進んで、使用用紙(紙の種類・厚さ・大きさ)まで含めたものを考えてみるとどうでしょうか。いわば〈模写折り〉ならぬ〈完コピ(＝完全コピー)折り〉です。

この〈完コピ折り〉を試みてみると、作品の“完全な”再現を追求するならば、それは単なる形状の再現というだけの問題ではないことがすぐに理解されるでしょう。浮かんでくるのは〈折りのタッチ〉という要素です。

個々の折りには、折る過程と密接に関わった強弱のタッチがあります。それらが、ひとつひとつの折りとして

積み重なってゆきます。結果、折り上がった作品が与える印象として、例えば「端正な折り」であるとか「大らかな折り」というふうに、鑑賞者にとって形容されるようになるわけです。こういった〈折りのタッチ〉は、その人の技量のレベルに関わらず、折り手固有のタッチが立ち現れてくるもので、折り紙表現の豊かさを保証するものでもあります。しかし、ことさらに他人のタッチを模倣しようとする、思う以上に難しい。これは、〈折りのタッチ〉を導く手指の使い方が、半ば無意識に行われる、身体に染み付いたものであるからです。

圧倒的な〈折りのタッチ〉を誇った吉澤章氏をはじめ、エリック・ジョワゼル氏、北條高史氏らのような腕利きの折り手の作品は、“1点もの”としての価値が認められています。これは彼らが単に上手いだけでなく、代替の利かない領域に達しているため

です。そういった作品の〈完コピ折り〉を試みるのは極めて困難な作業となりますが、〈模写折り〉よりもさらに高いレベルでの訓練となるでしょう。

おわりに

冒頭では、スキルアップを〈模写折り〉の趣旨として挙げましたが、〈模写折り〉の意義はそれだけではありません。すでに高い技量を持った方にも、造形に込められた作者独自の折り紙観をより味わうための楽しみ方としてお勧めしたいと思います。折り手が自己流で自由に仕上げても、作品を十分に楽しめることは言うまでもありませんが、〈模写折り〉により、創作者の折りを徹底的に模倣することを通して、普段意識することのない自分自身の折りの“癖”に気づくことはきっと興味深い体験となるでしょう。同時に、“よく見る”ことの意外な難しさも再認識できるのではないのでしょうか。

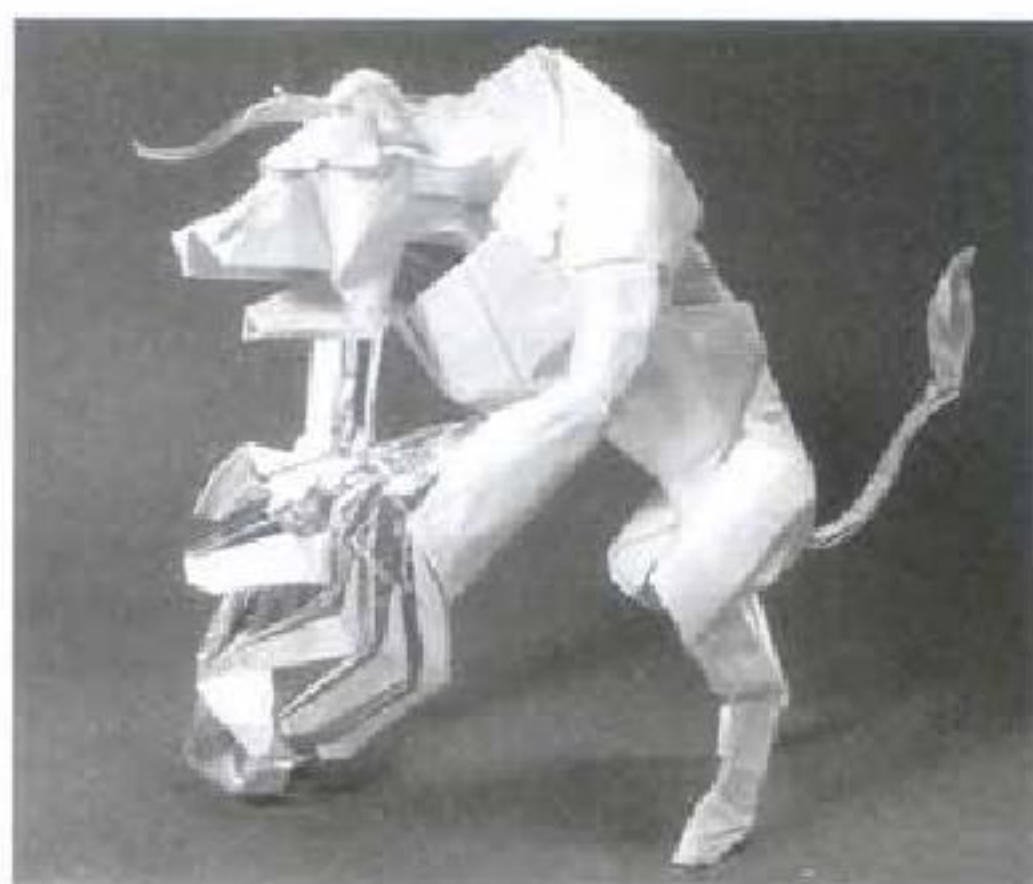


写真5:折り図は「神谷哲史作品集2」(おりがみはうす, 2012)に収録。同書のカラー口絵で複数のアングルからの写真が掲載されているので理解の助けになります

蕩々たるおりがみ大河

The Swift Stream of Origami

第3話 今さらながら、「何で正方形？」と問うてみると、
Why a Square in the First Place?

笠原邦彦
Kasahara Kunihiro

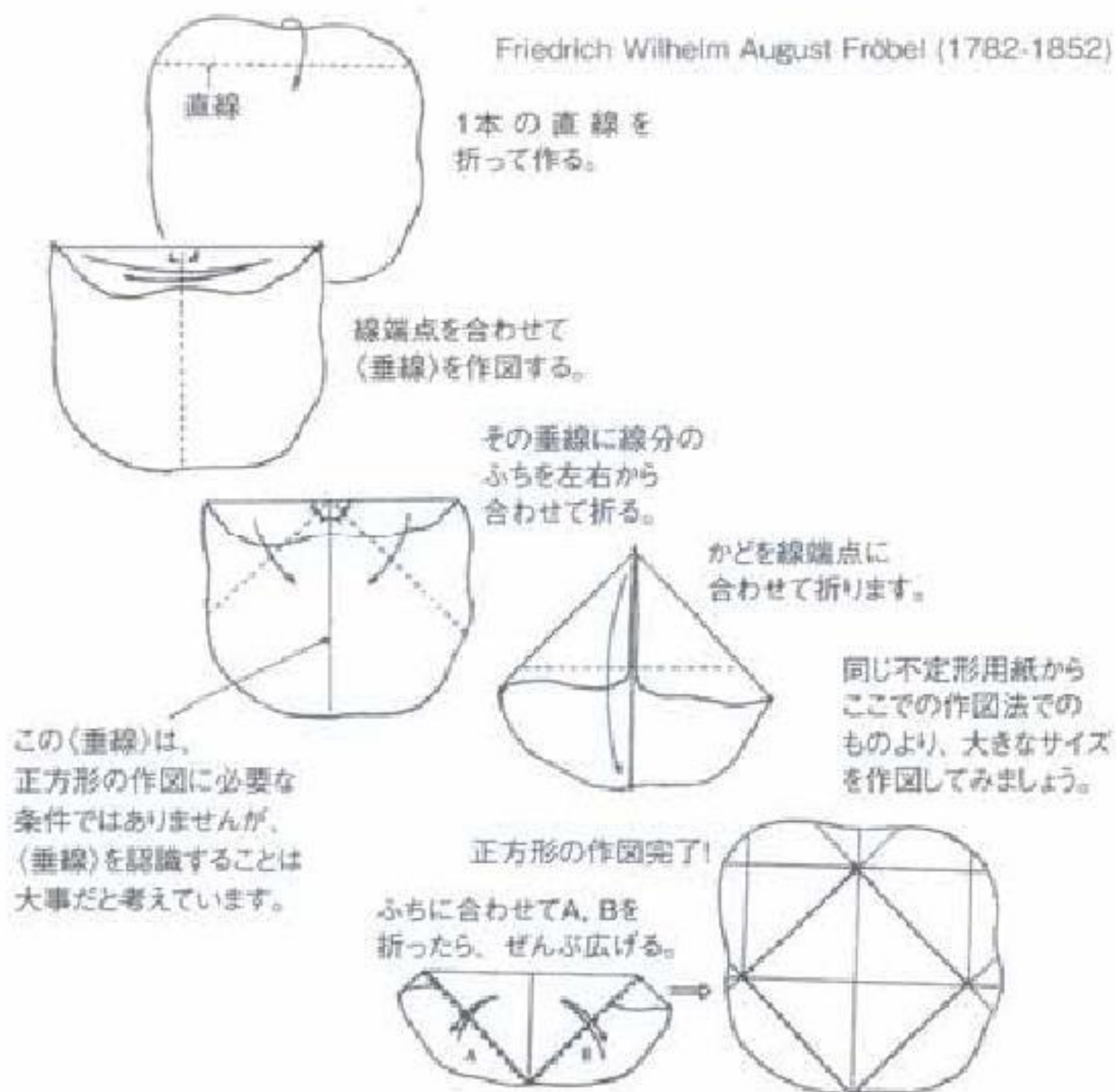
幼 児期教育の大切さを、世界で最初に提唱実践したフレーベル。その〈全論文〉を、世界で最初に全4巻の大部の書として出版したのが、玉川学園教育博物館です。その第4巻に「折り紙」と題された小さな論文があり、それに「必要な図を起こしてほしい」と名譽な話をいただきました。それは、今から30年ほど前のことでした。今回正確な出版年月を知りたいと、本箱のあちこちを探しましたが、…何しろ山のように雑物が積み上がっている狭い住まいとて、まだ出てきませんでした。間違いのない事実です。さてその中でフレーベルは、〈不定形の紙からの、正方形の作図法〉(右図)を記しています。そのことから、「おりがみの基本用紙形は、〈正方形〉と定めたのはフレーベルかな?」…一瞬そんな思いが頭を過ぎりましたが、元よりそんなことを断言するつもりはありません。

さてもしあなたが、なにかのどうぶつのかどうぶつを思い立ったとき、イメージとしては、「頭部、4足、尾、で計6つのかどの折り出しがくふうのスタート」というように考えるのではありませんか? そしてそれらは側面から見て、左右に並んでいますから、ならば「正方形より長方形の方がやりやすい」と、そのようには考えませんか?

1985年に、高濱利恵さんに監修をお願いして、サンリオから『トップおりがみ』という題名の、世界の名人の作品集の出版を企画したとき、そこ

にDavid Brillさんの「馬」を紹介させていただきましたが、ちょっと驚いたのは、それが〈正3角形〉から折られていることでした。でもすぐに、正3角形の3つのかどを、中心に折ると〈正6角形〉ですから、これでどうぶつに必要な要素の〈6〉と繋がるわけですね。ところでこの本の題名の〈トップ〉とは、少々借越な名とも思わぬでもありませんでしたが、確かに私が付けた題名です。…実はこの頃、テレビコマーシャルで、何かシャンプーが商品だったと思いますが、「トップ・ボーイ」という言葉が繰り返し流されていました。また、同じ頃、トム・クルーズ主演の『トップ・ガン』という映画もヒットしていましたので、それらからの思い付きでした! そして評判はよかったです。

おっと話を本筋に戻し、例えば「5角星」をくふうしたいなら、〈正5角形の用紙〉を、「6弁の花」をくふうするなら〈正6角形の用紙〉を、と考えるの



▲フレーベルの「不定形紙からの正方形の作図法」

○笠原邦彦(かさはら-くにひこ)=
おりがみ解説書中心の著述が私
の職業です。編著書の数は現在
170。手づくりおもちゃの本なども
書いています。



が素直なくふうの道筋だと思えますのに、なんでおりがみの理想論では〈正方形〉を基本用紙形とするのだろう? …まあ、もし長方形を基本用紙形とすると、短辺と長辺の比率を示さなければなりません、正方形ならまったく問題無い。それは妥当な考え方でしょうが、それだけのことで、〈理想〉とされるのだろうか?

一方で、幾何の基本図形は〈3角形〉で、これってプリルさんの例でも判る通り、とても面白いものです。でもまあ、これも長方形と同じで、その3角形の種類を最初に示しておかなくてはならない、そんな面倒はありますけどね。

さて世界で初めて、おりがみの研究で〈博士号〉を取得された川崎敏和さんから、ある日聞いた話ですが、「おりがみにおいて、無条件で精度が保証される〈折り〉は、〈点と点を合わせて折る〉ことだけです。が、さらに厳密に考えれば、それすら保証出来ないかも知れませんよ」と。

しかし、何一つ保証出来ないなどとなつては、おりがみ幾何も進められなくなってしまいそうなので、…まあ〈点と点を合わせて折る〉ことだけは認めて、としましょう。すると、冒頭にご紹介したプレーベルの〈不定形からの正方形の作図法〉は、〈辺と辺を合わせて折る〉のですから、出来ない相談となります。ところが、このプレーベルの手法で、長方形なら、その比率はまったく不明とは言え、〈点と点を合わせて折る〉だけで可能です。皆さ

ん考えてみてください。

またよく使う手法で、〈点と点を結んで折る〉や、〈点を通して折る〉も、定木が無いときわめて折り難いとの現実に優先して、論理的に精度の保証されぬ折りとなってしまうでしょう。

話は変わりますが、昔、陳舜臣氏の新聞小説『チンギス・ハーン一族』の中で、2代と4代のハーンは、共にユークリッドの『原論』の愛読者だったとあり、驚きました。想像力豊かなのが作家とは言え、このような話を創造することは無いだろうと思えば、それは事実でしょう。

聖書に次ぐ世界のベストセラーと聞くも、私はやさしく書かれた一般向け数学啓蒙書にて、そのほんの一端を知るに過ぎぬ者ですが、「点とは何か?」「線とは何か?」…と、基本の基本から論考しているのですね。

さて阿部恒さんからある日伺ったことですが、「おりがみで、ユークリッドの原論を考えてみたんだが、知り合いの数学者から、そんなのはつまらないから止めなよ、と言われた」と。そんな話を伺い、とても残念に思ったことでした。今ここに提示した「何で〈正方形〉がおりがみの基本なのか?」なども、阿部さんの思い付きが実現されていたら、もしかすると、こんな基本も論議されていて、…ああ、そういうことだったのか、などと解説があって、疑問など感じなかったかも知れない!? …これは楽しい空想です。

なおこれは人伝に聞いたことですが、阿部さんはある講演で、「正方形は、長方形の中のひとつ」と語られたとか、うわーっ、それって大賛成です!

実はこの話を聞く前のあるとき、私も同じようなことを考えていました。それは「長方形には2つの顔が在って、それは+ (プラス・マイナス) の視点で考えることで、同じ折り方をしても、この+ と視点を変えてみることで、2つの造形が得られる。そこで、この+ の〈折り返し点に在るのが正方形〉と、そんな考えです。また別の考えで、伝承の造形を、もしそれが正方形からのものだったら、その折りをそっくり長方形にして行ったらどうなるか? そしてまた、その造形が長方形からのものだったら、逆に正方形に変えてみるとどうなる?

…なんていうイージーなくふう法を10年くらい前から楽しんでいます。しばしば大きな成果が得られますから、どうぞ皆さんもやってみてください。

そしてその後で、「おりがみの基本で、何だろうか?」など考えてみてください。簡単すぎると思われるようなことに、案外大きな、未だ知られざる真理が発見されるかも知れませんから。

いずれにせよ、「おりがみ学」を表明するなら、少なくとも「おりがみの定義」は必要でしょうね。ぜひその定義をしてほしいものです。そのとき、果たして正方形が意味を持つだろうか? …それもまた楽しい空想です。

折紙図書館の本棚から

From the Bookshelves of the JOAS Library

三谷 純 Mitani Jun

この連載では、折紙学会図書館に所蔵されている資料の中から、興味深いものを選んでご紹介しています。折紙図書館の蔵書は、折紙探偵団ホームページから検索できます。詳しくは、<http://origami.gr.jp/Library/> にアクセスしてください。

35冊目「紙工芸 技法大事典(上巻、下巻)」東陽出版株式会社

"An Encyclopaedia of Paper Craft Techniques (Vols. 1-2)" Toyo Shuppan

『紙工芸 技法大事典』(東陽出版)は上下巻に分かれた大型本で、まさに「事典」としての重厚な存在感があります。上巻と下巻はそれぞれ昭和49年と50年(私が生まれた年です)に出版されましたが、現在は絶版になっているようです。インターネット上に出品されていた古本を安価に購入することができましたが、定価はそれぞれ6300円であり、当時の物価を考慮すると非常に高価なものであったと想像されます。



紙工芸 技法大事典(上巻と下巻)

ページ数はどちらも220ページほどに過ぎませんが、装丁は立派で非常に重く、手軽に持ち運びできる感じではありません(2冊で4.4kgありました)。今から40年近く前に出版された書籍ですので、色あせた外箱はその歴史的な重みさえも感じさせます。

さて、この事典の目次の大見出しを拾ってみると、上巻と下巻では次のように内容が分類されて収録されています。

上巻

- 折る紙工芸I(礼法折り紙)
- 折る紙工芸II(遊戯・美術折り紙)

- 切る紙工芸
- 張る紙工芸
- 染める紙工芸
- 紙人形

下巻

- 紙の花
- 宗教・行事と紙工芸
- 遊びと紙工芸
- 日常生活の中の紙工芸
- 紙の造形

それぞれの分類の中で、紙をメインとした各種の工芸について、1項目につき数ページ程度を割いて紹介されているのですが、詳しい解説文はほとんどなく、実際にものを作るための方法がひたすら図または写真を中心に紹介されています(下巻では多少の解説文が見られます)。

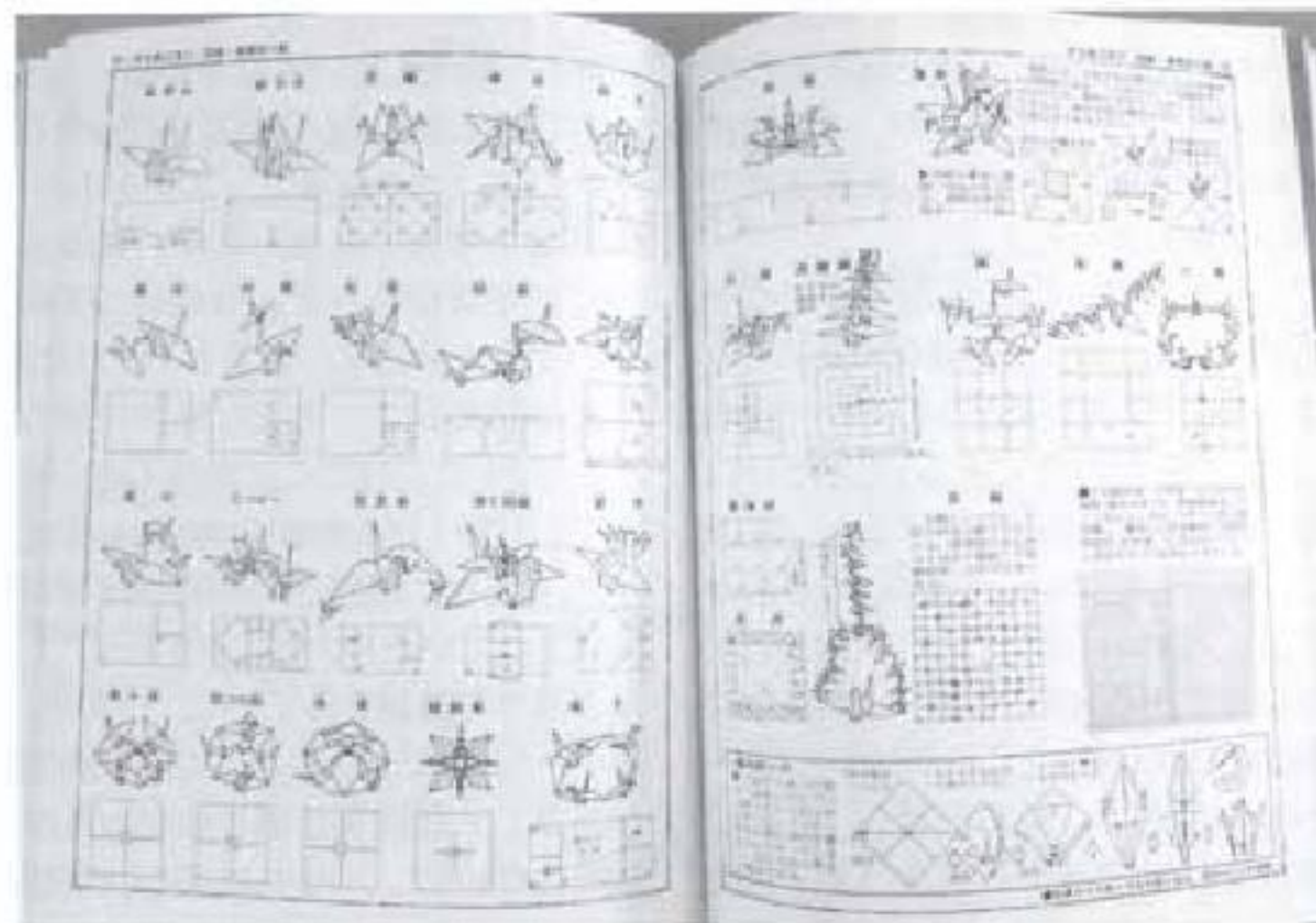
例えば「押し絵」「つまみ絵」といった項目があるのですが、そもそも「押し絵」とは何か、「つまみ絵」とは何か、

という説明はなく、1つの具体的な作品の作り方が図で紹介されているばかりです。これらに関する予備知識のなかった私にとっては、文章を読むのではなく、図を見ることで、こういうもののことを「押し絵」と言うのか、と理解することになります。

さて、上巻の最初に収録されている「折る紙工芸I(礼法折り紙)」では、熨斗(のし)の包みや、祝儀袋などの



「押し絵」の作り方の解説



「千羽鶴折形」を紹介しているページ

○三谷純(みたに・じゅん)＝日本折紙学会評議員。筑波大学准教授。コンピュータを使うことで、幾何学的に面白い形を1枚の紙から作ることに取り組んでいます。

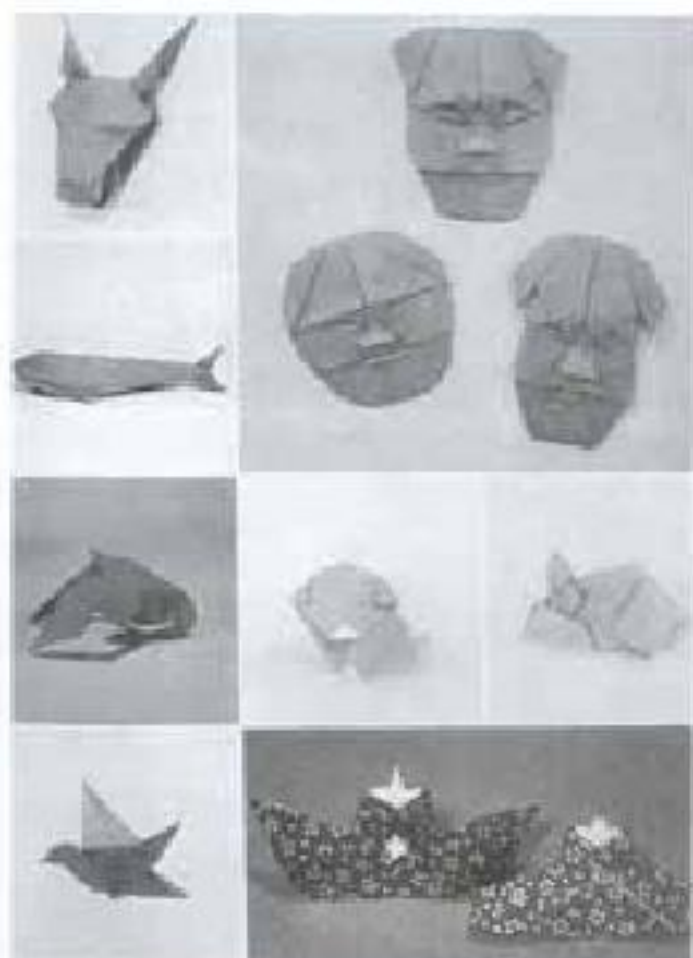


折り方が折り図を用いて紹介されています。

続く「折る紙工芸II」の章では、一般的な折り紙の折り方が多く紹介されています。とくにその中の「伝承折り紙」の項では宝舟、紙風船、かざぐるま、かえる、ことり、など広く知られているものを中心に約70種類の折り図が掲載されています。

「創作折り紙」という項もあり、ここでは、うさぎ、ひとの顔、などの吉澤章氏(紙面では「吉沢章」と表記されている)の作品も12点紹介されています(この事典の上巻には、「執筆したひと」として25名の名前が五十音順で紹介されていますが、最後に「吉沢章」の名前を見つけることができます)。

さて、以上のような折り紙関係の項目が上巻の前半を占め、後半部では切る、張る、染める紙工芸、および紙人形の紹介が収録されています。



巻頭のカラーページに掲載されている折り紙の写真

「切る紙工芸」としては、切り絵作品の紹介や、紙を折りたたんでから一部を切り落とすことで対称性のある図形を切り出す「紋切り」などが取り上げられています。続く「張る紙工芸」では、はり絵(ちぎり絵)や、立体的な造形を紙片で作る「押し絵」や「つまみ絵」の作り方が紹介されています。

「染める紙工芸」では紙を染めるための各種の技法、そして「紙人形」では紙びなの作り方など、紙で人形を作る方法が紹介されています。

続いて下巻に収録されている内容に移りましょう。

最初に登場する「紙の花」では、福寿草、つばき、パンジーなど12か月の花を作る方法が掲載されています。「昔の紙の花を作る」の項では、吉野桜とたんぽぽ、そして菊を例に、江戸時代に庶民に普及したという造花の作り方が掲載されています。その他、明治時代、大正時代のバラや虞美人草、サフランなどの作り方も含まれます。

「宗教・行事と紙工芸」では、神道の行事に用いられる紙垂(しで)から始まり、走馬灯、水引など、歴史的な工芸の数々が紹介されています。

「遊びと紙工芸」では、凧や折り紙飛行機の作り方が、「日常生活の中の紙工芸」ではようじ入れ、札入れ、小銭入れ、名刺入れなど、「紙の造形」では紙ナプキンを折る、飛び出すカードを作る、ダンボールで家を作る方法などが紹介されています。

以上見てきたように、紙で形を作ることに関する多岐にわたる技法が、具体的な制作手順とともに紹

介されています。それでは、実際に何か作ってみようか、と思いたいところですが、材料の準備などになかなか手間のかかりそうなもの、作るのに時間がかかりそうなものも多く、残念ながら重い腰を上げるには至りませんでした。数ある紙工芸の種類の中で、紙を折るだけで形を作る「折り紙」は、なんとも手軽な工芸であろうかと再認識させられます。

この事典の全体に目を通すと、作り方を参考にして実際に工芸を楽しむというよりは、日本において古くから親しまれてきた紙を使った工芸の歴史を知ることによって価値があるように感じられます。

昭和時代、またはそれよりも古い時代に親しまれたものとして紹介されている作品写真を見ると、以前は日常生活に溶け込んでいた紙による造形も、次第に過去のものになり、若い人たちは知らないものになっていくのではないかという危惧をも感じました。このような紙工芸の歴史を後世に伝えるという意味で、非常に価値ある事典であると言えます。



大正時代に流行ったという紙の玩具「でんぐり」

ぼくらは 折紙探偵団

Here We Are, THE ORRIGAMI TANTEIDAN

第7回 OSMEの誕生から History of OSME

このコーナーでは、折紙に関するちょっとした疑問を探求し、ちょっと面白い雑学的な豆知識をご紹介します。読者からの疑問、質問、追加の情報も受け付けていますので、お気軽にwebman@origami.gr.jpまで電子メールでお寄せください。

三浦公亮
Miura Koryo

国際会議というと、少し身構えしませんか？ OSME（折紙の科学・数学・教育国際会議）はそんな会議ではありません。たしかに、何か奇妙な数学記号が、英語でとびかわされて、ぜんぜんわからない、こともありましょう。しかし、折紙のよいところは、それが最後には美しい作品として、目で見られるからです（但し、こういう折り方は不可能であるという証明もあります）。そして、それを折ったり、子供たちに教えることもできるのです。

1989年という、今から24年も前のことですから、いま最前線がかつやくしている30～40才の人達は、6～16歳のこどもの頃です。イタリアのパドヴァ大学のフェルミ原子核研究所の藤田文章(Humiki Huzita)先生が最初のOSMEの仕掛け人です。

藤田先生の考えはこうです。「既に折紙は世界中に広まっていますが、それは主として趣味や教育の範囲です。しかし、紙を折るという操作は、ある特別な数学的意味と可能性を持つことに気づき、その秘密を発見する人達があちこちに現れ始めました。残念なことに、そういうことを発表できる学会もありませんから、それらの仕事は、あちこちに分散してあって、決して一般の目につくことはありませんでした。そういう人達を一堂に会して、お互いに議論したらどんなに素晴らしいことだろうか。」

おんぼろ自動車でヨーロッパを駆け回った藤田先生の努力は遂に、イ

タリアの古都Ferraraで実現します。しかもこの街はMargherita Beloch (1879-1976)が、折紙が三次元の代数方程式を解けることを発表したところなのです。

会議は、2日間のセッションと、その後のワークショップからなりました。英国折紙協会のJohn Smithさんの「折紙は制約の芸術である」と題する講演は、これは日本人が言うべきことなのに、ガイコク人に言われて、それだけ折紙が正しく理解されていることが、印象的でした。

もちろん、イタリアですから、会議の後の宴、そして宴あとの騒ぎは、この会の楽しみを忘れえぬものになりました。

さて、第2回はどこでやるか、まったくあてがありません。それでも、折紙なのだから日本でという底流はあったかもしれません。そのころは、

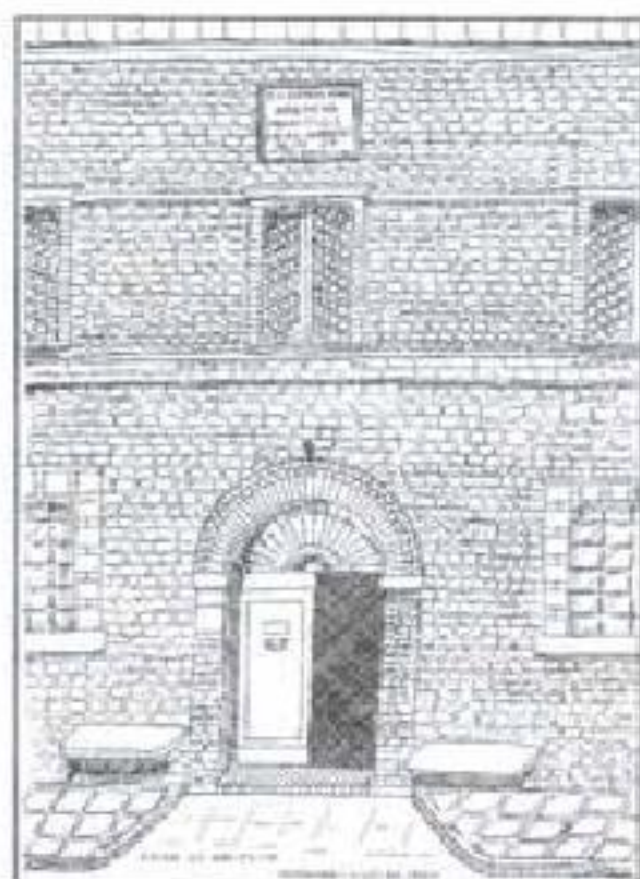


図1:会場の詩人Ariostの館(藤田スケッチ)

電子メールはまだでしたので、藤田先生と私の間に随分ファックスが行き交いました。今それを眺めると、藤田先生の紙面一杯の太い筆跡を懐かしく思います。

1993年に、私は宇宙科学研究所を退官して、大津に新設された成安造形大学に赴任しました。学長には、平凡社の美術を担当されていた田邊徹先生が赴任されました。新設の小さな大学には、国際会議を主催するような実力は不足ですが、折紙の科学の会議を主催する意義を、先生は認めてくださいました。

さて、始めるとなると、私には全体の枠組みと予算等の獲得しかできることはありません。会議の会長には大学の理事長である、井筒興兵衛氏(京都で有名な装束店の八代目)、名誉会長は伏見康治先生にお願いしました。この会議を実際に動かしたのは、布施知子さん、川崎敏和さん、前川淳さん達の実行委員会の面々でした。

この会議には、折紙の各分野の著名な達人が多く参加されましたのは驚くほどでした。あれから20年近



図2:第2回OSMEの実行委員会の面々

○三浦公亮(みうらこうりょう)=日本折紙学会会長。子どもの頃、よく風邪をひいて、ひとり部屋に寝かされていました。退屈なので障子のつくる四角形の数え方を研究しました、これが私の数学入門。それから〇〇年、いま私の象徴は、平行四辺形になりました。



くたち、懐かしい想いが募ります。ここでも、最も異彩を発揮されたのは、Thoki Yennさんでした。会議の締めくくりに、井筒理事長の新築の別荘の間で、あの体形で座布団を何枚重ねて座ったので、びっくりかえり、理事長自慢の障子をこわしてしまいました。

それはともかく、会議の一部始終の多くは、映像の小林はくどう先生の指示で、学生がビデオで撮影しています。あの加瀬三郎さんの映像もあると思います。その貴重な資料を何等かのかたちで編集して、お目にかきたいと願っております。



図3:第2回の名譽会長、伏見康治先生



図4:異彩を発揮されていたトキ・エンさん

第3回のOSME (Asilomar, 2000) は、第2回に参加されていたThomas Hullさんが、引き受けてくれました。このように、世界的な学会が存在しないのに、次々と手をあげてくださる人が出てくるのは有難いことです。バックアップしたのは、Peter Engelさんや、Robert Langさん、ここでOrigamiUSAが組織としてサポートすることになり、その後のOSMEの体制に安定的な基盤を作ることに寄与したと思います。

この会議の最大の特徴は、折り紙の数学への深い広まりと感じます。Erik Demaineさん、Martin Demaineさんを筆頭とする発表は、



図5:第3回の発表風景(アレックス・ベイトマン氏)



図6:第3回の発表風景(エリック・ドメイン氏(当時20歳))

computational origamiの進展を印象づけました。

第4回のOSME (Caltech, 2006) は、Robert Langさんが引き受けてくれました。このような会議が、高名な工学のメッカであるCaltechで行われることに、OSMEの進化を見て、感慨ふかいものがありました。

シンガポールで開かれた第5回は、他の会議とかち合っており、残念ながら私は参加できませんでした。

第6回は、日本に里帰りして、関西で手をあげてくださったのは、立石先生でした。私達もそれを期待し、最近まで準備をされておられたのですが、大学の事情により、とても残念なことです。辞退されました。そこで、どういふ議論の末か、驚くことになったのです。幸い、組織委員長を萩原一郎先生が引き受けてくださり、内外の多士済々のメンバーが揃い、強力な本学会のサポートもあり、記憶に残るOSMEを開催できることと思います。

【補注】P.41で第6回OSMEの開催決定についてお知らせしています。



図7:第4回の別会場での関連展示(ジーン・モズリー氏作「メンガーのスポンジ」)

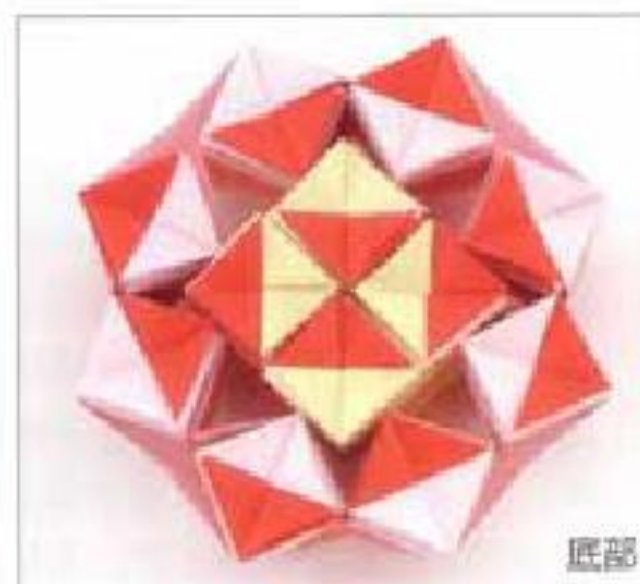
【今号の折り図・展開図掲載作品より】 解説：北條高史 (P.20-21)

Models Based on Diagrams and Crease Patterns of This Issue Comments: Hojyo Takashi (P.20-21)

ここ数年のこの時期は、いつのまにか春っぽい雰囲気あまりないまま夏へと突入しているような気が。変化への対応のために今カラダが求めている食べものはなんだろう？と耳をすましてみる。



上部



底部

「苺ケーキ」 作：川崎敏和 (P.4)

Gateau aux fraises: Kawasaki Toshikazu (P.4)

■ユニットの中央部に、自由に曲げることができる「蝶番」が付いています。糊無しでしっかりと組み上がり、どんどん伸ばして増殖させることも可能。内部の空間にはめ込む部品にはいろいろな作品が使えるので、あやしい改造案が次から次へと浮かんでいきます。



「もみじの箸袋」 作：稲吉秀尚 (P.8)

Chopstick Envelope (Maple): Inayoshi Hidehisa (P.8)

■実際に箸袋として使う場合に適切な用紙サイズは15センチ角ですが、初めて折るときにはもっと大きな紙で練習しても良いでしょう。工程の中間から微細な作業が続きますが、その苦勞を補って余りあるほどの豪華な完成形が得られます。



「二輪車」 作：板垣悠一(P.38)

Motorcycle: Itagaki Yuichi (P.38)

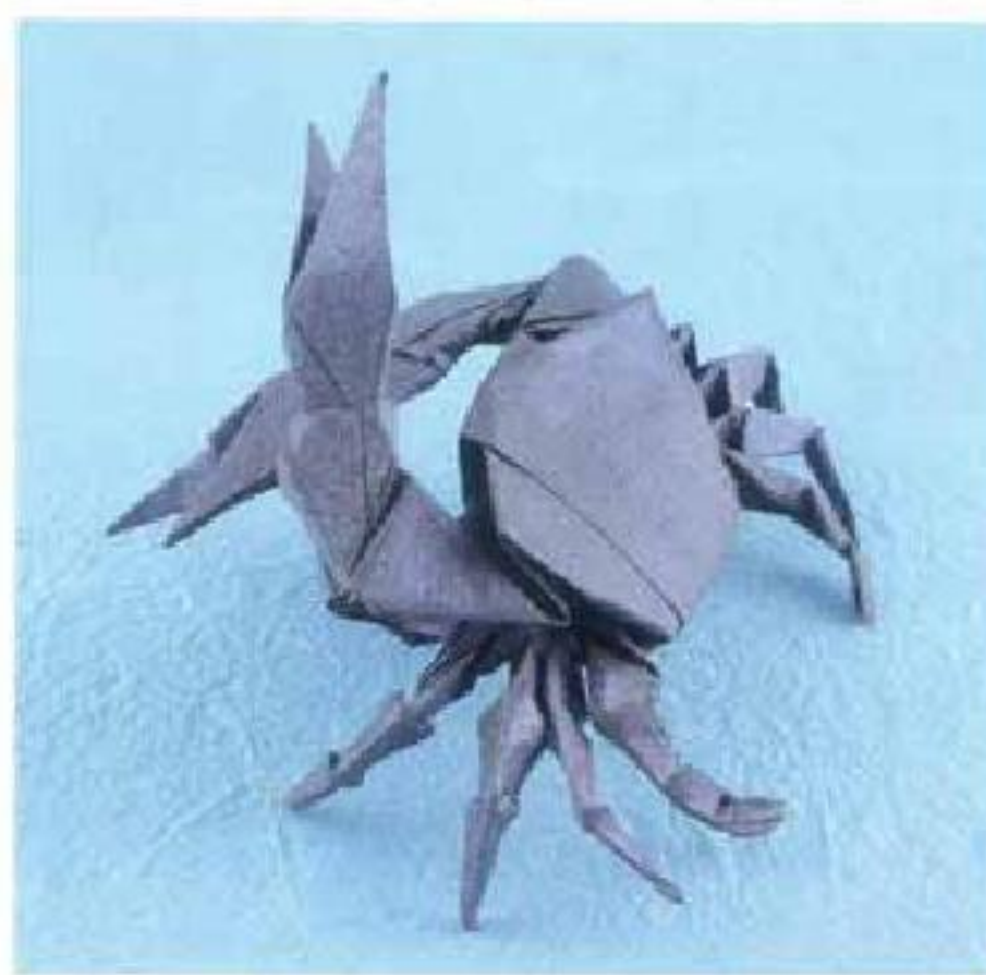
■いきなり取り組むのは大変そう。と思えたら、展開図の一部分を切り出すのも有効。部分構造への理解を深めながら、少しずつ全体イメージに迫ってゆくわけです。作例の真横や上方から撮影した写真が制作の大きな助けとなるでしょう。



「カニ」 作：ジェイソン・クー(P.26)

Crab: Jason Ku (P.26)

■用紙の面積が適切に割り当てられ、緩急表現を付けやすいハサミ部分と、十分な長さがあるすっきりとした歩脚が折り出されます。これだけ自由度の高い作品を手にするとは、さまざまなポーズをとらせたいことなのでしょう。本物をなかなか見に行けない地域でも、最近は動画資料なども入手しやすくなりました。ぜひ「動いているカニ」を見ながら本作の関節をいじってみてください。



第13回折紙探偵団関西コンベンションより

Exhibitions of the 13th Origami Tanteidan Kansai Convention

■3月22日(金)～23日(土)に開催された折紙探偵団関西コンベンションは、盛況のうちに終了した。そして早くも、来年の日程が決定している。2014年の折紙探偵団関西コンベンションは、2014年3月21日(春分の日、金)～22日(土)に神戸女学院大学において開催される。詳細は決まり次第、本誌でもお伝えしていく予定だ。

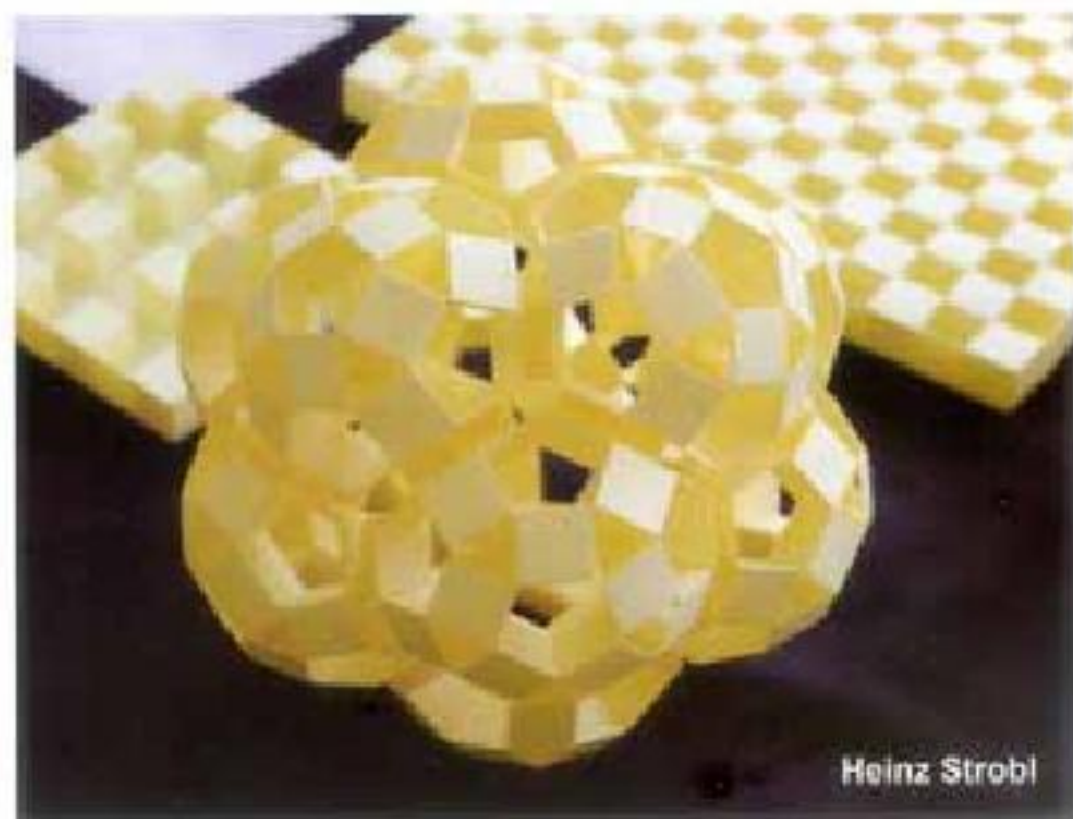
(第13回折紙探偵団関西コンベンションのレポートは、P.41に掲載)



Heinz Strobl



Heinz Strobl



Heinz Strobl



Kamo Hiroo



Nakagawa Koji



Kamo Hiroo



Iwasa Yuhel



Jason Ku



Yoshioka Yasuhiro
Model: Kamiya Satoshi



Yamamoto Koki



Inayoshi Hidehisa



Kawamura Miyuki



Nakagawa Koji



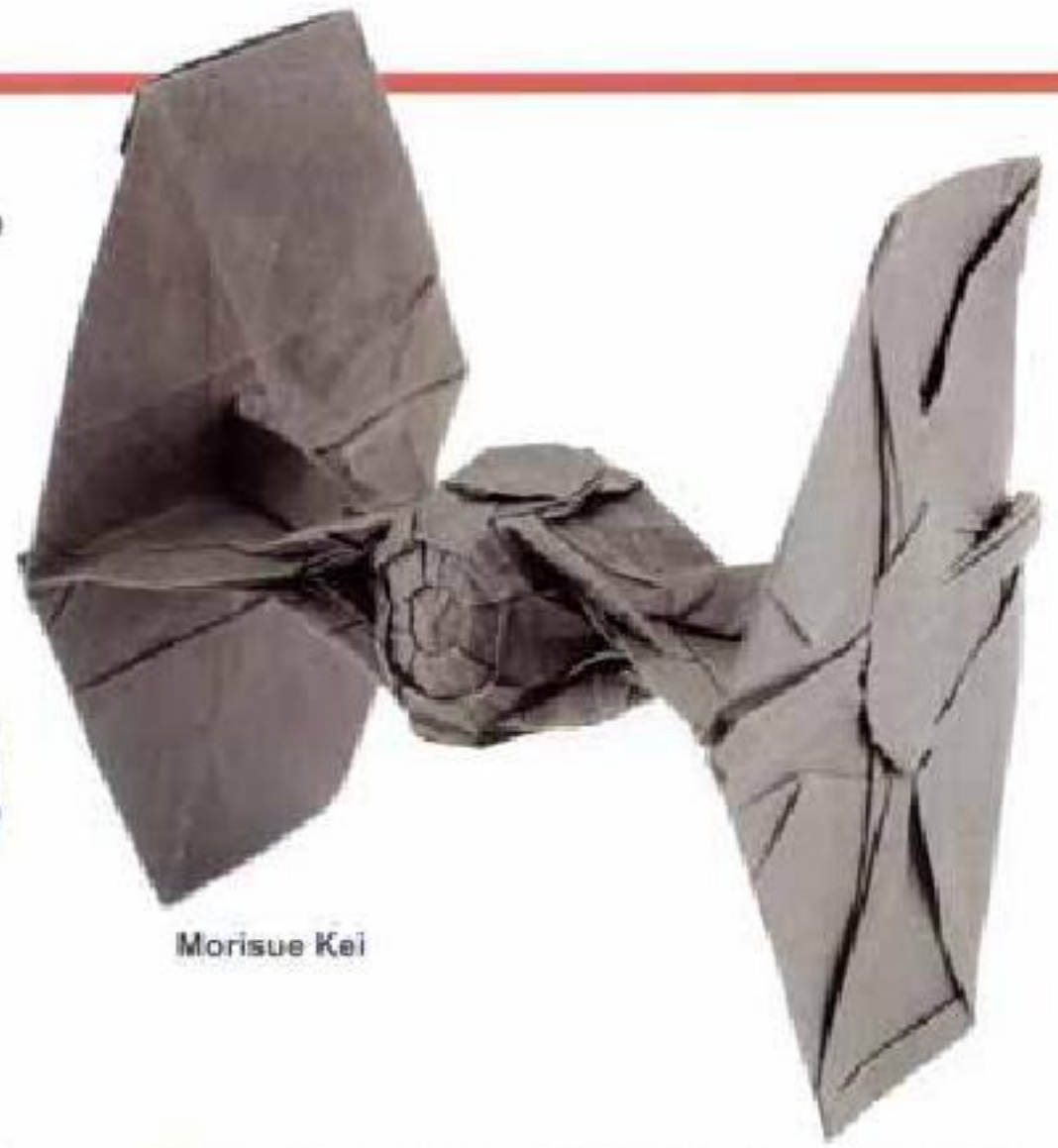
Iwasa Yuhel

折紙探偵団東京友の会例会より

From the Regular Meeting of the Origami Tanteidan Tokyo Group



Ohtani Mitsugu



Morisue Kei

■WEB上で、折紙探偵団東京友の会の例会報告を見て頂ければ分かるが、毎月、若手が熱心に新作を発表している。お互いに見せ合って評価し合い、刺激を受ける事によって、作品はどんどん進化している。今後の成長が楽しみだ。



Morisue Kei



Mineo Shotaro



Komatsu Hideo

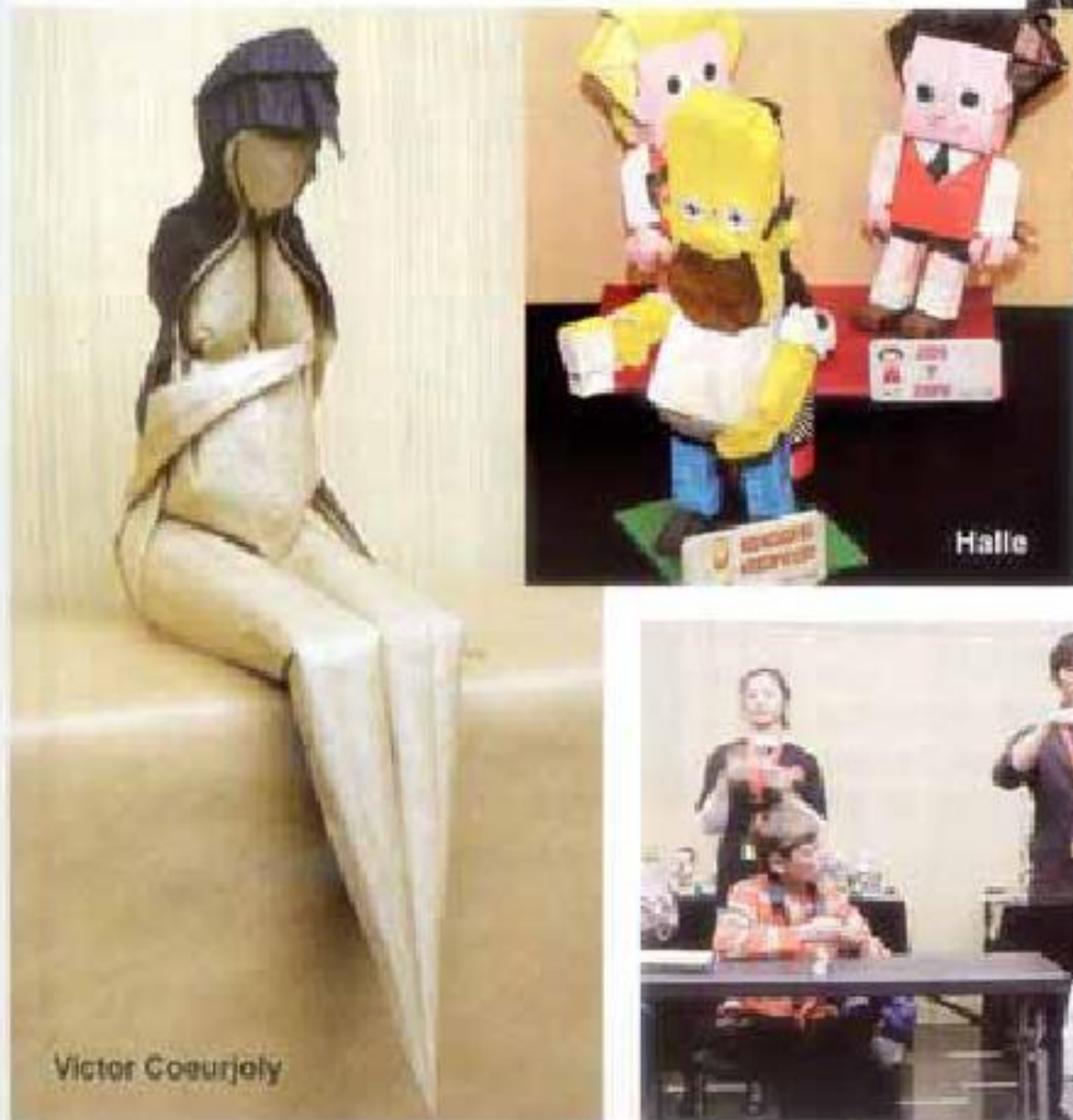


Ono Tomoaki
Original Model: Yamaguchi Makoto

AEPサラゴサコンベンション2013より

From AEP Convention Zaragoza 2013

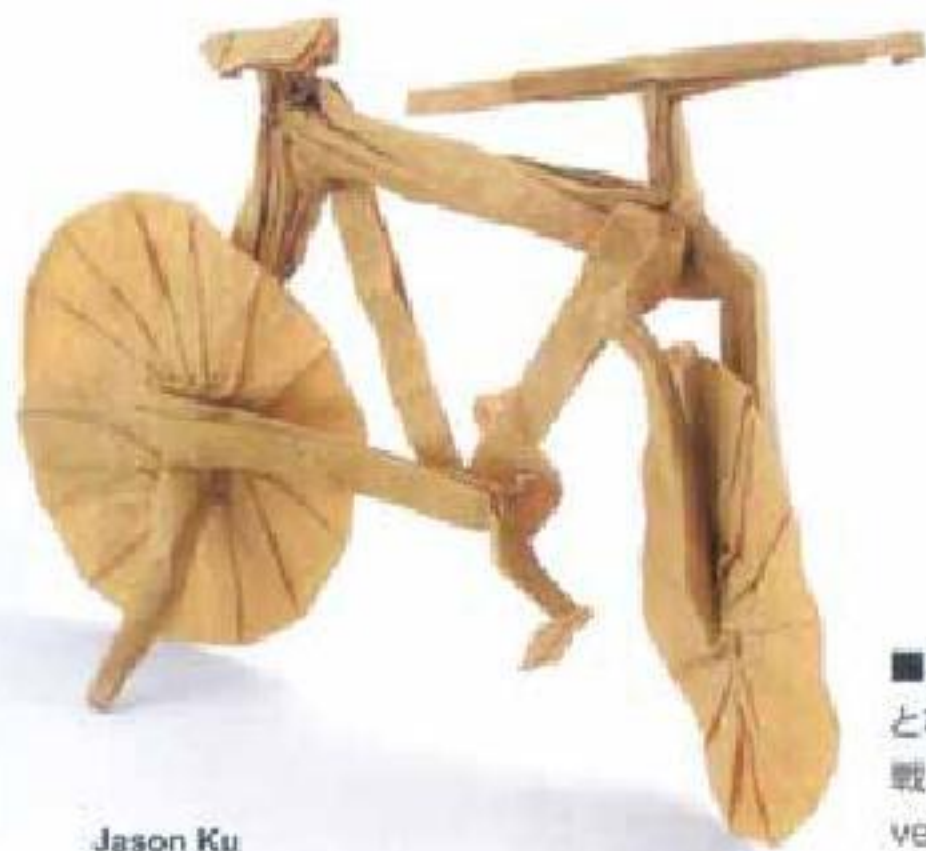
■誰もが参加すると楽しかったと評するスペインのAEPコンベンション。今年は、外国人作家の1人として、柏村卓朗氏が招待された。またこのサラゴサでは、近々本格的な「折り紙ミュージアム」が開館予定で、スペインの地で折り紙が更なる盛り上がりを見せている。



「…Nicolasとは互いに手の内を見せ合うはずだったが、ほとんどNicolasの情報公開になった。一つの作品ごとに新規のアイデアを加えていくのが素晴らしい。そしてORIPAというコンプレックス折紙共通言語に感謝。」(P.42 AEPコンベンションレポートより)

JOASホール折り紙教室講習作品 (P.42)

Models to Be Taught at the JOAS Hall Origami Classes (P.42)



Jason Ku



Kamiya Satoshi

■毎回満員御礼の「ある折り紙作家の教室」、今回の作品は「ウシ」の予定だ。定員になり次第締め切っているので、早めの申し込みをお勧めしたい。また今回より、止むなく申し込みをキャンセルされた場合、料金がかかる事になったので、ご注意ください。

■3回続いた「Jason Ku 特別講習」も、残念ながら今回で最後となる。記念すべき最終作品は、本誌120号の「展開図折りに挑戦」で紹介された「自転車」だ。マイナーチェンジされて、ver. 1.8からver. 1.9になる予定だ。

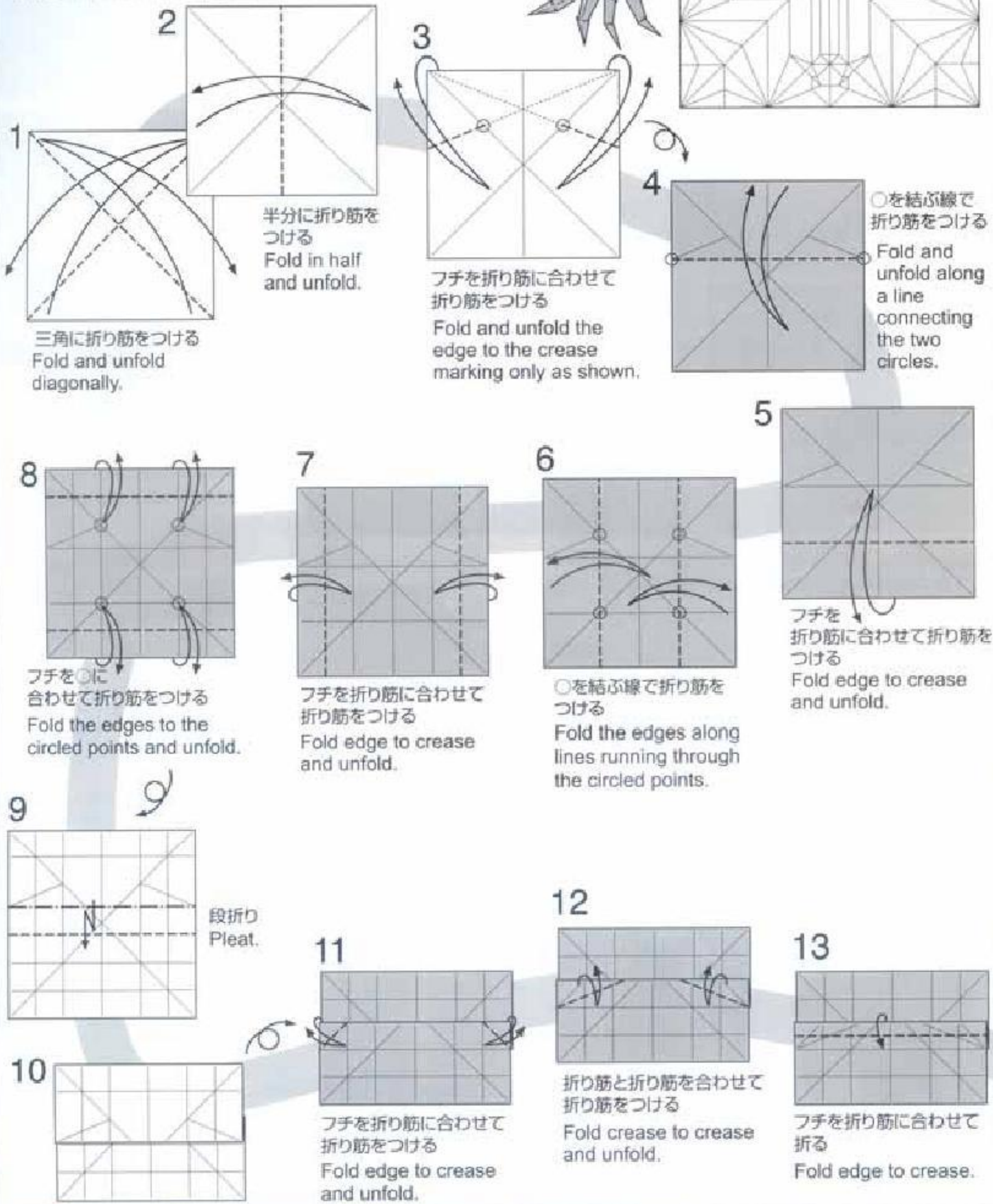
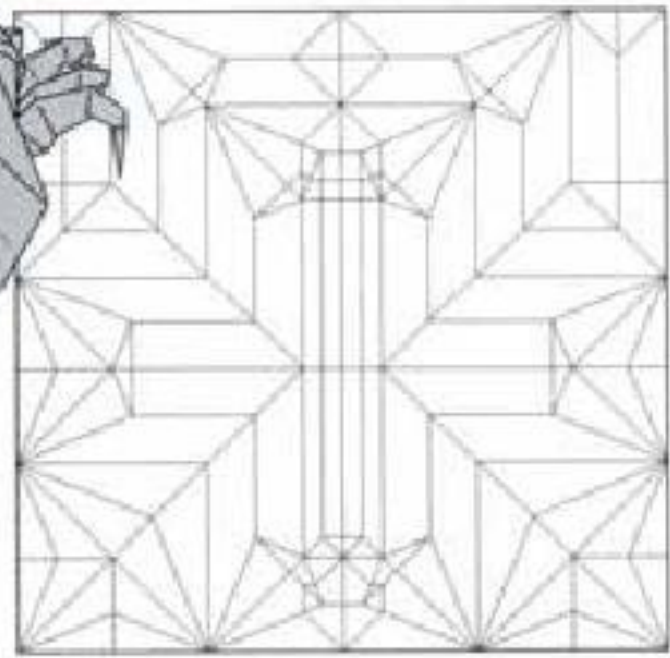
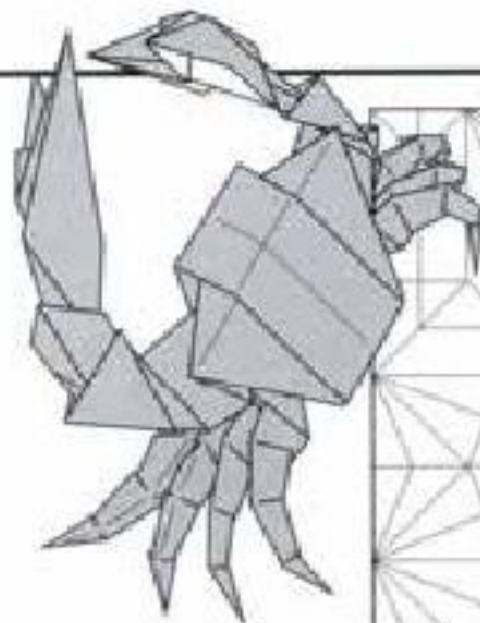
Crab カニ

Version 1.9

Model & Diagrams by Jason Ku

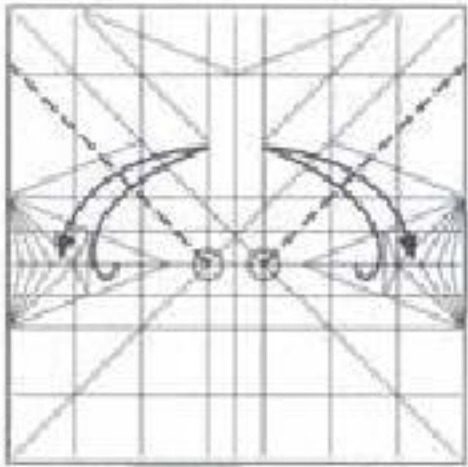
Designed: ©2013/04/03

Diagrammed: ©2013/04/27



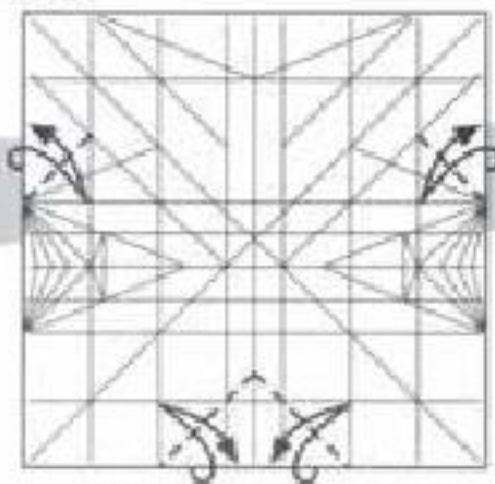
24

折り筋と折り筋を合わせて折り筋をつける
Fold and unfold crease to crease as shown.



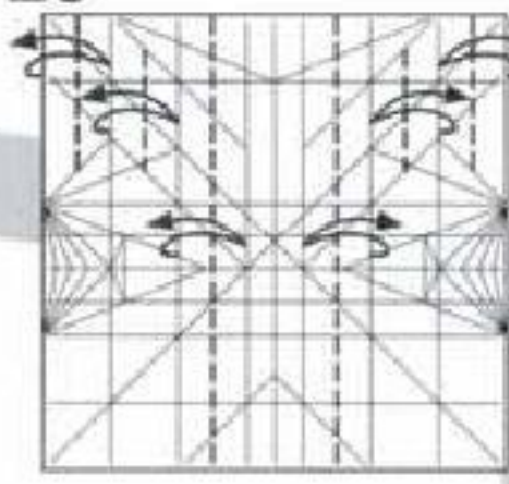
25

フチを折り筋に合わせて折り筋をつける
Fold and unfold edge to crease as shown.



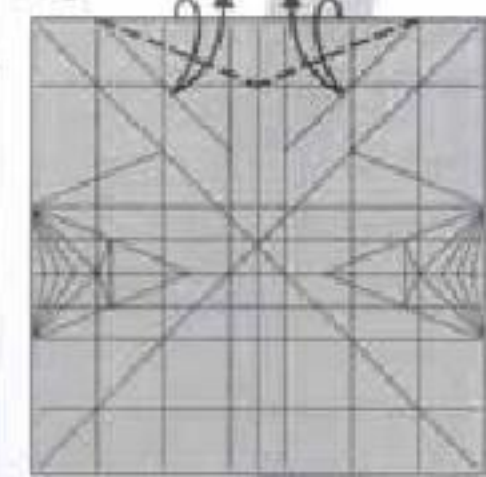
26

半分の幅で折り筋をつける
Fold and unfold sections in half as shown.



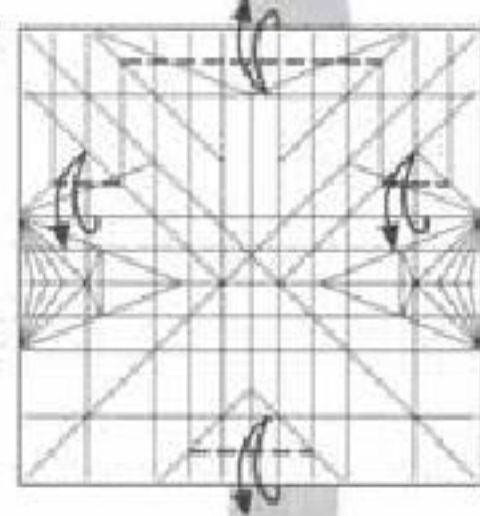
23

フチを折り筋に合わせて折り筋をつける
Fold and unfold edge to crease as shown.



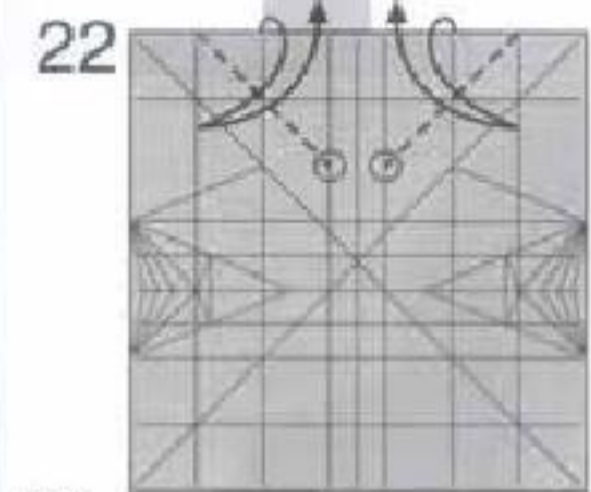
27

半分の幅で折り筋をつける
Fold and unfold sections in half as shown.



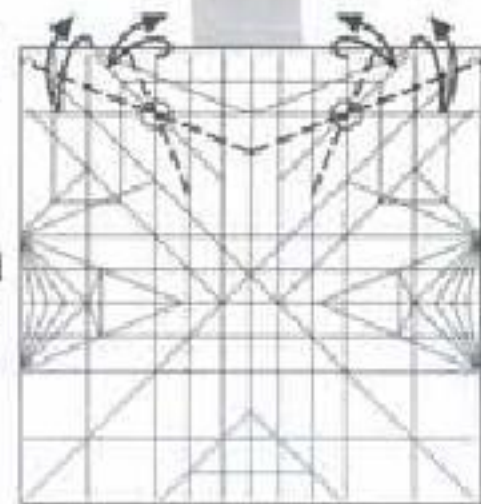
22

フチを折り筋に合わせて折り筋をつける
Fold and unfold edge to crease as shown.



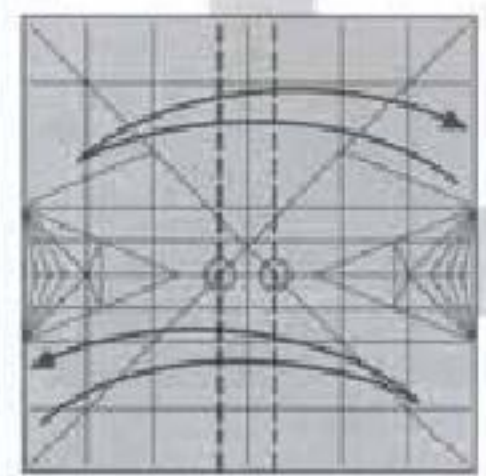
28

半分の角度で折り筋をつける
Fold and unfold angle bisectors as shown.



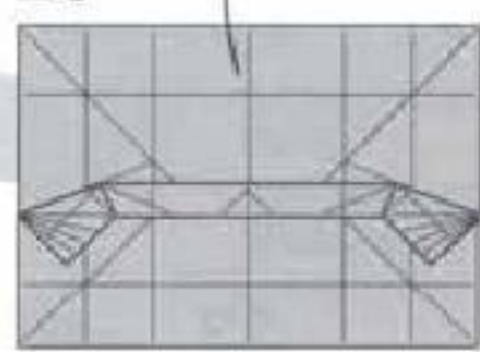
21

○のところで折り筋をつける
Fold edges through the circled intersections.



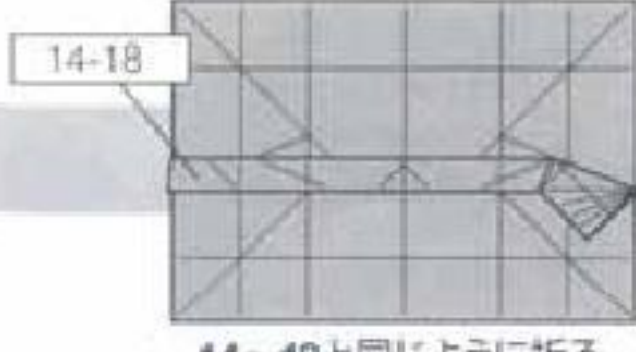
20

戻す
Unfold.

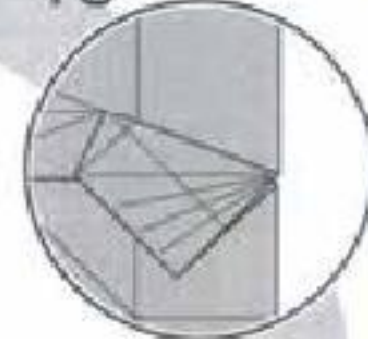


19

14~18と同じように折る
Repeat steps 14-18 on the left.

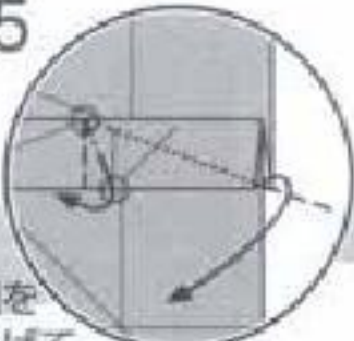


18



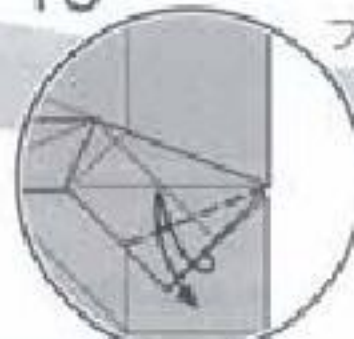
15

内側をひろげてすらすらように折る
Squash fold by pulling the corner down.



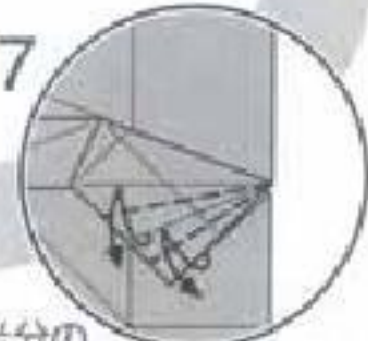
16

フチを折り筋に合わせて折り筋をつける
Fold edge to crease and unfold.

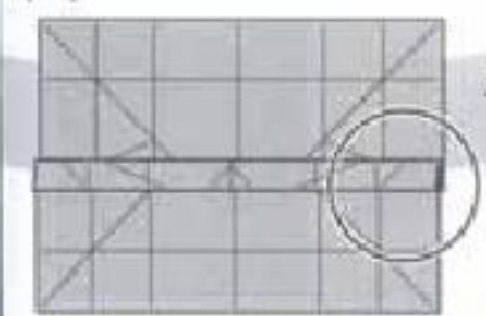


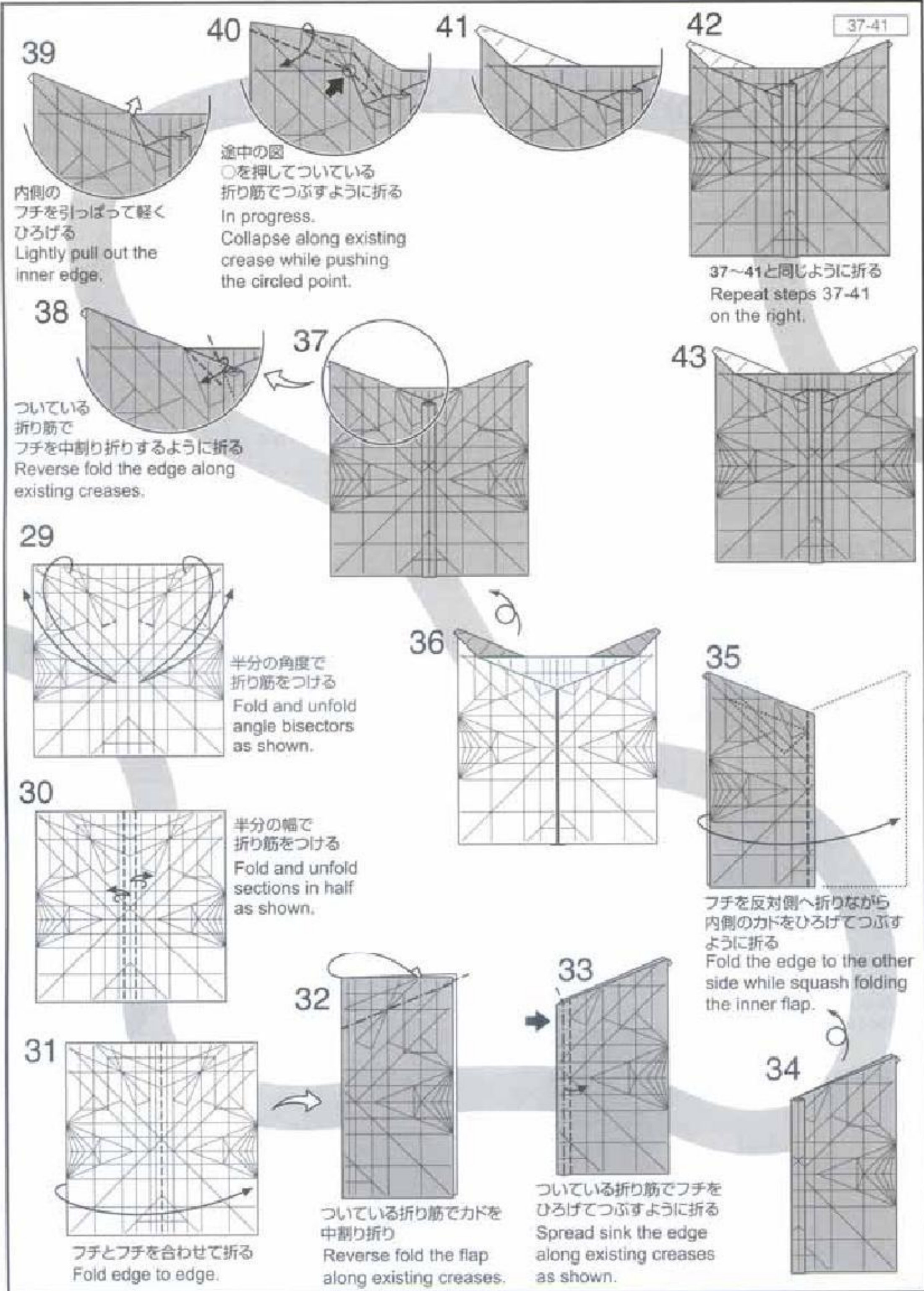
17

半分の角度で折り筋をつける
Fold and unfold the angle bisectors.

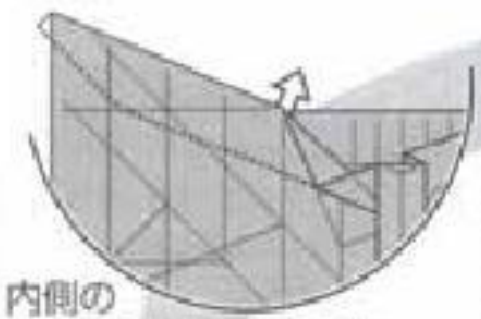


14





39



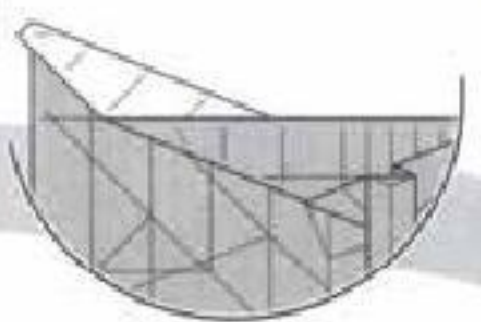
内側のフチを引っばって軽くひろげる
Lightly pull out the inner edge.

40

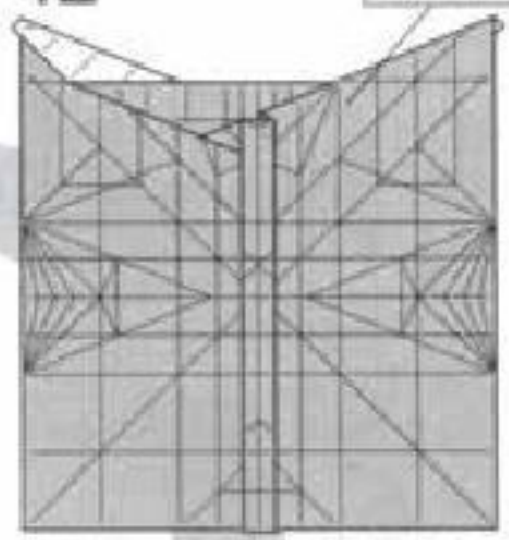


途中の図
○を押してついている折り筋でつぶすように折る
In progress.
Collapse along existing crease while pushing the circled point.

41

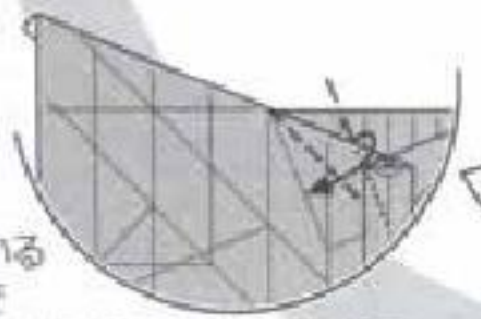


42



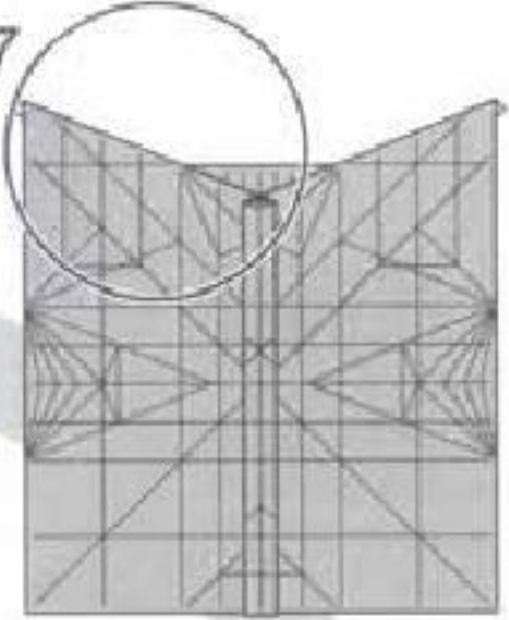
37~41と同じように折る
Repeat steps 37-41 on the right.

38

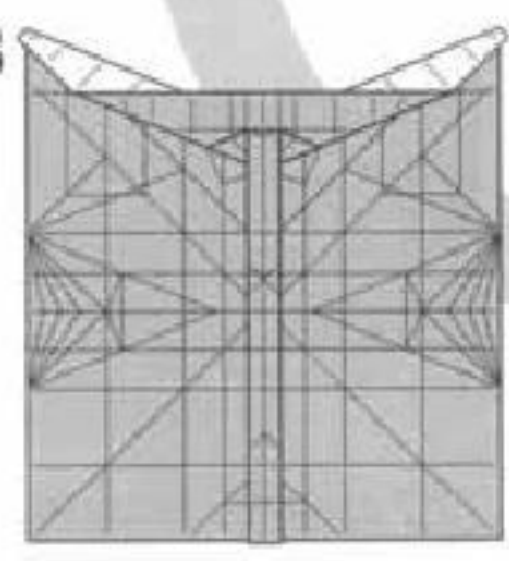


ついている折り筋でフチを中割り折りするように折る
Reverse fold the edge along existing creases.

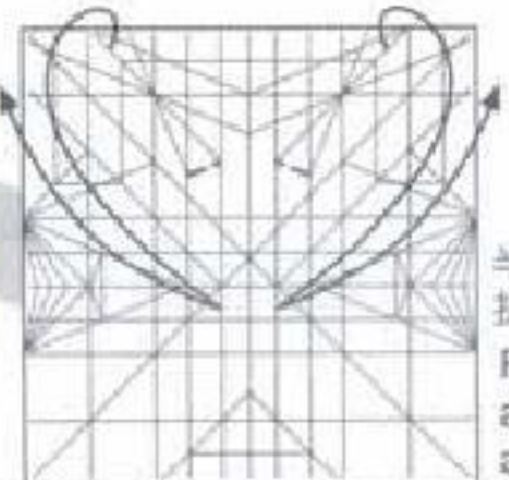
37



43

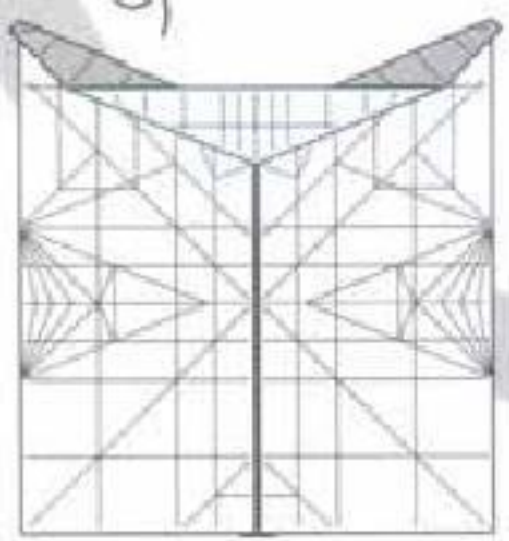


29

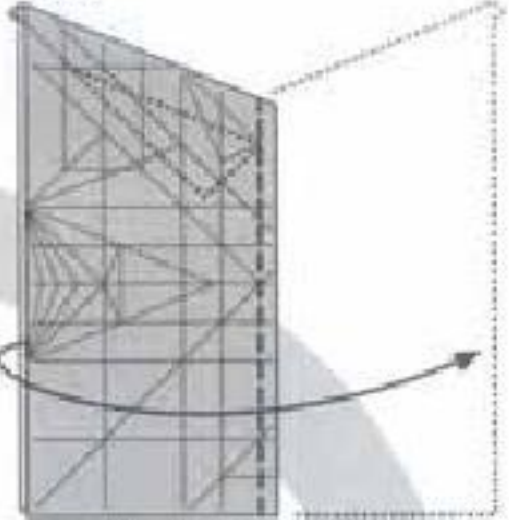


半分の角度で折り筋をつける
Fold and unfold angle bisectors as shown.

36

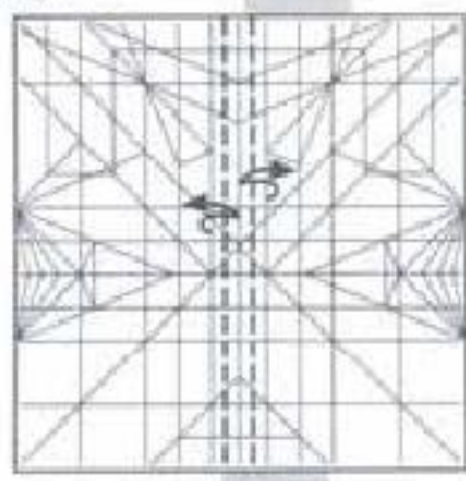


35



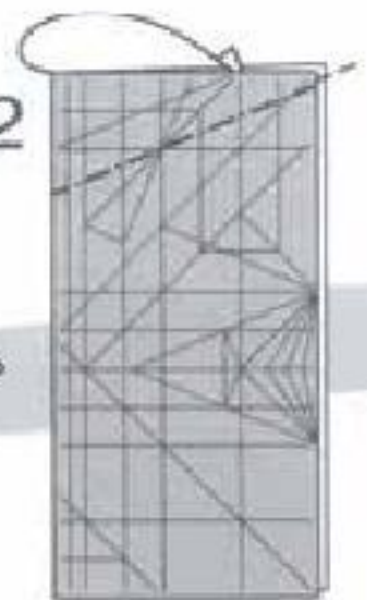
フチを反対側へ折りながら内側のカドをひろげてつぶすように折る
Fold the edge to the other side while squash folding the inner flap.

30



半分の幅で折り筋をつける
Fold and unfold sections in half as shown.

32



ついている折り筋でカドを中割り折り
Reverse fold the flap along existing creases.

33

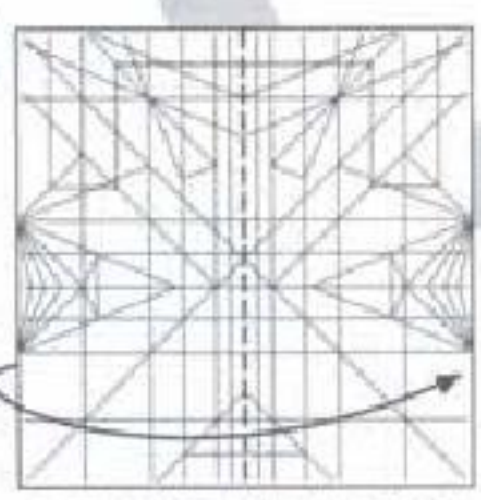


ついている折り筋でフチをひろげてつぶすように折る
Spread sink the edge along existing creases as shown.

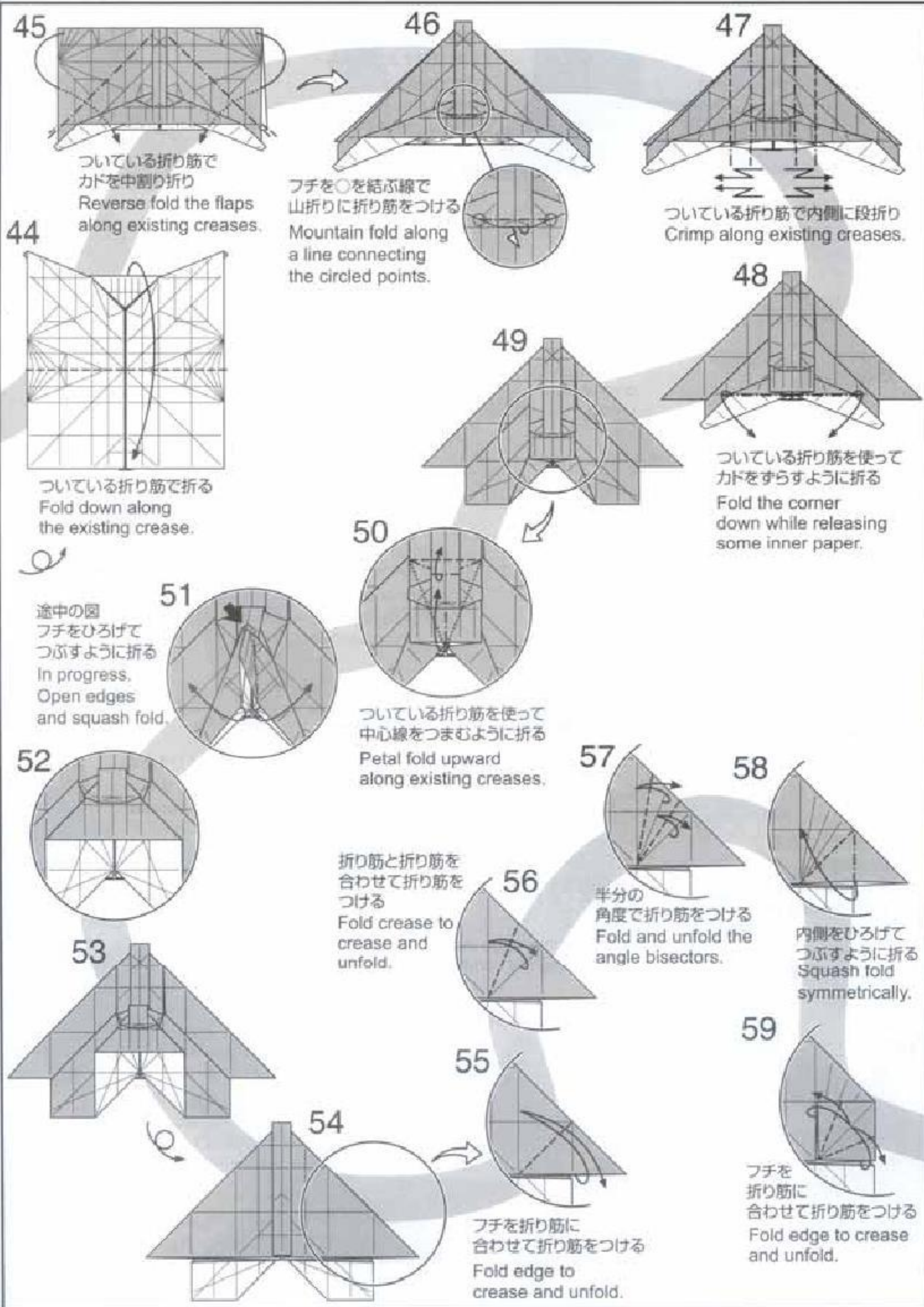
34



31



フチとフチを合わせて折る
Fold edge to edge.



45
 ついでに折り筋で
 カドを中割り折り
 Reverse fold the flaps
 along existing creases.

46
 フチを○を結ぶ線で
 山折りに折り筋をつける
 Mountain fold along
 a line connecting
 the circled points.

47
 ついでに折り筋で内側に段折り
 Crimp along existing creases.

44
 ついでに折り筋で折る
 Fold down along
 the existing crease.

49
 ついでに折り筋を使って
 カドをずらすように折る
 Fold the corner
 down while releasing
 some inner paper.

48
 ついでに折り筋を使って
 カドをずらすように折る
 Fold the corner
 down while releasing
 some inner paper.

途中の図
 フチをひろげて
 つぶすように折る
 In progress,
 Open edges
 and squash fold.

50
 ついでに折り筋を使って
 中心線をつまむように折る
 Petal fold upward
 along existing creases.

52
 ついでに折り筋を使って
 中心線をつまむように折る
 Petal fold upward
 along existing creases.

57
 半分の
 角度で折り筋をつける
 Fold and unfold the
 angle bisectors.

58
 内側をひろげて
 つぶすように折る
 Squash fold
 symmetrically.

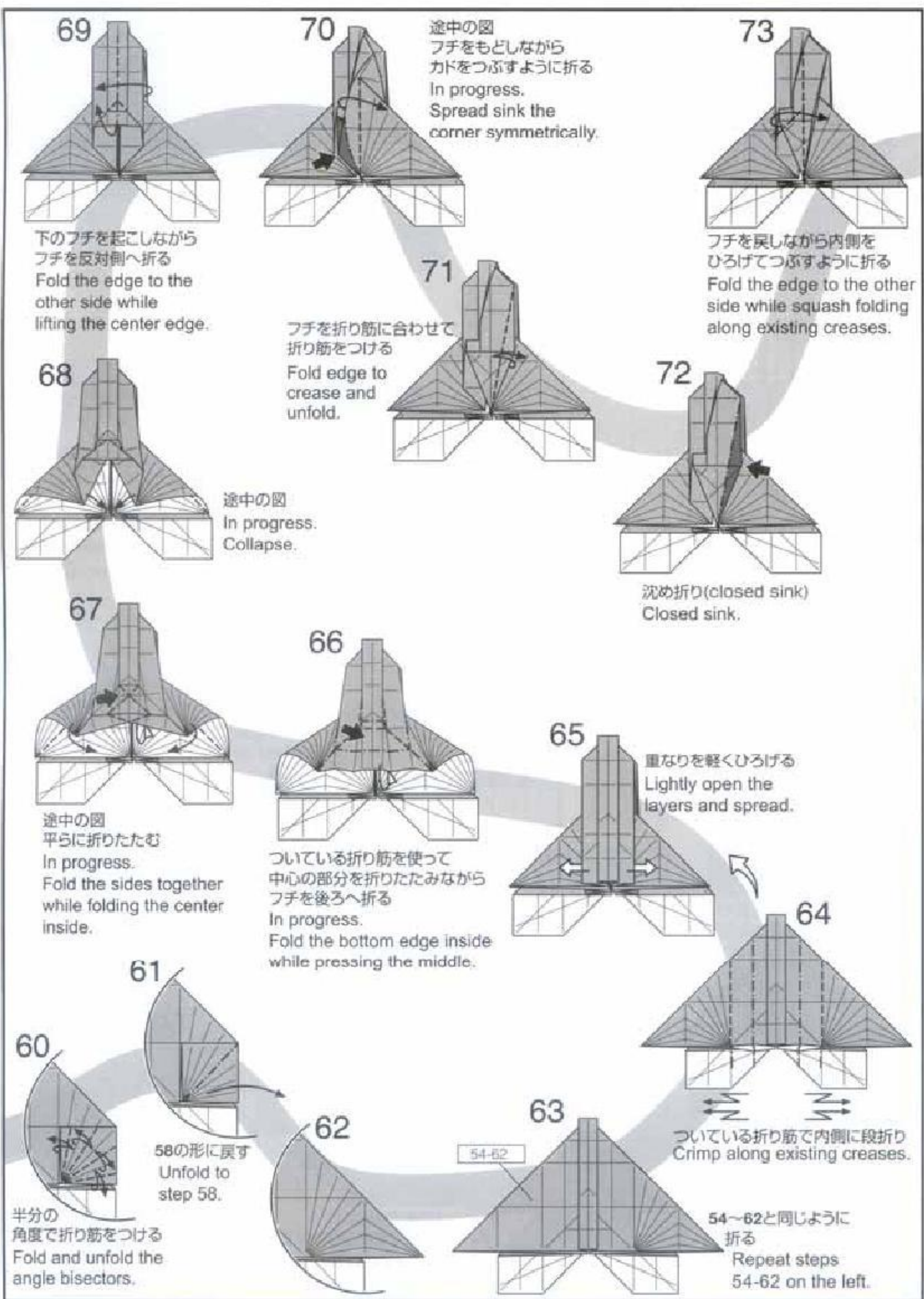
53
 ついでに折り筋を使って
 中心線をつまむように折る
 Petal fold upward
 along existing creases.

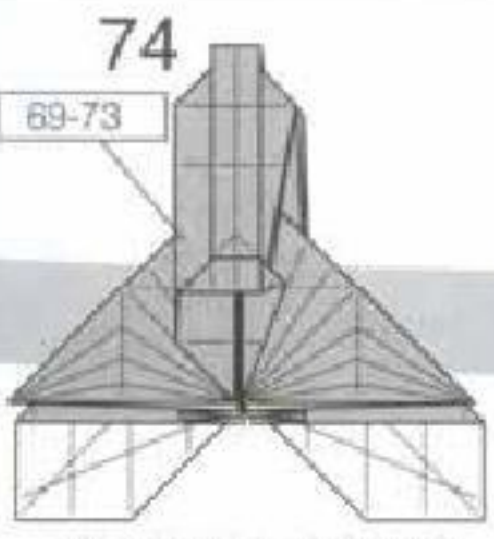
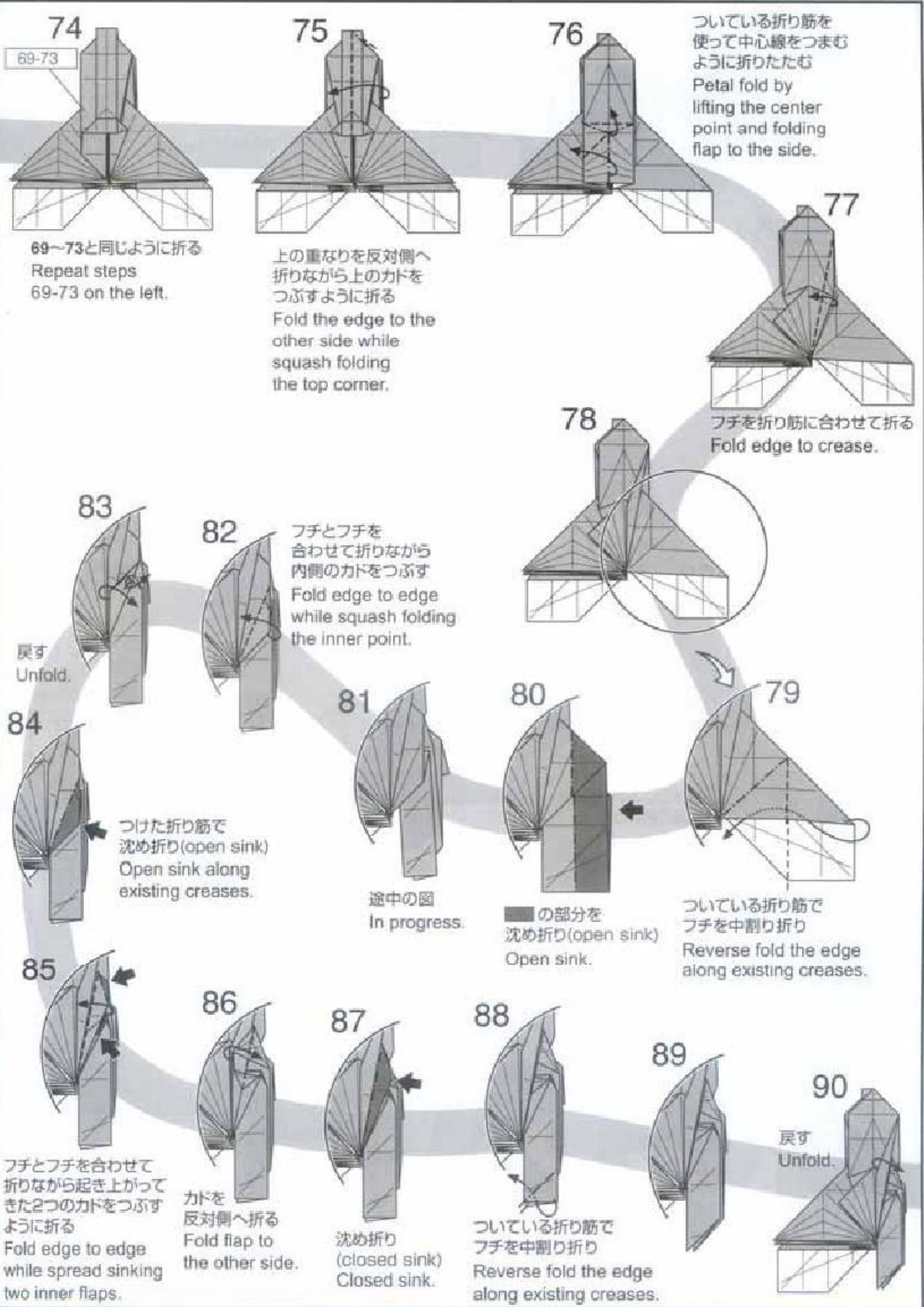
折り筋と折り筋を
 合わせて折り筋を
 つける
 Fold crease to
 crease and
 unfold.

56
 折り筋と折り筋を
 合わせて折り筋を
 つける
 Fold crease to
 crease and
 unfold.

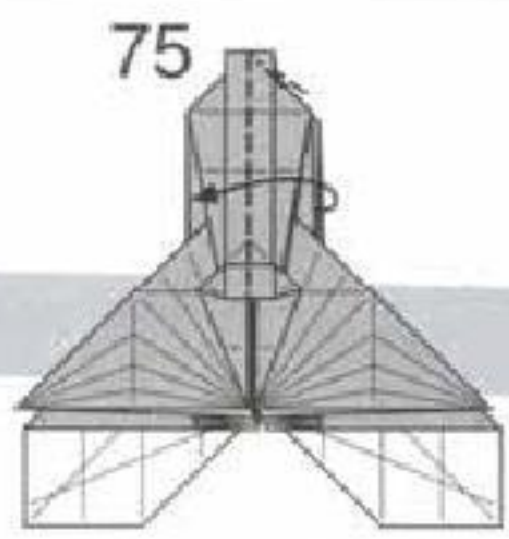
59
 フチを
 折り筋に
 合わせて折り筋をつける
 Fold edge to
 crease and
 unfold.

54
 フチを折り筋に
 合わせて折り筋をつける
 Fold edge to
 crease and
 unfold.

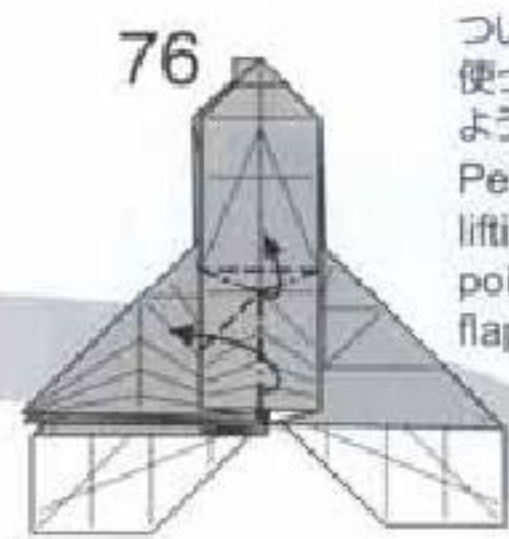




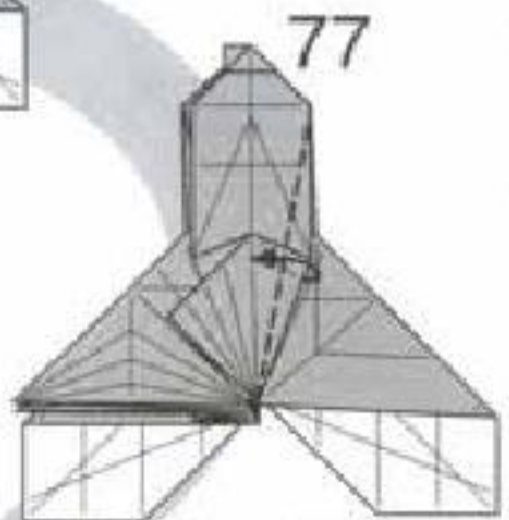
69~73と同じように折る
Repeat steps
69-73 on the left.



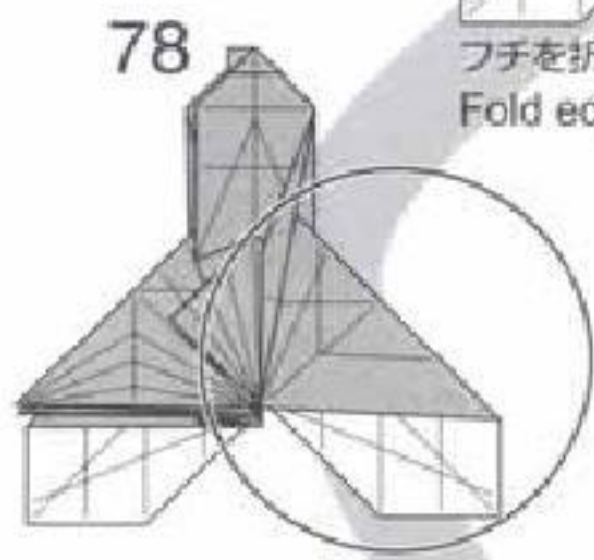
上の重なりを反対側へ
折りながら上のカドを
つぶすように折る
Fold the edge to the
other side while
squash folding
the top corner.



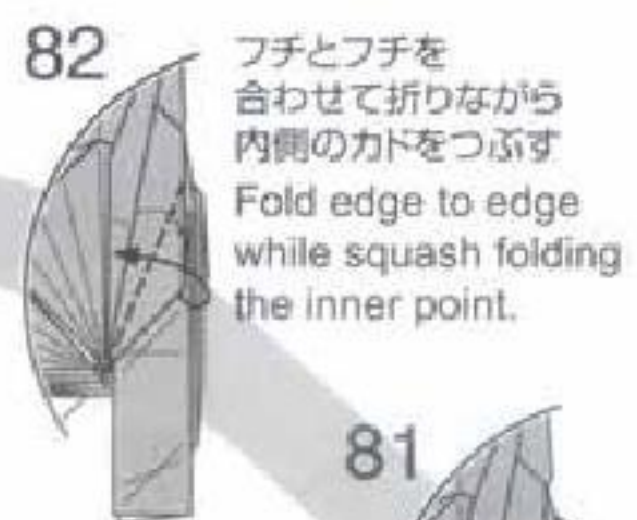
ついている折り筋を
使って中心線をつまむ
ように折りたたむ
Petal fold by
lifting the center
point and folding
flap to the side.



フチを折り筋に合わせて折る
Fold edge to crease.



戻す
Unfold.



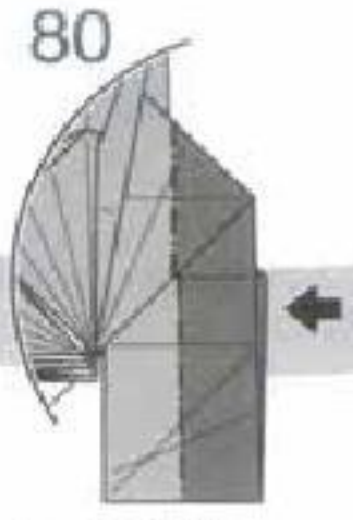
フチとフチを
合わせて折りながら
内側のカドをつぶす
Fold edge to edge
while squash folding
the inner point.



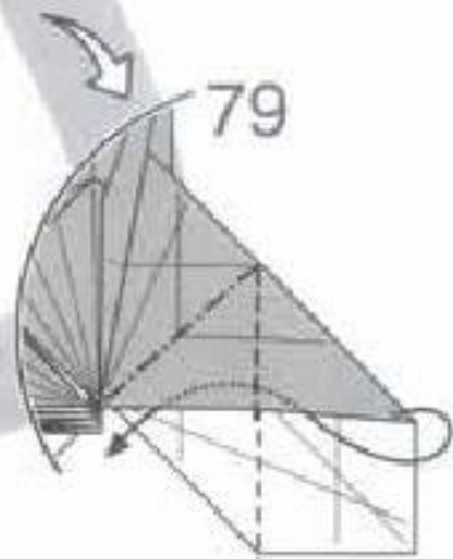
つけた折り筋で
沈め折り(open sink)
Open sink along
existing creases.



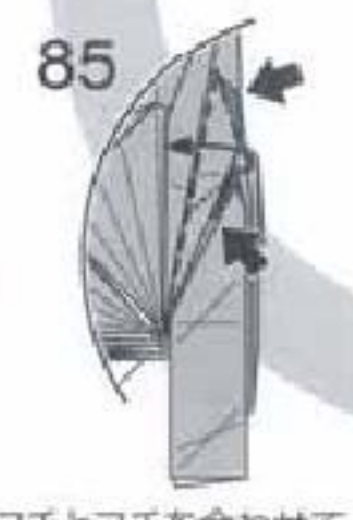
途中の図
In progress.



■の部分を
沈め折り(open sink)
Open sink.



ついている折り筋で
フチを中割り折り
Reverse fold the edge
along existing creases.



フチとフチを合わせて
折りながら起き上がって
きた2つのカドをつぶす
ように折る
Fold edge to edge
while spread sinking
two inner flaps.



カドを
反対側へ折る
Fold flap to
the other side.



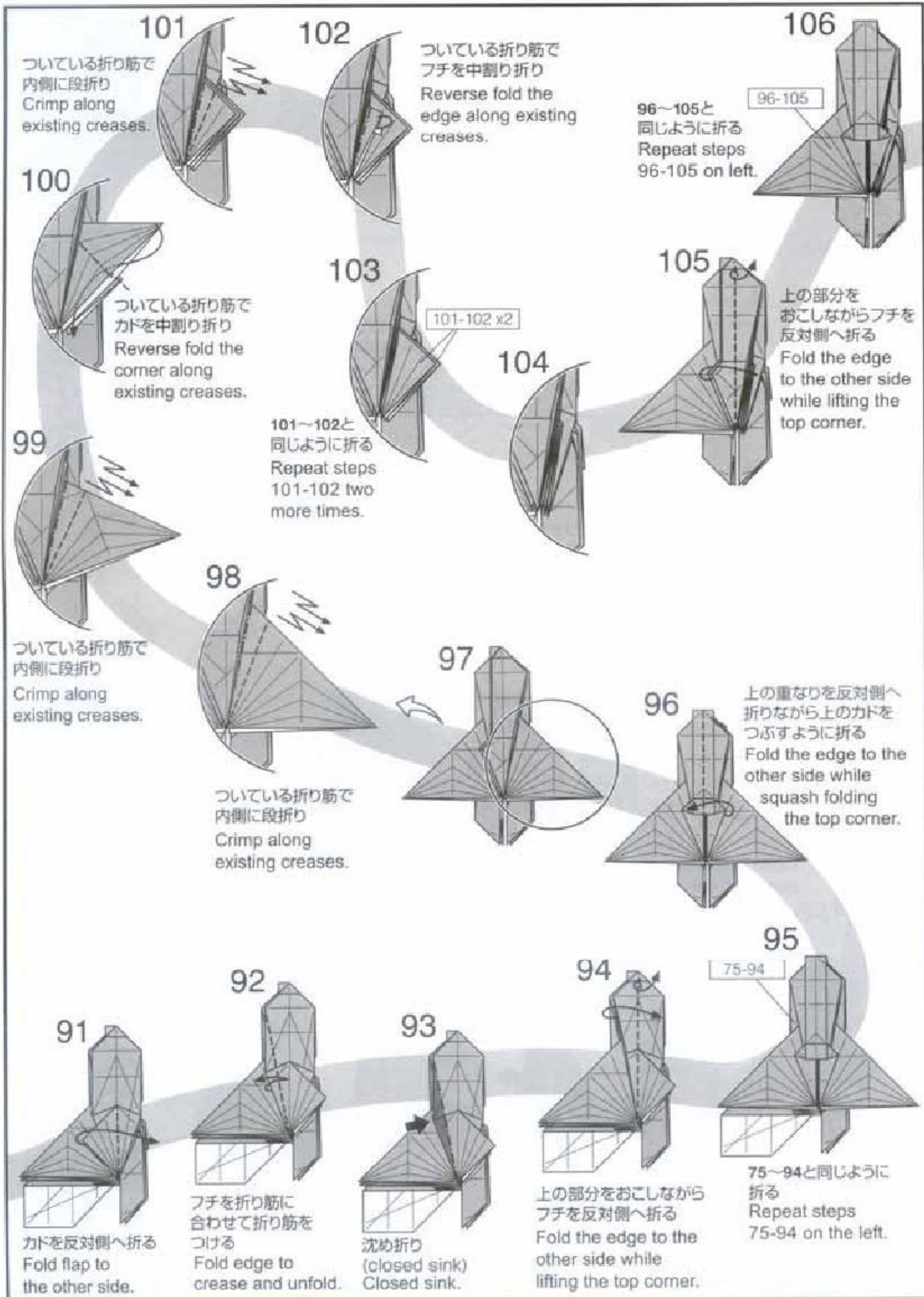
沈め折り
(closed sink)
Closed sink.

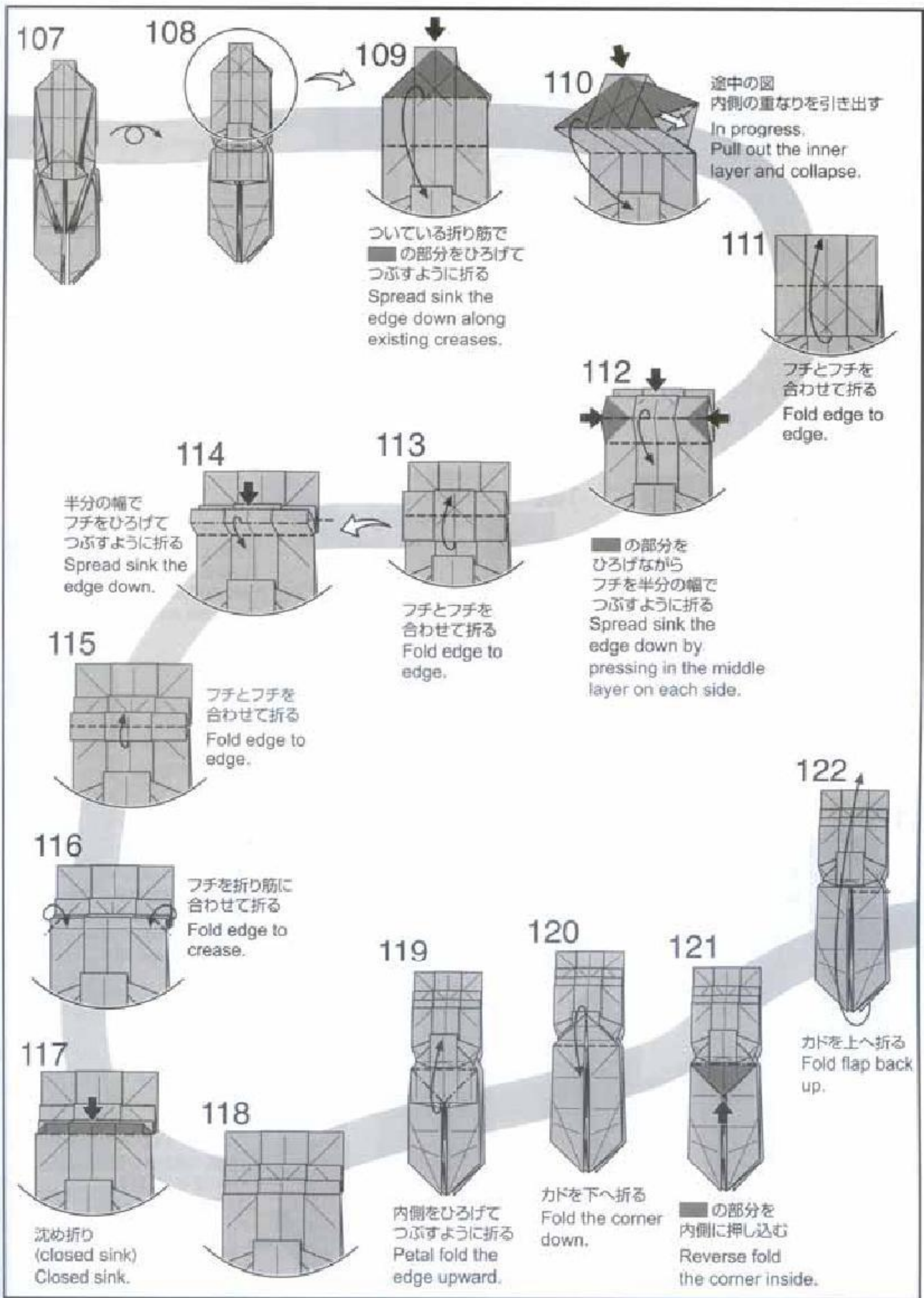


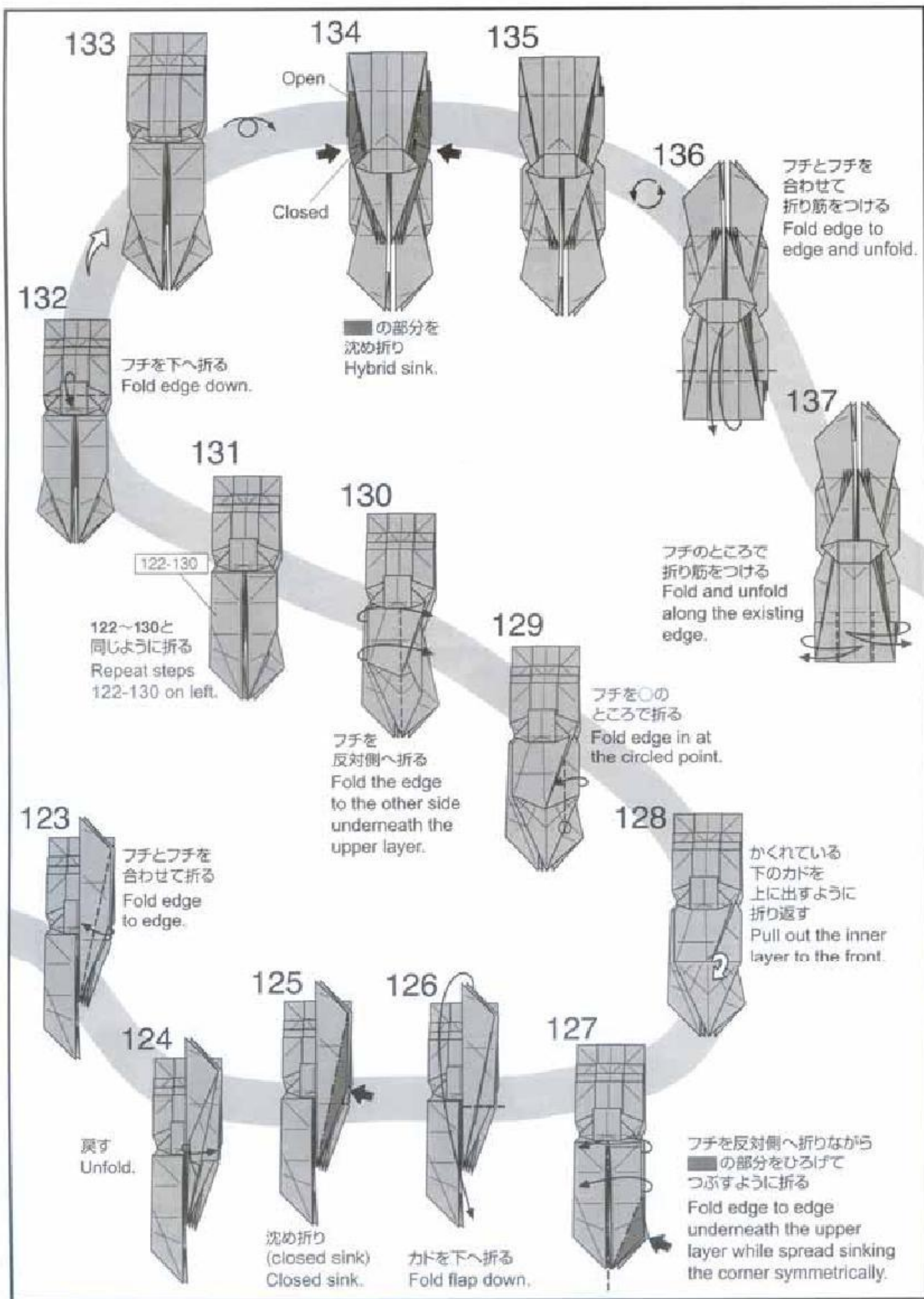
ついている折り筋で
フチを中割り折り
Reverse fold the edge
along existing creases.

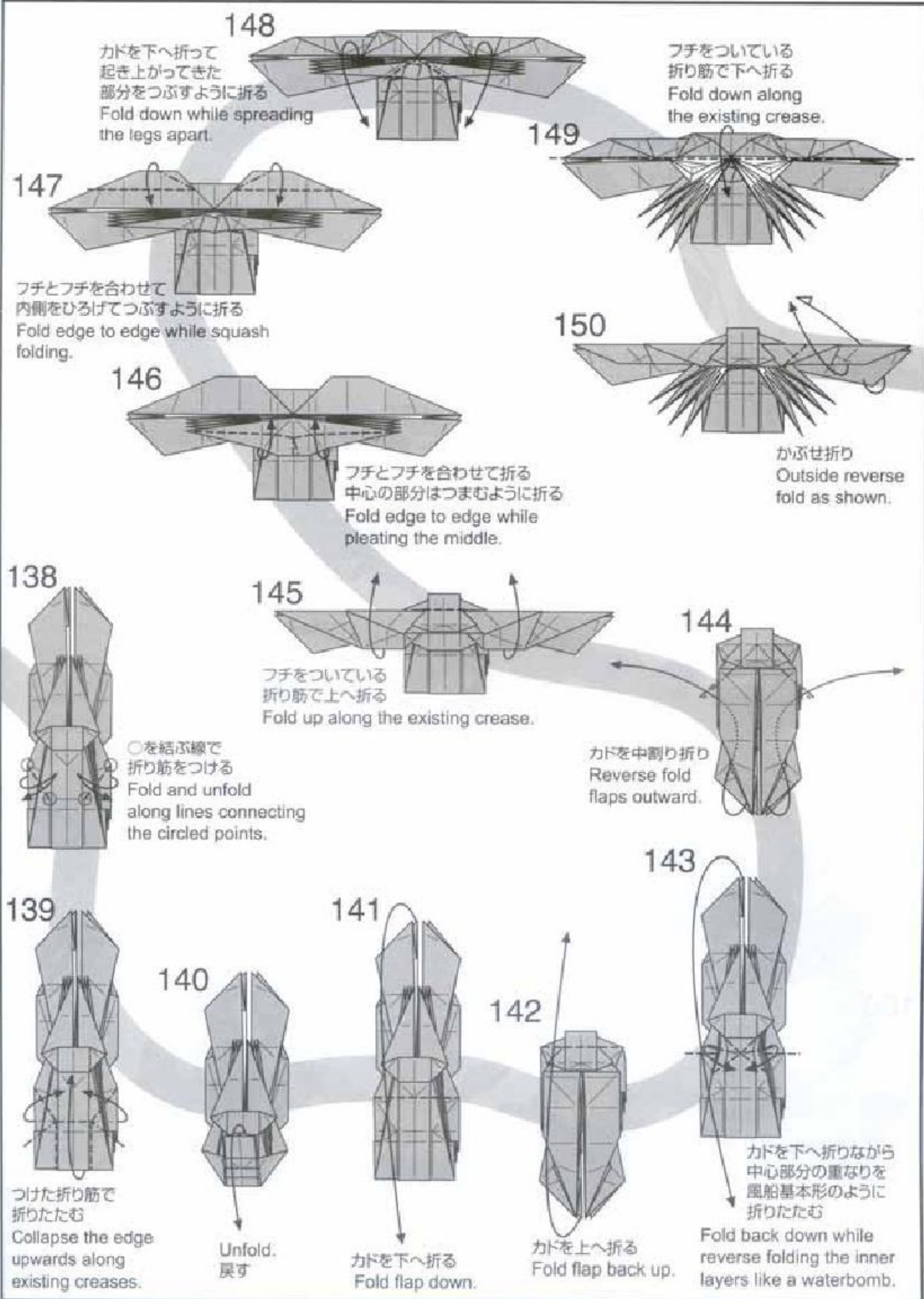


戻す
Unfold.

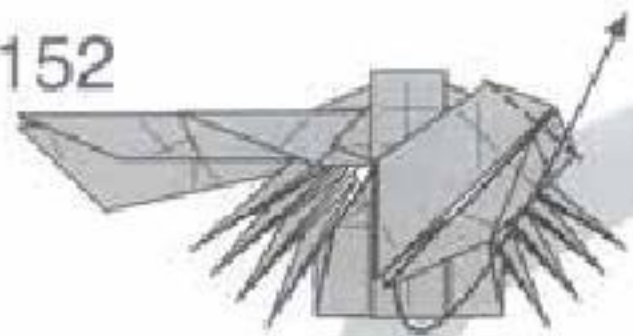






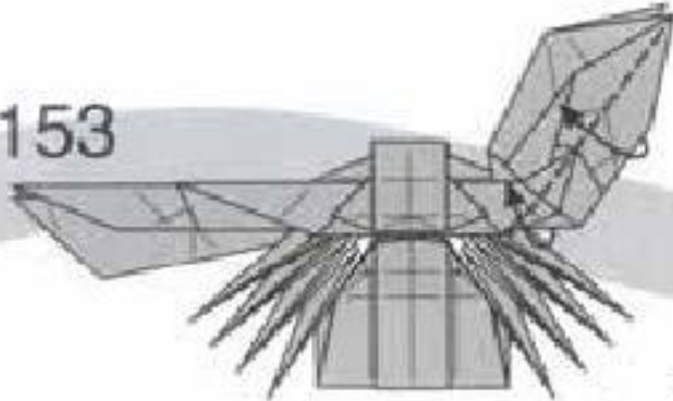


152



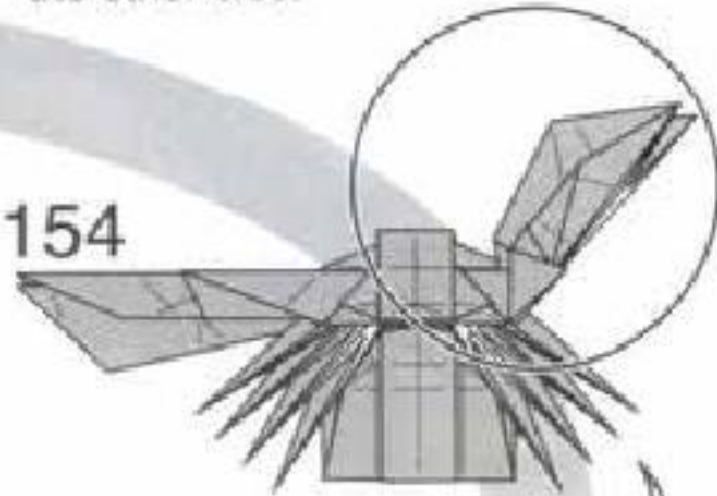
カドを反対側へ折る
Fold the flap to the other side.

153

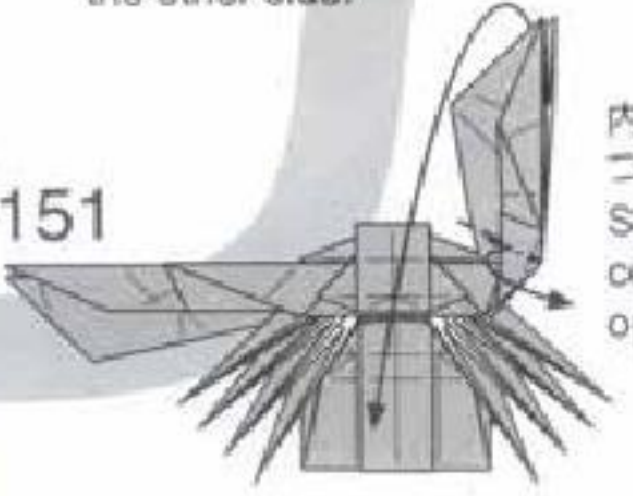


フチを反対側へ折る
Fold the edge to the other side.

154

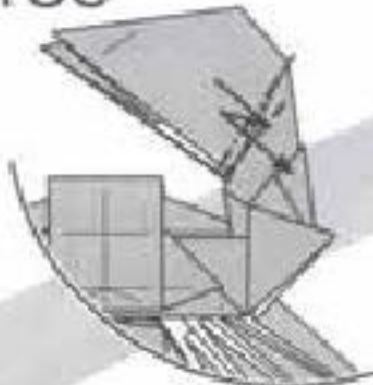


151



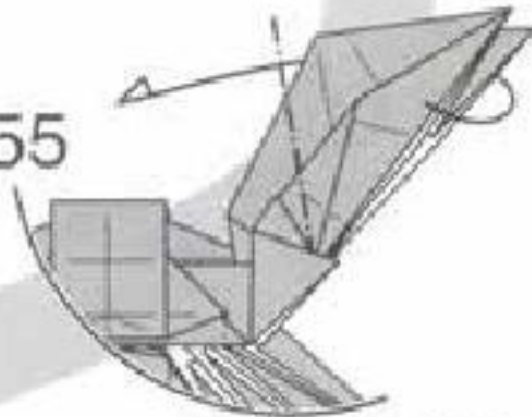
内側をひろげて
つぶすように折る
Squash fold the corner down by opening the top layer.

156



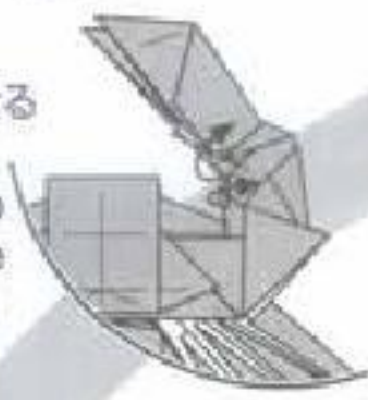
段折り
Pleat.

155



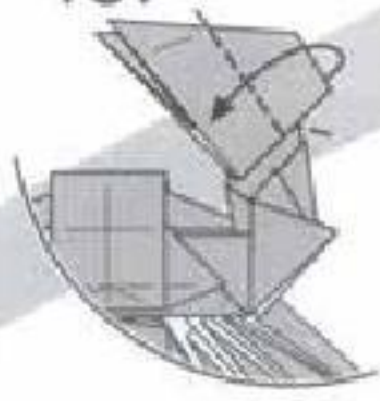
カドを後ろへ折る
Fold the corner behind.

158



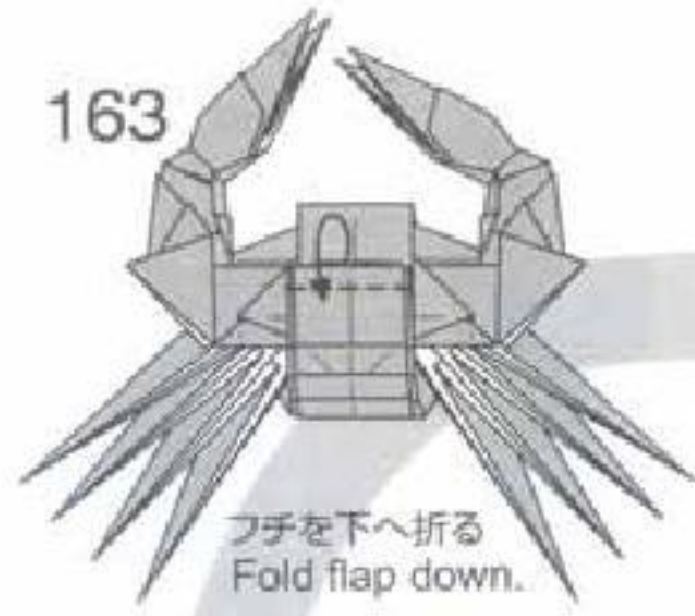
フチを引き寄せるように折る
Fold edges to the other side while squash folding.

157



フチとフチを合わせて
引き寄せるように折る
Fold edge to edge while squash folding.

163



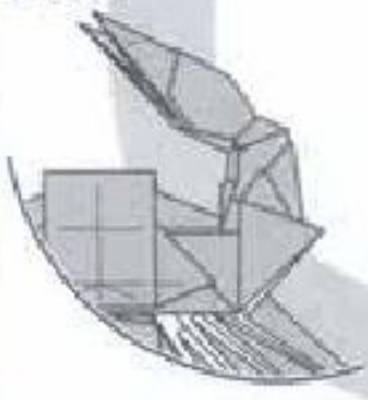
フチを下へ折る
Fold flap down.

159

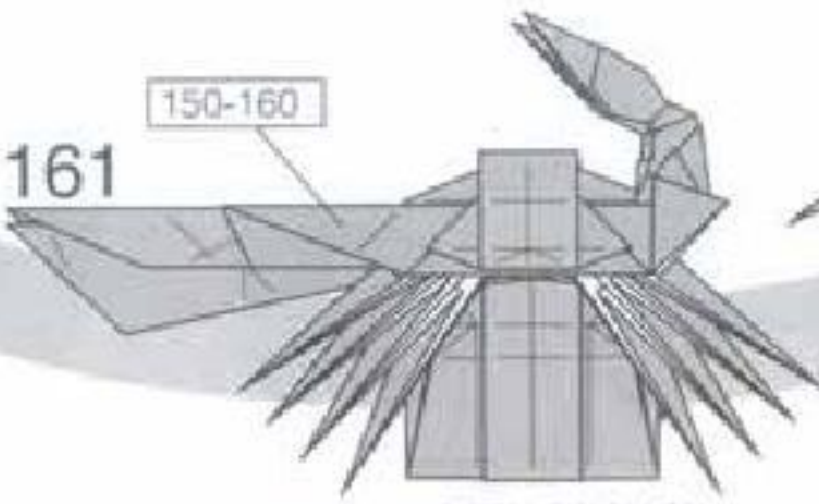


中割り折り
Reverse fold.

160

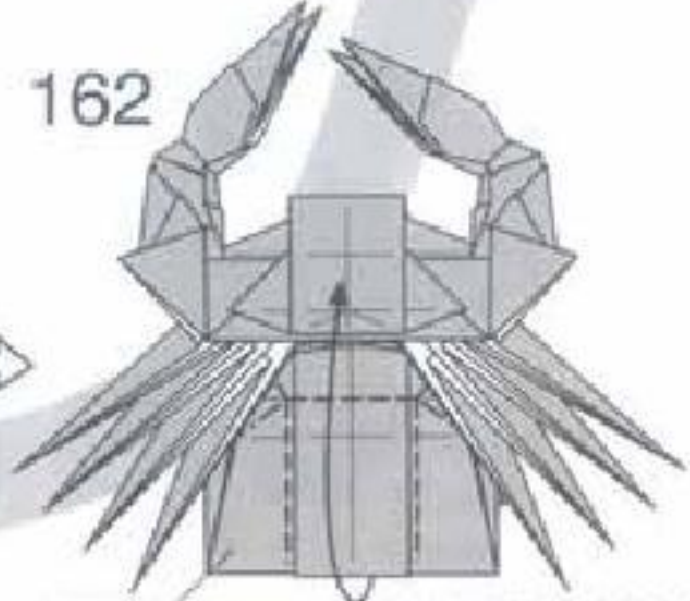


161



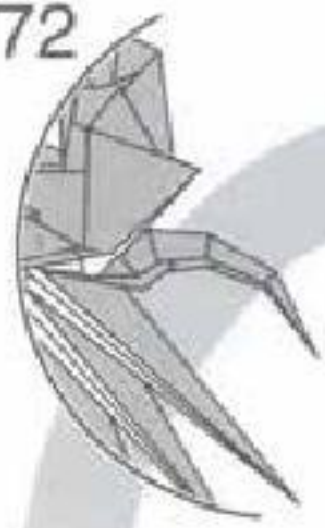
150~160と同じように折る
Repeat steps 150-160 on left.

162



139と同じように折る
Reform the creases from step 139.

172

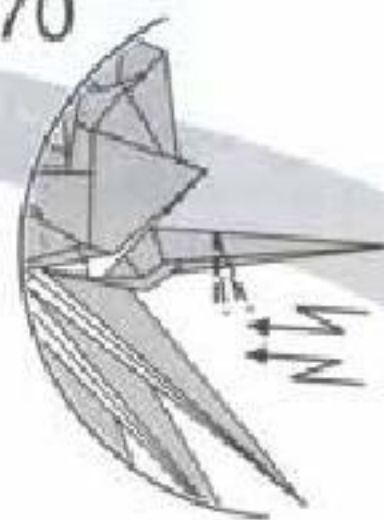


171



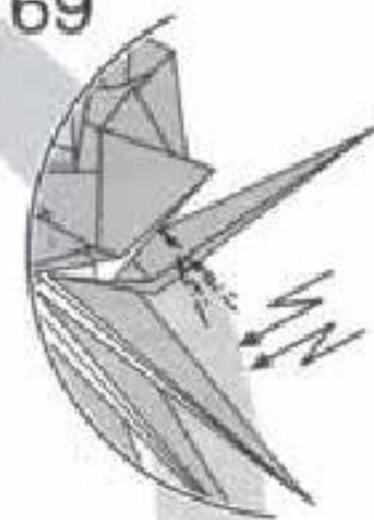
外側に段折り
Crimp.

170



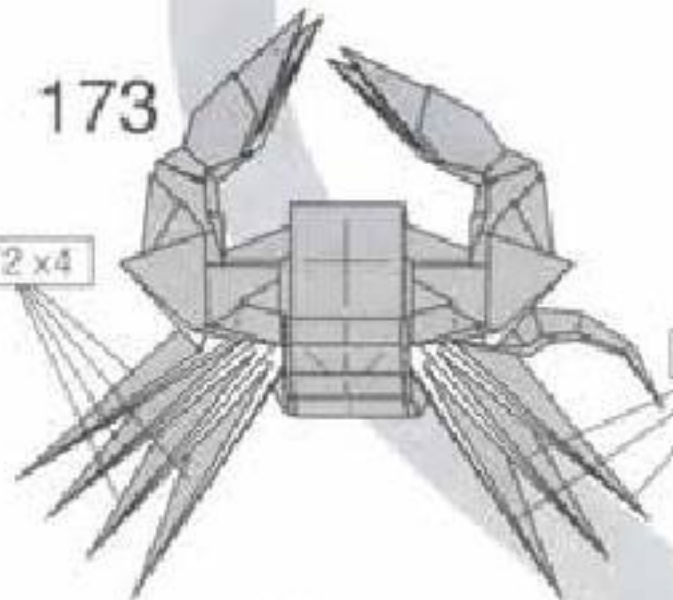
外側に段折り
Crimp.

169



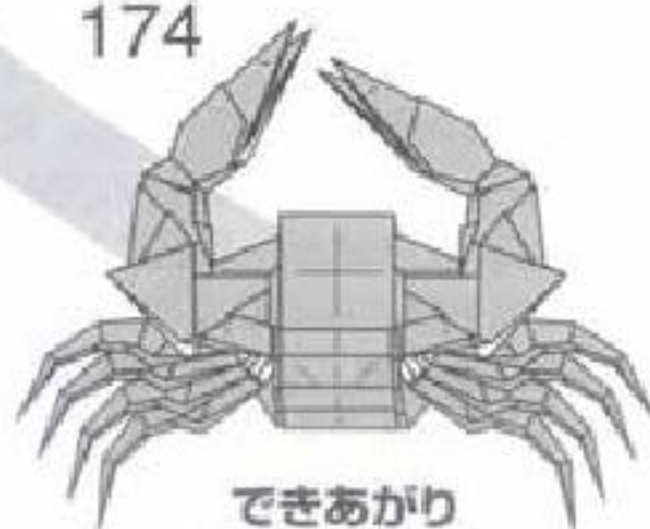
外側に段折り
Crimp.

173



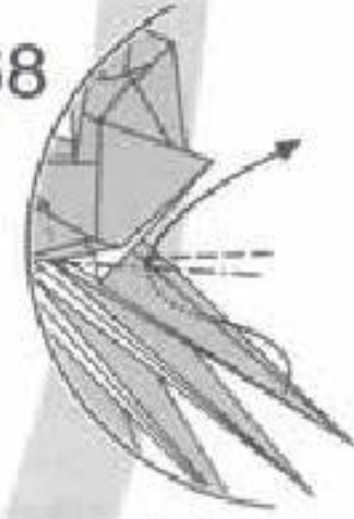
167~172と同じように折る
Repeat steps 167-172
on the remaining flaps.

174



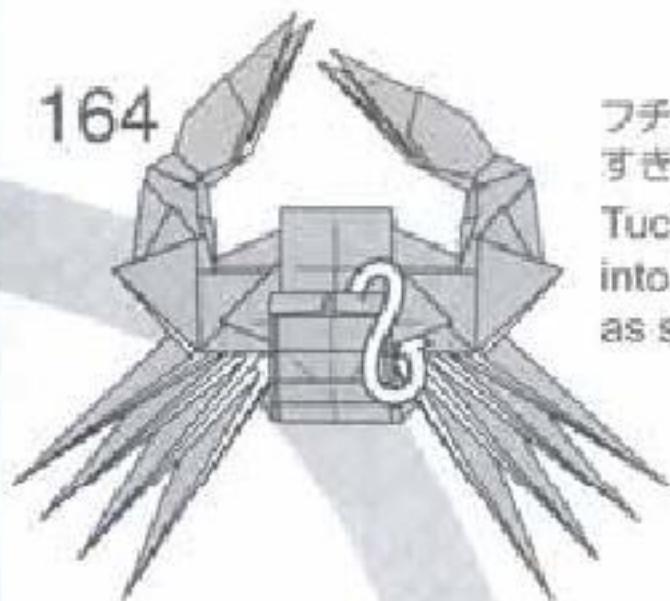
できあがり
Completed

168



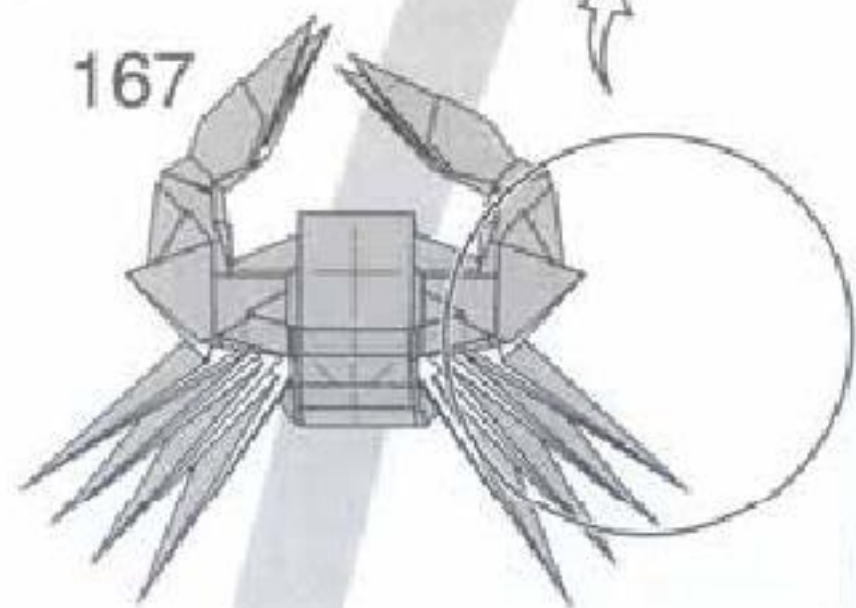
カドを中割り折り
Reverse fold
flap outward.

164



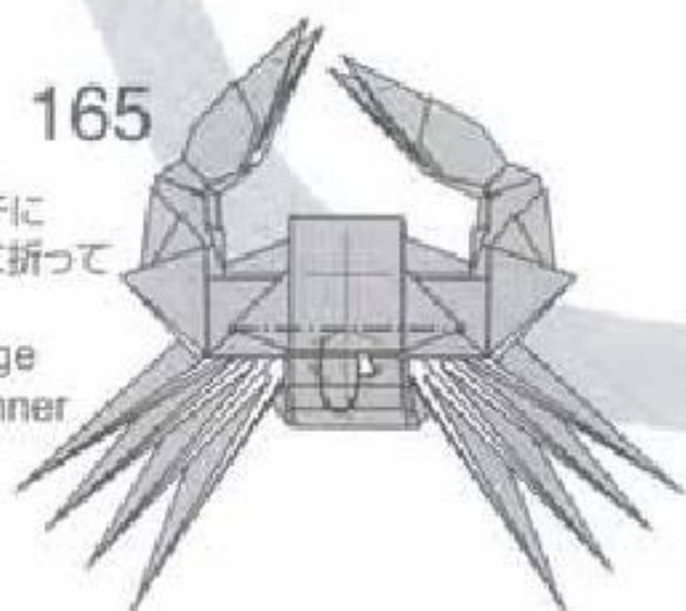
フチを後ろの
すき間に折り込む
Tuck the flap
into the pocket
as shown.

167



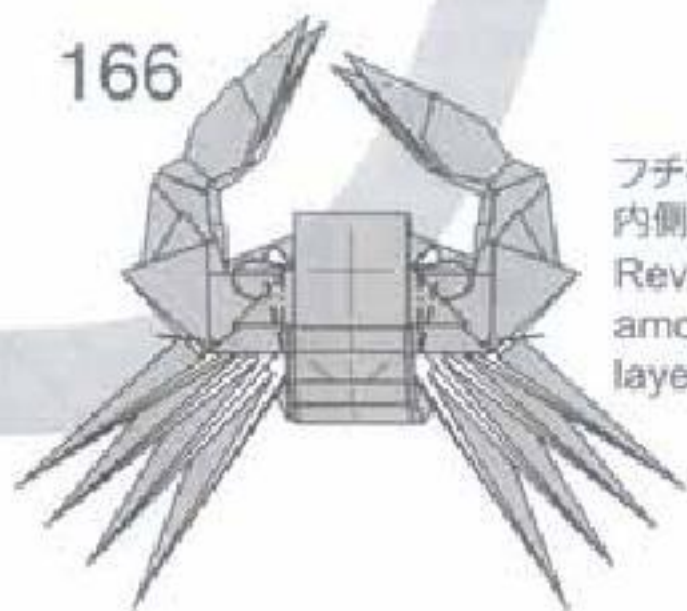
165

折り込んだフチに
かぶせるように折って
ロックする
Wrap the edge
around the inner
flap to lock.



166

フチをすらすらように
内側へ折り込む
Reverse fold a small
amount to lock the
layers in place.



展開図折りに 挑戦

Crease Pattern
Challenge!

第83回

二輪車

Motorcycle

板垣悠一 (15歳)

Itagaki Yuichi (Age 15)

Created: 2013/01

Paper Size: 40cm×40cm

Length: 20cm



冒頭から私事で申し訳無いのですが、実は、僕はもともと蛇腹構造の作品というものを好んで折ることがあまりありませんでした。全く手を付けられないという訳ではありませんが、決して積極的に蛇腹を折っていたとは言えません。というのも、折り線付けが面倒だというのが最大の理由です。根性がないのです。

しかし、若いうちから面倒だ面倒だと好き嫌いしているのは良くないのではないかと思っていた折に、二輪車が登場する某小説を読み、これを契機にと一念発起して取り組んだものがこちら「二輪車」です。

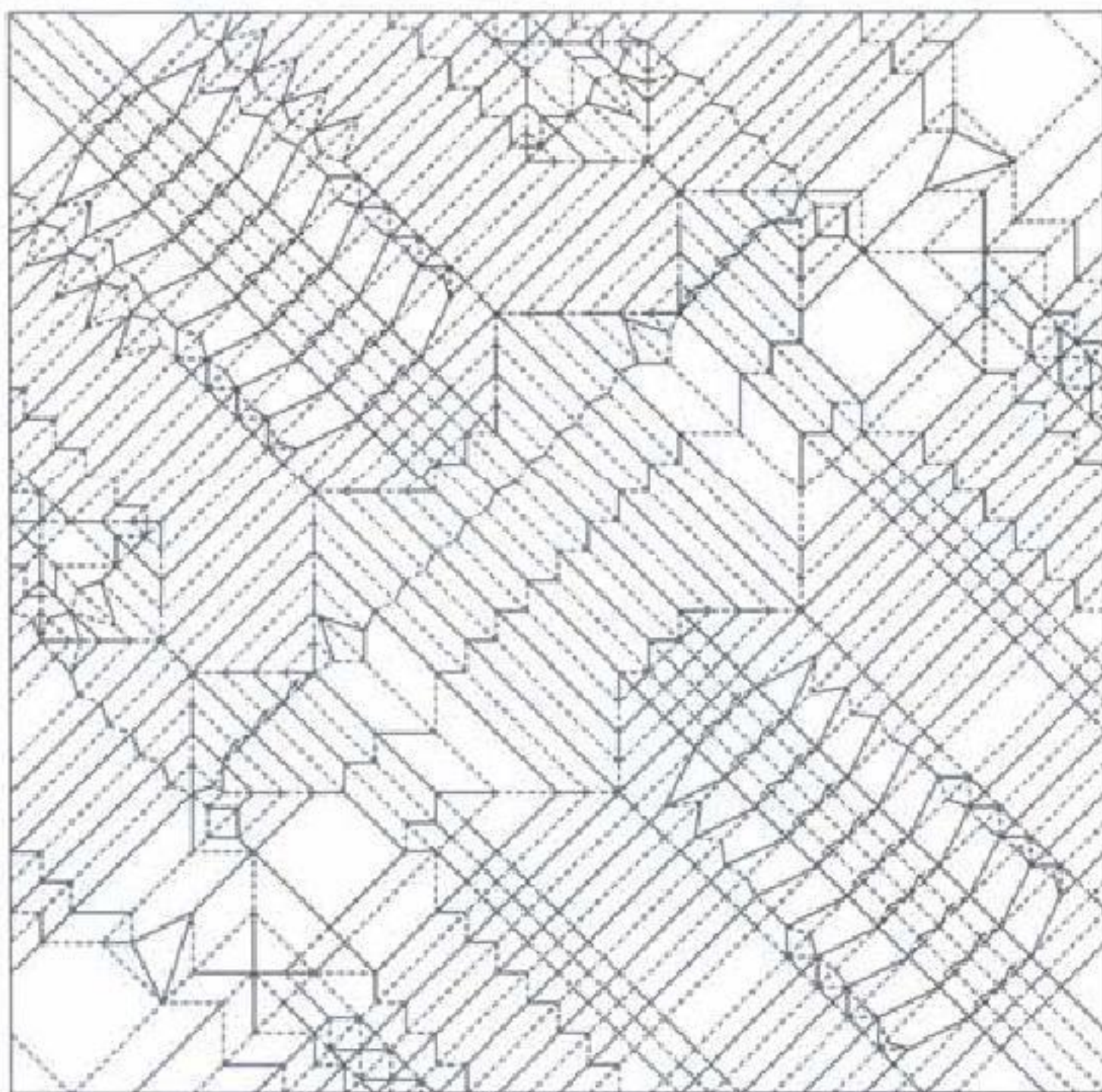
さて、言うまでもなくこの作品の最大のポイントは展開図左上と右下の車輪部分です。ジェイソン・クー氏の「自転車」のイメージがあったのだと思います。折る際にはやはりこの辺りから折り始めるのが良いでしょう。実際この車輪のパーツを削り終えた時点で仕事は8割方終わってしまった感があり、ひょっとしたら「一輪車」として世に出回っていたかもしれない本作ですが、ブック型ではどうも収まりが悪いことに気づき、バイアス蛇腹構造が決定したことで何だか面白いのが出来そうだとなんとかモチベーションが保たれたのでした。めでたしめでたし。

ではここで本作を折る上でのポイントを紹介し、紙は薄めで破れにく

い丈夫な紙が良いでしょう。また一部に紙の裏が出るので、両面同色の紙を用意して下さい。作例ではカラベを使用していますが、おそらくもっとベストな紙があると思います。紙選びは慎重に。バイアス蛇腹72等分を基調としています。縦横まんべんなく折り筋を付ける必要はありません。面倒ですからね。はじめに車輪部分をたんで余った紙はいったんまとめてか

ら、各パーツをひねり出していきます。

展開図をたたみ終えれば、ほとんど形は出来ています。が、残念ながら紙だけで長時間形を保つことは困難です。アルミホイルをサンドした紙を使ったり、厚紙を入れるなど工夫が必要となります。少しインチキな感じもしますがこれはこれで模型作りのように楽しめるのだと開き直りましょう。



File-51

ハインツ・シュトロベル

Heinz Strobl

○ハインツ・シュトロベル(Heinz Strobl)＝1946年ドイツ生まれ。紙テープを使った独自の幾何学作品で知られる。1995年から96年まで、ドイツ折紙協会の代表を務めた。



■折り紙を始めたきっかけは何ですか。

私は幼稚園で初めて折り紙に出会いました。当時のドイツの子供たちは皆、標準的なカリキュラムの中で折り紙に触れます。また、私の父は趣味でグライダーを作って操縦しており、子供の私に紙飛行機の折り方を教えてくれました。でも、私が最初の折り紙の本を手にしたのは、20代初めのことです。折り紙をやめるといふ友人からもらいました。その本は、本多功の『Origami: Japanese Paper Folding』(Fuji Book)でした。

何年後に、2冊目の本を買いました。ロバート・ハービン著『Origami: The Art of Paper-Folding』のドイツ語版です。この本に載っている作品を折って、人にあげていました。あるとき、ハービンの「リス」を同僚にあげたところ、カンガルーとまちがえられました。ショックでしたが、この体験がきっかけとなって、最初のオリジナル作品となる「カンガルー」を創作しました。それから数年間は、ほとんど独りで折っており、折り紙の本を見つけるたびに買っていました。そのころは、ドイツの大人で折り紙をしているのは私だけだと思っていました。

■最初は独りで折っていたのですね。ほかの折り紙愛好家と会ったのはいつですか。

ドイツや他の国に折り紙愛好家団体があることを知ったのは、1989年9月のことです。私の妻のダイアナが、ミュンヘンの生涯学習プログラムの広告に折り紙教室があるのを見つけたのです。講師はなんと、布施知子さんでした。この教室で、パウロ・ムラティーニョさんにも会いました。彼はちょうど、ドイツ折紙協会(Origami Deutschland)を設立したところで、初代代表を務めていました。私はすぐに、この団体に深く関わるようになり、さまざまな時期に会計、編集、副代表に任ぜられた後、1995年から96年までは代表を務めました。

■ノトロジーとスナポロジーはどのようにして生まれたのですか。

このような折り紙を追求するきっかけになったことは、主に2つあります。第1は、フィリップ・ノーブルさんが創作した「フレキシキューブ」です。これは、1993年のドイツのコンベンションで折ったのですが、1本の長い紙テープを使った、8つの立方体でできている動く作品です。2つ目のきっかけは、香港の友人から習った、伝承の「ラッキースター」(訳注:紙テープを五角形に折ってから角をつまんでふくらませる星)です。しかし、紙テープを創造的な方法で扱うためのアイデアは、なかなか思い浮かびませんでした。その状況に変化をもたらしたのは、1994年のドイツのコンベンションで再び布施さんと会ったことです。布施さんがテープを折っているところをじっくり見たことが、眼を破る助けになりました。

そうして、紙テープを折るという自分なりの技法を展開し始めました。この技法を、ノトロジー(Knotology)とスナポロジー(Snapology)と呼んでいます。前者は、1993年に名付けたもので、大まかに言えば、結び目(knot)のある1本または少数の長いテープで作る作品です。後者は、1999年に始めたもので、多数の短いテープ(結び目を作った余り)を互いに噛み合わせて(snap)作る作品です。1994年の秋、第2回折り紙の科学国際会議(現在の折り紙の科学・数学・教育国際会議:OSME)に参加するために初めて日本を訪れました。その会議で、対称性について、そしてテープで正多面体を折ることから得られた洞察について発表するために準備する中で、「球'94」という作品が生まれました。これは、今では私のロゴのようになっています。それ以来、私はずっとテープを折っています。

■あなたの作品の多くは動きますね。これは意図したものでか、それとも偶然ですか。

私には、「ぐらぐらの壁」など、立方体が動く作品がいくつかあります。これらの作品は、もちろん動くことを意図したものです。このような作品を創作する過程では、多くの場合、少数の互いにつながった立体(たとえば立方体)について実験し、その相互の動きを調べます。これが最終的に、具体的な作品のアイデアにつながります。アイデアをテストするために試作品を作ります。通常は不格好な作品ができますが、アイデアが正しいことを確かめることができます。ここからの作業が、つまり、作品を折るためにもっともよい折り方を見つけることが、難しいところです。これには何年かかかることもあります。講習の中で、受講者が手こずったりうまく折れなかったりするのを観察することが、作品の改善に役立ちます。なかには偶発の発見もあります。たとえば、面が四辺形のスナポロジー作品が動くということがそうでした。ただし、発見の後には、それを意識的に作品に使用します。

(翻訳:羽鳥公士郎)



▲シュトロベル氏の関西コンベンションでの講習作品、「Wobbling Wall(ぐらぐらの壁)」。9個の立方体が繋がっていて、様々な形を見せてくれる

【注】シュトロベル氏の作品は、本誌P.22にも掲載しています



Rabbit Ear
つまみおり

Information

第19回折紙探偵団 コンベンション 参加申し込み受付開始

2013年8月16日(金)、17日(土)、18日(日)

会場:東洋大学1号館(東京都文京区)

吉野一生基金招待者は、ロバート・J・ラング氏(U.S.A.)、ニコラス・ガハルド・エンリケス氏(チリ)に決定!

夏の熱い3日間、折り紙漬けになってとことん楽しむ日本最大の折り紙イベント。折紙探偵団コンベンションが今年も東洋大学で開催されます。本誌の購読等に関わらず、折り紙が好きならどなたでも参加できます。常連の皆様もまだ参加した事の無い方も、奮ってお申し込みください!

◆主な内容

●特別講演会

例年3つの講演を企画しており、現在以下2名による講演が決定しています。

ロバート・J・ラング(折り紙作家)
萩原一郎(東京工業大学名誉教授)

●折り紙教室

当大会のメインイベント。1度に10~12の教室が開講されます。

●お楽しみ懇親会

毎回100名を超す参加者で賑わう懇親会はお楽しみゲームも予定。

●折り紙アイテムオークション

参加者から提供された折り紙アイテムのオークション。

●作品展示

オリジナル作品を中心にJOASに寄せられた皆さんの自慢の作品を展示。コンテスト応募作品も展示します。

●参加費

大人=5,000円
学生=4,000円(小、中、高、大、専門学校)
親子割引(小学生以下2名まで適用可)=
大人5,000円+子ども500円x人数分

*折り紙教室の参加費には、折り紙用紙、名札、記念バッジ、ボールペンなどの費用が含まれています。折り紙用紙とボールペンは1人分の配布となります。

●参加申し込み方法

同封の申込用紙に必要事項を記入し、郵便またはファックスで日本折紙学会事務局までお送りください。

日本折紙学会事務局=〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

TEL&FAX/03-5684-6080

※申込用紙が複数必要な場合は、コピーをとって使用してください。

◆折り図集原稿大募集

コンベンションに合わせて発行される折り図集への投稿作品を募集中。自信作(折り図)をお寄せください。

●応募資格 特にありません。アマ・プロ、年齢不問。本誌購読者及び日本折紙学会会員である必要もありません。採用者(ページ数の条件あり)には、掲載作品数に関係なく『第19回折紙探偵団コンベンション折り図集』を1冊進呈。

●応募作品の条件 創作もしくはアレンジの作品で、未発表の自作折り図に限ります。(アレンジ作品の場合は、オリジナルの制作者の了解を取った上で、名前も明記すること。)原稿はデジタルデータが基本となります。

●折り図投稿マニュアル入手方法
ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能です。

◆応募締め切り:2013年6月末日

◆コンテスト作品募集

今回で7回目となるJOAS創作折り紙コンテスト。折紙探偵団コンベンション中に行われるこのコンテストは参加者の人気投票によって作品が選ばれます。今回の特別テーマ部門では、JOASの公式キャラクターを募集します。

皆さんに愛されるキャラクターをお寄せください。また、例年通り、干支部門、おりがみはうす賞もあります。

■JOAS賞特別テーマ部門:JOAS公式キャラクター

・「JOASの公式キャラクター」を考えたとしたら、どのようなものになるでしょうか?このような発想のもとに、作品を募集します。

・「元のデザイン画を考えて、その上で折り紙作品にしたもの」と、「最初から折り紙作品としてデザインしたもの」の、どちらでも可です。

・「コンベンション参加者と評議員による投票」で最多得票数となった作品が、必ずしも「JOASの公式キャラクター」になるわけではありません。

■JOAS賞干支部門:馬

■おりがみはうす賞:アクション折り紙

・なんらかの、「動かす」もしくは「動く」要素を持った作品を募集します。

・複合は可(枚数・大きさを明記すること)。切り込みは不可。

・平面・立体作品のいずれでもOKです。

●申込用紙入手方法

ダウンロード:折紙探偵団HPの「コンベンション特設ページ」より可能です。

◆応募締め切り:2013年7月末日

19th Origami Tanteidan Convention Call for Diagrams and Models

We will be holding the 19th Origami Tanteidan Convention from August 16th to 18th, 2013. We are currently accepting diagrams for the annual convention book. You will receive a complimentary copy if your diagrams are included. Templates are available on the JOAS website. The deadline for submission is June 30th. During

the convention, we will also hold the 7th JOAS Origami Model Competition with three categories: Horses, Action models, and a JOAS mascot (if accepted your model may become the new symbol of JOAS). For more details, please visit the JOAS website.

<http://www.origami.gr.jp/Convention/19th/index-e.html>

◆“6OSME in Tokyo” 開催決定

第6回折り紙の科学・数学・教育国際会議(The Sixth International Meeting of Origami Science, Mathematics and Education: 6OSME)を2014年8月10日(日曜日)より13日(水曜日)まで、東京大学本郷キャンパス 弥生講堂(東京都文京区)にて開催することが決定した。

本国際会議は、折り紙に関する様々な学術研究の国際交流を目的としており、1989年にイタリアで開催されて以来、4-6年毎に開催されており、前回の第5回はシンガポールで2010年に行われた。

第6回目となる今回は1994年に大津で行われた第2回以来、20年ぶりの日本での開催となる。日本折紙学会は組織委員、プログラム委員として本国際会議の準備、運営をサポートする。また、2014年8月15日からは第20回の折紙探偵団コンベンションを開催予定であり、2014年は折り紙の熱い夏となりそうだ。

<大会の概要>

1.運営体制

議長:三浦公亮(東京大学名誉教授/日本折紙学会会長)

副議長:萩原一郎(東京工業大学名誉教授/明治大学特任教授/先端数理科学インスティテュート副所長)、立石浩一(神戸女学院大学教授/日本折紙学会評議員)

組織委員長:萩原一郎(同上)

同副委員長:三谷 純(筑波大学准教授/日本折紙学会評議員)

同副委員長:西川誠司(日本折紙学会評議員代表)

プログラム委員長:川崎敏和(阿南高専教授/日本折紙学会評議員)

同副委員長:上原隆平(北陸先端科学技術大学院大学教授)

同副委員長:館 知宏(東京大学助教/日本折紙学会評議員)

2.会期 2014年8月10日(日曜日)より13日(水曜日)

3.開催場所 東京大学本郷キャンパス 弥生講堂(東京都文京区)

4.会議の概要 国内外の折り紙に関する研究者(数学、コンピューター科学、工学、教育学など)200-300名が集まる国際会議。

参加方法、講演申し込み方法その他詳細情報は随時origami.gr.jp/6osme/にて公表される。

第14回折り紙の科学・数学・教育研究集会のお知らせ

折り紙の科学・数学・教育に関する最新研究の発表会が開かれます。どなたでも聴講することができます。

◆6月22日(土)10:30~17:00(昼食は各自)

◆会場:日本折紙学会・JOASホール(東京都文京区白山1-33-8-217)(都営三田線白山駅下車すぐ)

◆参加資格:ありません。当日会場へお越しください。(定員約40名)

◆参加費:1000円

◆懇親会:会の終了後に予定しています。

◆主催:日本折紙学会

◆発表者を公募中です。応募資格:折り紙の科学・数学・教育などに関する研究をしていること。特別な資格は不要です。締切:6月9日(日)

連絡先:webman@origami.gr.jp
発表者の募集、最新の情報、および、これまでの会の詳細については、以下をご覧ください。

<http://www.origami.gr.jp/OSME/1306.html>

◆第13回折紙探偵団関西コンベンションレポート

ハインツ・シュトローベル

日本に到着して最初の3日間は時差ボケと戦いながら東京観光をしていました。コンベンションの前月曜日に、山口真さんが私を長野の山の中にある布施知子・島海太郎ご夫妻のご自宅へ連れて行ってくれました。布施さんの新しい本『SPIRAL』を見ながら一緒に長い間折り紙の一時を過ごすなど、布施さん宅に初めて来られたことが大変嬉しく思いました。布施さんのお宅を水曜日に出発し、神戸に車で向かいました。木曜日には四国の和紙工房を訪ね、その晩には神戸牛に舌鼓を打ちました。多少お財布は軽くなりましたが、それだけの価値のある経験でした。

金曜日になり、コンベンションの当日金準備のため朝早くホテルを出発しました。展示の準備をしていました。運搬のために2作品を未完成のままにしていたので、完成させなければいけませんでしたので、1つの作品は今まで完全に仕上げたことが無いものでしたので、最初は組み合わせの内外を間違えたりも

しましたが、最後には完成させることが出来ました。次第に展示室に人が集まってきました。皆さん、私に温かい言葉を掛けて下さり、プレゼントも下さいました。お返しに、私の動く作品を動かしてお見せして皆さん喜んで頂きました。

金曜の午後には12面体を教えました。日本で折り紙を教えたことが無かったので最初は不安でしたが、すぐに不安は吹き飛びました。事前の準備がしっかり出来ており、重要な手順のスライドを見せるためのコンピュータとプロジェクタも整っていました。今回のコンベンションの責任者の立石浩一さんが通訳を引き受けてくださいました。これ以上のことは滅多にあるものではありません。時間が残念ながら少し足りませんでしたので、全員が完成するまでに予定より少し時間がかかりました。しかし、コンベンションが終わる頃には、全員が作品を完成させていました。

土曜の朝には「Wobbling Wall (揺れる壁)」を教えました。これは動

かして遊ぶ作品でしたので、生徒さんも楽しんでおられました。午後の講演では、私の折り紙歴に加えて、最近の私の作品に関わる120胞体の投射などの幾何学的トピックについて話しました。日本語への同時通訳もして下さいました。これは面白い経験をしたと思います。

日本の折り紙コンベンションに海外招待作家として来させて頂くことは大変名誉なことで、一生忘れることはないでしょう。参加者の皆さんとずっと私の作品と経験が共有できたことと思っています。沢山のひととお会いし、沢山のことを学びました。コンベンションスタッフの皆さん、通訳者の皆さん、立石さん、そして日本折紙学会に、今回の旅を可能にいただいたことを心より感謝致します。そして、ジェイソン・クーさん、松浦さん、山口さんに、滞在中にいろいろとお気遣いいただいたことを感謝致します。

(翻訳:立石浩一)

(関西コンベンションの写真は、P.22-23に掲載されています。併せてご覧ください)

◆AEPサラゴサコンベンション2013レポート

柏村卓朗

とにかく料理が美味しかったが、美食探偵団ではないのでグルメレポートは省略。今年の開催地はサラゴサである。4月25日から28日午前の間、ホテルを借りて行われた。同時に第1回欧州折紙会議も開催され、欧州を中心に200人ほどが集まった。

食事の時間がしっかりと確保され、ほぼ全員参加なので、相席になれば交流の輪を広げることが出来る。また大きなフリースペースが用意され、ミニ講習が随時発生する。ゲストとしてスペイン国内から、Carlos Gonzalez(通称Halle)氏とVictor Coeurjoly氏が、国外からはチリよりNicolas Gajardo氏と筆者が参加した。

サラゴサには近々、折紙ミュージアム(ESCUELA MUSEO ORIGAMI ZARAGOZA:EMOZ)が開館予定である。それに先駆けて、展示内容の公開が行われた。海と洞窟(?)を表現したコーナーはFloderer氏が中心となって、スペイン折紙協会によって制作された。クランプリング(紙を皺々にする技法)による壁面の表現、抽象的なオブジェの数々、そして送風による揺らぎ等、折紙によって空間が表現されていた。制作時のビデオも公開され、ウェットフォールディングを除草剤散布機で行い、足踏みポンプで作品を膨らます様子は可笑しくもまた作品の大きさを示していた。

日本でもクランプリングはFloderer氏

の貢献で有名であるが、恥ずかしながら私はVictorのバラで初めて体験した。工程が進むにつれて、折るのが楽になるのは不思議な感覚である。Nicolasとは互いに手の内を見せ合うはずだったが、ほとんどNicolasの情報公開になった。一つの作品ごとに新規のアイデアを加えていくのが素晴らしい。そしてORIPAというコンプレックス折紙共通言語に感謝。Halle氏とはほとんど話せなかった。また次の機会に。

また各ゲストによるプレゼンも行われた。Halle氏に代わってMorillon氏によるEMOZの説明、VictorとNicolasからは創作法に関する発表、筆者は大学折紙サークルについて発表を行った。協力して頂いた京都学生折紙サークルcolorfulと東工大折紙同好会、群馬大折紙研究会Origin、折紙サークルOristにこの場を借りてお礼申し上げる。

最後にスペイン折紙協会とコンベンション関係者、おりがみはうす皆様、始終お世話になった宮本様に感謝の意を表す。(AEPコンベンションの写真は、P.25に掲載されています)

東京友の会 ※折紙は各自持参

会場=JOASホール/参加費=大人500円(中学生以下300円)/時間=14:00~16:00/研究会=16:00~(開場は13:45)

●6月1日(土)/講師:小野友彰/作品:アメリカン・コッカー・スパニエル

●7月6日(土)/講師:未定/作品:未定

静岡友の会 ※折紙は各自持参

会場=「紙友館ますたけ」増武ビル3F/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=10:30~15:00

※昼食は各自ご用意下さい。会場は土足禁止です。各自上履き(スリッパ等)をご持参下さい。

●6月2日(日)午前/講師:鈴木美恵子/作品:でで虫(かやら草より)、午後/情報交換会等

東海友の会 ※折紙は各自持参

会場=名古屋芸術大学 西キャンパスA棟303号室/参加費=大人500円(中学生以下は200円)/時間=13:00~16:30

●ORIGAMI TANTEDAN MAGAZINE / No.139 / Published on 25, May 2013 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216 Hakuon Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "Motorcycle" Produced by Itagaki Yuichi / Photographed by ORIGAMI HOUSE / Publisher: Nishikawa Seiji / Editor in Chief: Yamaguchi Makoto / Editor: Matsuura Eiko, Kamaya Satoshi / Editorial Design: ORIGAMI HOUSE / Translator: Tateishi Koichi

JOASホール今後の予定

※それぞれ定員になり次第締め切ります

◆「Jason Ku 特別講習」

6月8日(土)/講師=ジェイソン・クー/講習作品=自転車(写真はP.25)/参加費=2,000円/11:00~16:00/定員=28名

◆「知子の部屋」

6月15日(土)/講師=布施知子/参加費=2,500円/12:30~16:00/定員=28名/アットホームな雰囲気のある教室で、どなたでもご参加頂けます。15cmの折り紙持参。

◆「実用折り紙教室」

7月11日(木)/参加費=1,500円(材料費別)/11:00~16:00/講習内容=アーティスト・トレーディングカード作りと折り紙の情報交換等/講師=松浦英子/定員=20名/お茶を飲みながらの気やかな集まりです。初心者大歓迎。

◆「ある折り紙作家の教室」

7月14日(日)、7月21日(日)(2日とも同じ内容)/講師=神谷哲史/講習作品=ウシ(写真はP.25)/参加費=3,000円/11:00~16:00/定員=28名

※小学生の方が参加される場合は、必ず保護者の同伴をお願いします。

※会場へは参加者および同伴者(会場費500円が必要)のみ入場可能です。

参加のお申し込みはFAX(03-5684-6080)又は、メールinfo@origamihouse.jpで氏名、住所、Email、電話番号、参加希望教室名、希望日をお知らせください。

編集後記

■編集部の手違いで布施さんのページが飛んでしまった。■布施さんのページを楽しみにしている読者の皆さんには、お詫びを申し上げます。■今号からカラーページが増えました。■如何でしょうか。■我楽多市とカニの折り図の量が多くレイアウトには手を焼いた。■自然と図が縮小されるはめになってしまふ。■今年のOUSAのコンベンションには、本誌誌上でも活躍している若手が5名参加する。■若手には吸収する事が多い様になってほしい。■今号が出る頃は佐賀、6月はNY、8月はKorea、10月はPCOC(USA)、いずれもコンベンション。■同遊魚のようなコンベンション巡りはまだまだ続くようだ。(や)

日本折紙学会公式HP

折紙探偵団 <http://www.origami.gr.jp/>

折紙探偵団マガジン

2013年5月25日発行 第24巻1号 通巻139号
発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子、神谷哲史

デザイン/おりがみはうす

翻訳/立石浩一

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

おりがみはうす商品案内

website = <http://www.origamihouse.jp/>
E-mail = info@origamihouse.jp
このページの商品の取扱いはすべておりがみはうすです。
日本折紙学会とは別になります。

ATTENTION! : This advertisement is for Japan-internal use only.
For overseas shipment, please refer to the OrigamiHouse Web Site.



神谷哲史作品集2

神谷哲史・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 16作品収録

好評発売中!

コンプレックス折り紙界の最先端を走り続ける神谷氏の、約8年ぶりとなる作品集。描き下ろしの「フェニックス」をはじめ、レア度の高かった折り紙教室向けの折り図を含む16作品を収録。一層難易度を増した作品があなたの挑戦を待ち受ける!



第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.18

日本折紙学会 編 / 2,200円 / 送料420円
B5判 / 全272頁 / 48作品収録

16P 増量!

ミルフィオリ: 川村みゆき、チャボ: 北條高史、にんじん: 前川 淳、キリン: 萩原 元、ヘラクレスオオカブト: 神谷哲史、ミサゴ: クエンティン・トロリップ、オニオオハシ: ホアン・ティン・クエット、ピクセルユニットのきつね: マックス・ヒューム等、国内外の48作品を収録。



小松英夫作品集

小松英夫・著 山口真・編 立石浩一・翻訳
4,000円 / 送料420円 / B5判 /
全232頁 / カラー口絵8頁 / 20作品収録

折り図も一つの作品として捉え、常に新しい表現方法を追求する小松英夫氏の作品集が、満を持して登場! 「ライオン」「道化師2」など描き下ろし作品4点の他、過去に発表された作品もさまざまな形でリニューアル。シンプルからコンプレックスまで20作品を収録。

書籍名 / 著者・編者	価格(税込)	送料	内容
神谷哲史作品集 神谷哲史 著 山口真 編 立石浩一 訳	4,000円	国内一律 1冊 420円 (梱包込)※ 複数冊は 異なります	B5判 / 全228頁 / カラー口絵4頁 / 19作品収録 超複雑系折り紙の創作活動8年間の集大成。
西川誠司作品集 西川誠司 著 山口真 編 立石浩一 訳	3,200円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 32作品収録 シンプルからコンプレックスまで幅広く楽しめる本
折紙図鑑「昆虫2」 ロバート・J・ラング 著 山口真 編 立石浩一 訳	3,500円		B5判 / 全196頁 / カラー口絵4頁 / 18作品収録 初心者お断り、世界で一番難しい昆虫折り紙の本
面~The Mask~ 布施知子 著 山口真 編	3,300円		B5判 / 全200頁 / 全27作品カラー写真紹介 作者がユニットに出会う前の、お面だけの作品集
エリック・ジョワゼル ~折り紙のマジシャン~ 山口真 編著 立石浩一 訳	4,800円		B5判ハードカバー全144頁 / カラー80頁 2010年に逝去したジョワゼル氏の作品写真集
第17回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.17 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録
第18回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.16 日本折紙学会 編	2,000円		B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作47作品を収録
第11回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.11 日本折紙学会 編	2,000円	B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作55作品を収録	
第10回折紙探偵団 コンベンション 折り図集vol.10 日本折紙学会 編	2,000円	B5判 / 全256頁 国内・外から集まった秀作50作品を収録	

書籍2冊の送料は530円です。3冊以上は本によって異なりますので、お問い合わせください。書籍と紙、Tシャツなどはそれぞれ別発送となります

商品名	価格(税込)	送料	内容
恐竜柄おりがみ用紙	1,000円	1~2セット 440円	35x35cm / 10枚入り / 70kgの洋紙(コルキー)に細かな恐竜柄を印刷
恐竜柄おりがみ用紙 折り図つきセット	1,200円		恐竜柄おりがみ用紙+ドラゴン(北條高史作)の折り図セット
「折紙探偵団マガジン」専用ファイル	750円	1冊250円 2冊350円	193x268x28mm / 箔押しロゴ入り / 「折紙探偵団マガジン」1年分(6冊)と、会員特別配布資料が収納可能なプラスチックファイル

※PayPalによるお支払いも可能です。詳細は公式HP <http://www.origamihouse.jp>まで

GALLERY ギャラリー **おりがみはうす**
〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL:(03) 5684-6040 FAX:(03) 5684-6080
E-mail: info@origamihouse.jp
月~金 12時~16時 土・日・祝 10時~16時

折り紙用紙専門のオンラインショップ!
(株)トーヨーの商品を中心とした豊富な品揃えです。
<http://origamihouse.store-web.net/>
※本ページ商品は取り扱いしておりません。ご注意ください

商品のお申し込み方法

先に郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)をお送り下さい。入金を確認後、商品を発送させていただきます。ご希望の商品名と連絡先の記入(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入)をお忘れのない様お願いします。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

※折紙探偵団の購読申込みとは別の口座です。くれぐれもご注意ください。
※郵便振替用紙は郵便局備え付けのものをご利用ください。
※現金書留の場合は左記の住所へお送りください。
※商品のお届けは通常、送金から約1週間~10日です(お盆・年末年始を除く)。
※商品名、数量及び料金をよくお確かめの上ご注文ください。

■商品を複数ご注文の場合は、送料が変わってきます。電話又はメールでお問い合わせください。

広告有効期限:2013年7月25日

かわいいスイーツをつくろう!!

おりがみ

パティエ



 **株式会社トイヨー**
ホームページ <http://www.kidstoyo.co.jp>

●写真は印刷でのため実際の商品とは色は違う場合があります。
※表示価格には消費税は含まれておりません。※内容・デザインは一部変更になることがあります。
本社 〒120-0044東京都足立区千住緑町2-12-12 TEL03-3882-8161
大阪支店 / 名古屋営業所 / 福岡出張所 / 札幌出張所